PENTAX

デジタルカメラ

Optio W60

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラOptioW60をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、OptioおよびオプティオはHOYA株式会社の登録商標です。
SDHCロゴは商標です。
本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンタでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンタでは、一部機能が反映されません。「PRINT Image Matching」、「PRINT Image Matching II」、「PRINT Image Matching III」に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本説明書ではSDメモリーカードならびにSDHCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

- カメラを分解・改造などしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止してバッテリーを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

注意

- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI78 以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、破裂の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こした時は、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

- 指定された電源以外の電圧で使用しないでください。指定以外の電源・電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。AC指定電圧は、100-240Vです。

- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- AC コードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理にまげたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、AC コードの接続部をショートさせたり、さわったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI78 以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や、充電器の故障の原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 破損や故障、また防水機能が損なわれる原因となりますので、強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動からは、クッションに包むなどして保護してください。万が一、強い振動・ショック・圧力などが加わってしまったら、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- カメラの使用温度範囲は-10℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.33）をご覧ください。
- SDメモリーカードに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用す

ると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり画像モニターが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ネジの締め過ぎに十分ご注意ください。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC78専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。
- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
  またバッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、電池寿命短縮の原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをおすすめします。

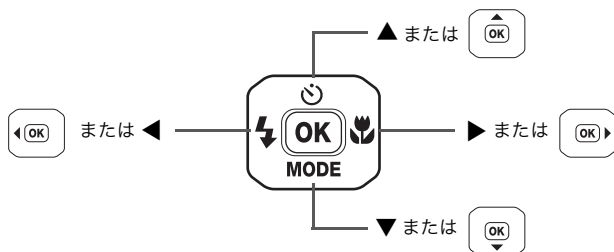
防水・防塵機能について

- このカメラはJIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級5級（IP58）準拠の防水・防塵機能を備えたカメラです。
- このカメラは、防水性能を高めるために、レンズ正面に保護ガラスを配置しています。保護ガラスが汚れていたり、水滴が付いていると、撮影した画像に影響を与えますので、保護ガラスは常にきれいな状態を保つようにしてください。
- 浜辺などでカメラを砂の上に置いたままにすると、カメラの使用温度を超えたり、スピーカーやマイクに砂が詰まることがあります。
- このカメラは水中では沈みますので、必ずストラップを取り付け、使用する際は腕に巻いて落ちないように注意してください。
- 水中や浜辺など、カメラが濡れたり汚れる環境でお使いになる場合は、必ずバッテリー／カード／端子カバーが確実にロックされていることを確認してからご使用ください。カメラの内部に水・砂・泥が入ると故障の原因になります。また使用後は、カメラに付いた水滴や汚れを早いうちに乾いた布できれいに拭き取ってください。
- 海上や海辺でのバッテリー／カード／端子カバーの開閉はなるべく避けてください。なおバッテリーやSDメモリーカードを交換する際は、完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから行ってください。

- 汚れのひどいときや海水がかかったときは、電源が切れていること、バッテリー／カード／端子カバーが確実に閉まっていることを確認してから、水道水を少し流しながら水洗いするか、底の浅い洗面器などに真水をため、短時間（2～3分）でカメラをつけ置き洗いしてください。
- 石けん水・中性洗剤・アルコールなどでの洗浄は防水効果を損ないますので避けてください。
- 防水パッキンやパッキンの当たる面にゴミや砂が付いたときは、よく拭き取ってからご使用ください。パッキンやパッキンの当たる面に傷が付いていたり、へこんだり、パッキンがはがれると防水機能が損なわれます。このような場合は、当社のサービス窓口にご相談ください。
- カメラの防水性能を維持するために、1年に1度は防水パッキンの交換をお勧めします。パッキンの交換については、当社のサービス窓口にご相談ください。（有料）
- カメラに強い振動・ショック・圧力などが加わると、防水性能が損なわれる原因となります。もし強い振動・ショック・圧力が加わってしまった場合は、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- 日焼け止めやサンオイルが付着すると、カメラの表面が変色することがあります。万が一付着させてしまった場合は、速やかにぬるま湯で洗い流してください。
- 本製品の付属品には防水機能はありません。

目次

撮影 64

本書では、十字キーの操作を次のように表記しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
📷モード	静止画と動画の撮影、音声の録音をするモードです。本書では、静止画を撮影するモードを「静止画撮影モード」、動画を撮影するモードを「🎥モード」、音声を録音するモードを「🎙モード」と分けて表記します。
▶モード	静止画と動画、音声を再生するモードです。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 準備

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作について説明しています。撮影をはじめる前に必ずお読みになり、操作を行ってください。

2 クイックスタート

一番簡単な撮影方法と再生方法を説明しています。すぐに撮影、再生したいときは、このページをご覧ください。

3 機能共通操作

各ボタンの機能、メニューの設定方法など、各機能に共通する操作について説明しています。詳しい内容は、4章以降をご覧ください。

4 撮影

さまざまな撮影の方法や、撮影に関する機能の設定方法について説明しています。

5 画像の再生と消去

静止画や動画をカメラやテレビで再生する方法、カメラから消去する方法について説明しています。

6 画像の編集と印刷

撮影した静止画を印刷するためのさまざまな方法や、カメラで編集する方法について説明しています。撮影した画像のパソコンへの保存方法とACDSee for PENTAXのインストール方法に関しては別紙の「PC接続ガイド」を、パソコンでの画像の加工や印刷方法に関してはACDSee for PENTAXのヘルプをご覧ください。

7 音声の録音と再生

音声の録音や静止画像に音声（ボイスメモ）を追加する方法、音声の再生のしかたを説明しています。

8 設定

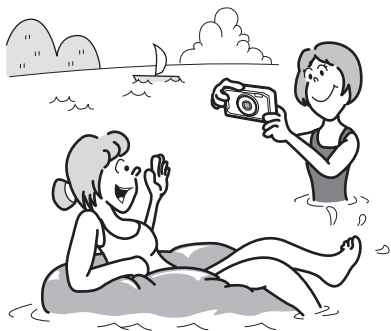
カメラに関する機能の設定方法について説明しています。

9 付録

困ったときの対処のしかたや、別売品の案内などをしています。

このカメラの楽しみ方

Optio W60では、一般的な写真撮影のほか、いろいろなシーンに応じたバリエーションに富んだ撮影方法をお楽しみいただけます。ここでは、Optio W60の特長的な楽しみ方をご紹介しましょう。操作説明のページもあわせてご覧いただき、ぜひOptio W60の楽しさを味わってみてください。

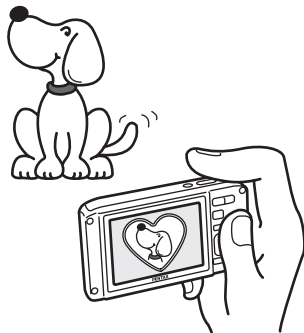
水中撮影、水辺での撮影もOK！

Optio W60は、防水・防塵機能を備え、レンズのカバーガラスに撥水コーティングを施していますので、水深4mで連続2時間の水中撮影が楽しめるほか、水しぶきを浴びたり、砂浜やキッチンなど、ホコリをかぶったり汚れやすい場所でも安心して使えます。またバッテリー／カード／端子カバーにロック機構を採用していますので、しっかりロックしておけば、水中でも安全にお使いいただけます。

- **浅瀬でのシュノーケリングなどの際の水中撮影に。（p.69）**
- **川や湖、プールなど、水辺のレジャーでの撮影に。**
- **ちょっと汚れても水拭きOKだから、いろいろなアウトドアシーンでの撮影に。**

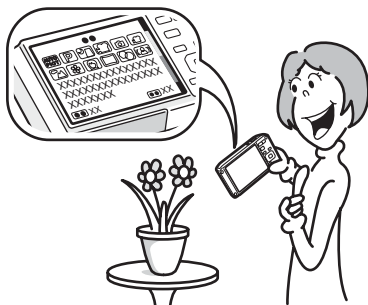
動画撮影の機能が充実！

Optio W60では、1280×720ピクセル、フレームレート15fps、横縦比16：9のハイビジョン動画記録ができるほか、動画撮影時の手ぶれ補正機能（Movie SR）や、動画撮影中に大事なシーンを静止画で撮影する機能など、動画撮影を楽しむための機能も満載です。

- **雄大な大自然など、高画質で残しておきたい風景はハイビジョン動画で。**
  [動画の記録サイズとフレームレートを選択する（p.129）]
- **運動会で、ぶれを気にせず躍動感あふれる動画撮影。走っている姿は動画で。ゴールインする一瞬の感動は逃さず静止画で撮影。**
  [動画の手ぶれ補正を設定する（p.132）]
  [動画の撮影中に静止画を撮影する（p.128）]

いろいろなフレームと合成して撮れる！

Optio W60では、写真を撮るときにたくさんの種類の中から好みのフレームを1つ選んで合成することができます。（p.71）撮影した写真に後からフレームを合成するのも、もちろんOK！フレームの形や大きさに合わせて被写体の位置を微調整したり、写真を縮小・拡大して合成することもできます。フレームと被写体のバランスが微妙に合わない・・・なんていうことはありません。（p.169）

- **フレームを使った記念写真に。**

撮影も再生も、カメラがナビゲートしてくれる！

Optio W60は、少ないボタンで操作ができるカンタン設計。いろいろな撮影シーンで最適な設定を選べる「撮影モード」（p.56）も、再生・編集を楽しむための「再生モード」（p.138、p.160）も、わかりやすいアイコンを選ぶだけでOK。各モードの機能や使い方も、画像モニターに表示されるガイドで確認できる親切設計です。（p.56、p.62）

- **モードパレット表示時にモードを選ぶと、ガイドを表示。（p.56、p.62）**
- **グリーンモードを使うと、標準設定で手軽に撮影可能。（p.66）**

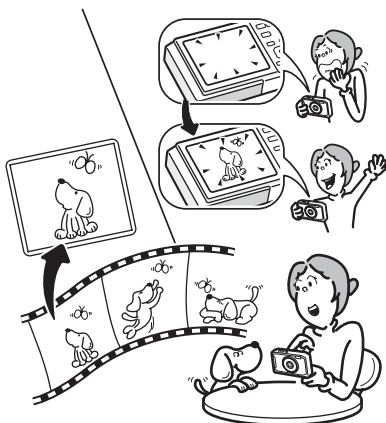
カレンダー形式で表示できる！

Optio W60では、撮影した画像や録音した音声を日付ごとにカレンダー形式で表示できます。（p.140）再生したい写真や音声を、すばやく見つけることができます。

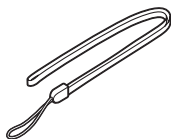
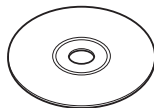
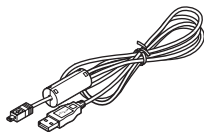
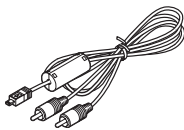
いつでも身近に持ち歩ける！

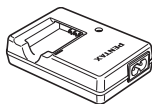
Optio W60はスポーティでシャープなデザイン。携帯性もバツグンだから、カバンのポケットに入れたり首から下げたり、携帯電話のような感覚でいつでも身近に持ち歩けます。また、ちょっと時間を知りたいときに役立つ「スタイルウォッチ」機能を装備。(p.206)

パソコンなしでも、カメラの中で楽しめる様々な機能が充実！

Optio W60では、パソコンに接続し画像の転送を行わなくても画像の再生や編集などが楽しめる様々な機能が充実。パソコンを起動するのが面倒だな、というときなどでも、これ一台で撮影から画像加工、動画の編集まで楽しんでいただけます。(p.160)また、うっかり画像を削除してしまったとき、復活が可能なのも、Optio W60ならでは。(p.157)

- **カメラでの画像再生時に、リサイズ(p.160)、トリミング(p.162)、赤目補正(p.168)が可能。**
- **動画の分割、動画から静止画を取り出すといった動画編集が可能。(p.171)**

主な同梱品の確認

本体
Optio W60

ストラップ
O-ST20（※）

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW81

USBケーブル
I-USB7（※）

AVケーブル
I-AVC7（※）

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI78（※）

バッテリー充電器
D-BC78（※）

ACコード（※）
D-CO24J

PC接続ガイド

使用説明書
（本書）

簡単ガイド

保証書

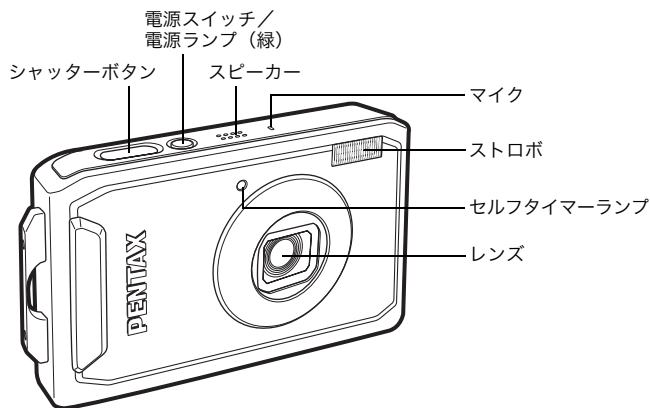
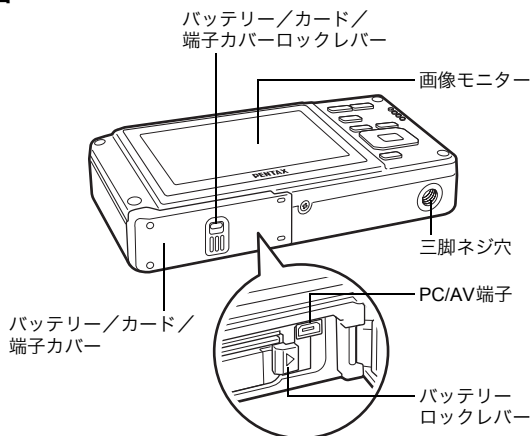
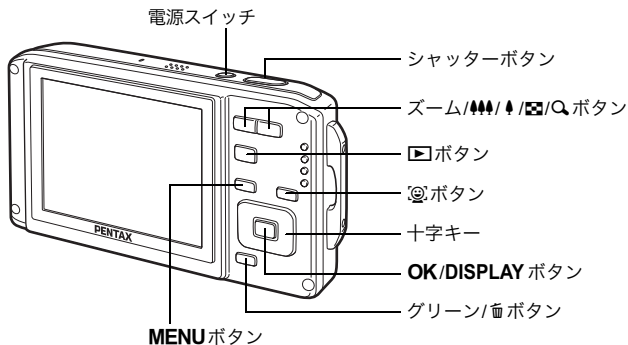
（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。
（バッテリー充電器とACコードはセット(バッテリー充電器キット K-BC78J)でのみの販売となります。）
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.217）をご覧ください。

各部の名称

前面

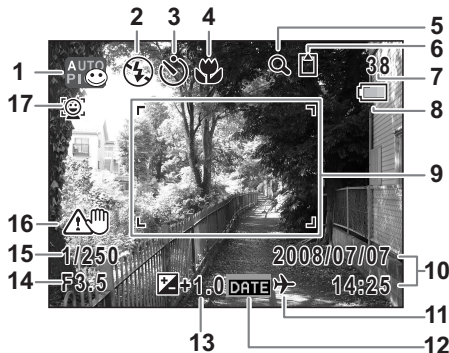
電源スイッチ／
電源ランプ（緑）
シャッターボタン
スピーカー
マイク
ストロボ
セルフタイマーランプ
レンズ
PENTAX

背面

バッテリー／カード／
端子カバーロックレバー
画像モニター
PENTAX
三脚ネジ穴
PC/AV端子
バッテリー／カード／
端子カバー
バッテリー
ロックレバー

操作部の名称

各ボタンの機能は、「ボタンの機能を使用する」（p.47〜p.50）をご覧ください。

画面の表示

静止画撮影モード 通常表示

撮影条件などを表示します。（p.97）

1 撮影モード（p.56）
2 ストロボモード（p.101）
3 ドライブモード（p.87～p.92）
4 フォーカスモード（p.99）
5 デジタルズーム表示
およびインテリジェントズーム表示（p.93）
6 メモリー状態表示（p.37）
   ：内蔵メモリー(カードなし)
   ：SDメモリーカード
   ：SD メモリーカードロック状態
7 撮影可能枚数
8 バッテリー残量表示（p.28）
9 フォーカスフレーム（p.43）
10 現在の日時（p.41）
11 ワールドタイム設定中（p.193）
12 日付写し込み設定中（p.124）
13 露出補正値（p.96）
14 絞り値
15 シャッタースピード
16 手ぶれ警告表示（p.97）
（手ぶれしやすい条件のとき）
17 顔認識アイコン（p.59）

※ 14、15、16は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。
※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

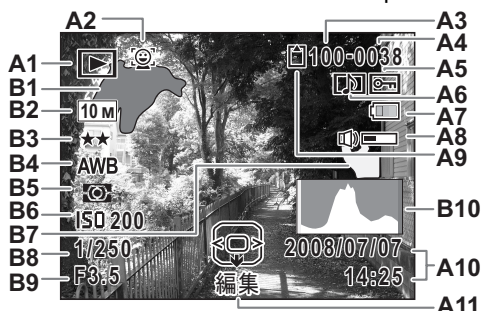
静止画撮影モード ヒストグラム＋情報表示

1 白とび（赤で点滅）
2 黒つぶれ（黄色で点滅）
3 手ぶれ警告表示（p.97）
（手ぶれしやすい条件のとき）
4 シャッタースピード
5 絞り値
6 記録サイズ（p.103）
7 画質（p.105）
8 ホワイトバランス（p.106）
9 測光方式（p.108）
10 感度（p.110）
11 ヒストグラム（p.98）

※ 3、4、5は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。
※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

「白とび」「黒つぶれ」表示について
被写体の中で明るすぎて白くとんでしまう部分がある場合、その部分が赤の点滅で警告表示されます。また暗すぎて黒くつぶれてしまう部分がある場合、その部分が黄色の点滅で警告表示されます。

静止画再生モード フル表示
（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

撮影条件などを表示します。A1～A11は「通常表示」、「ヒストグラム＋情報表示」のいずれの場合も表示されます。B1～B10は「ヒストグラム＋情報表示」のときにのみ表示されます。（p.144）

A1 再生モード表示
　▶：静止画像（p.62）
　手ぶれ補正可能（p.145）
A2 顔認識アイコン（p.59）
A3 フォルダ番号（p.196）
A4 ファイル番号
A5 画像プロテクト表示（p.158）
A6 ボイスメモ表示（p.185）
A7 バッテリー残量表示（p.28）
A8 音量表示
A9 メモリー状態表示（p.37）
　：内蔵メモリー（カードなし）
　：SDメモリーカード
　：カードロック状態
A10 撮影日時（p.41）
A11 十字キーガイド表示
B1 白とび（赤で点滅）（p.22）
B2 記録サイズ（p.103）
B3 画質（p.105）
B4 ホワイトバランス（p.106）
B5 測光方式（p.108）
B6 感度（p.110）
B7 黒つぶれ（黄色で点滅）（p.22）
B8 シャッタースピード
B9 絞り値
B10 ヒストグラム（p.98）

- A7、A10は通常表示時にボタン操作を2秒間何も行わないと消えます。
- A11は「情報表示なし」時でも表示されますが、ボタン操作を2秒間何も行わないと消えます。また「通常表示」「ヒストグラム+情報表示」時にボタン操作を2秒間何も行わないと、「編集」の文字のみ消えます。

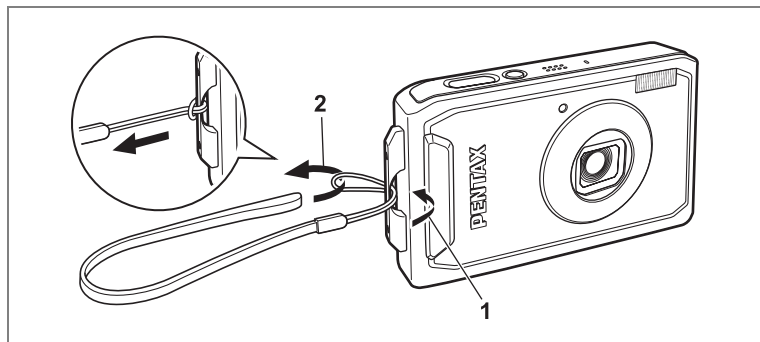
ガイド表示について

操作中は画像モニターにボタン操作のガイドが表示されます。
ガイド表示では、ボタンは次のように表されます。

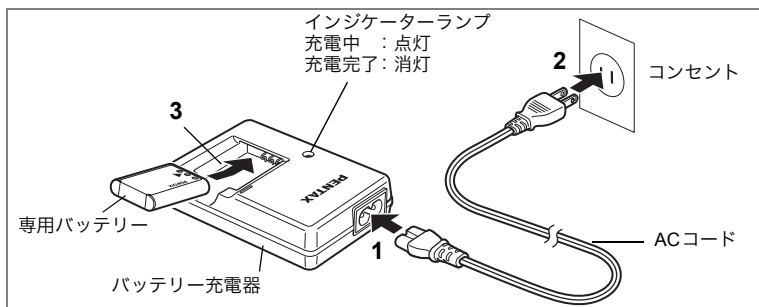
十字キー（▲）	▲
十字キー（▼）	▼
十字キー（◀）	◀
十字キー（▶）	▶
MENUボタン	MENU

ズームボタン	🔍
OK/DISPLAYボタン	OK
シャッターボタン	SHUTTER
グリーン/🗑ボタン	●、🗑
顔ボタン	顔、顔

ストラップを取り付ける

付属のストラップ（O-ST20）を取り付けます。

1　ストラップの細いひもの部分を、本体のストラップ取り付け部に通す

2　ストラップ端を細いひもの輪にくぐらせて引き締める

電源を準備する

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1　バッテリー充電器D-BC78にACコードを接続する

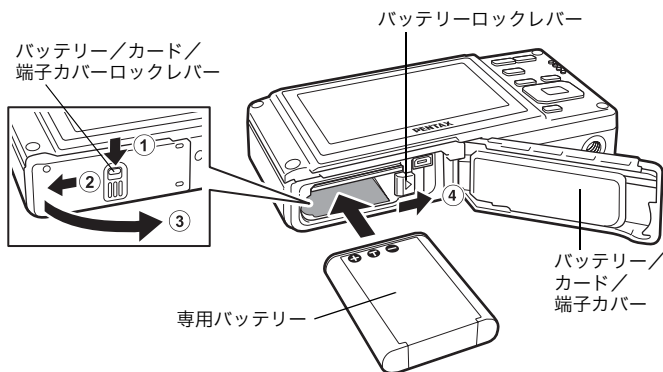
2　ACコードをコンセントに差し込む

3　専用バッテリーをPENTAXロゴ面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4　充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

- 充電時間は、最大で約150分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください。（周囲の温度や充電状態によって異なります。）
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

- 付属のバッテリー充電器では、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI78以外のバッテリーは充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーをセットする

専用バッテリーをセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1　バッテリー／カード／端子カバーを開ける

①の方向にバッテリー／カード／端子カバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

2　バッテリーの PENTAX ロゴ面をカメラのレンズ側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印④の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

注意　バッテリーは、必ずPENTAXロゴ面をカメラのレンズ側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると、カメラの電源が入らないだけでなく、故障の原因にもなります。

3　バッテリー／カード／端子カバーを閉じる

バッテリー／カード／端子カバーを②と反対方向にスライドさせ、カチッと音をたててロックされたことを確認します。

バッテリーを取り出す

1　バッテリー／カード／端子カバーを開ける

2　バッテリーロックレバーを矢印④の方向に押す

バッテリーが少し飛び出すので、落とさないように気を付けて引き抜いてください。

- バッテリー／カード／端子カバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。
- バッテリー／カード／端子カバーを閉じるときは、ロックがしっかりされていないと、カメラ内部に水・砂・泥が入る原因となります。
- このカメラの専用バッテリーは、充電式リチウムイオンバッテリーD-LI78です。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源がオンのときはバッテリーを取り出さないでください。
- バッテリーを半年以上の長期保存する場合には、専用充電器で30分程度充電し、本体から取り外した状態で保管してください。
  その後、半年から１年毎に再充電してください。また、できるだけ室温以下を保持できるような場所が望ましく、高温になる場所は避けてください。
- バッテリーを長時間取り出していると、日時の設定がリセットされることがあります。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- バッテリーを交換する際は、カメラが完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから行ってください。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。

- **静止画撮影可能枚数と動画撮影、音声録音、再生時間の目安**
  （23℃・画像モニター点灯・専用バッテリーフル充電時）

静止画撮影可能枚数※1 （ストロボ使用率50%）	動画撮影時間※2	音声録音時間※2	再生時間※2
約205枚	約75分	約240分	約200分

※1：撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニターON、ストロボ使用率50%、23℃）
※2：時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

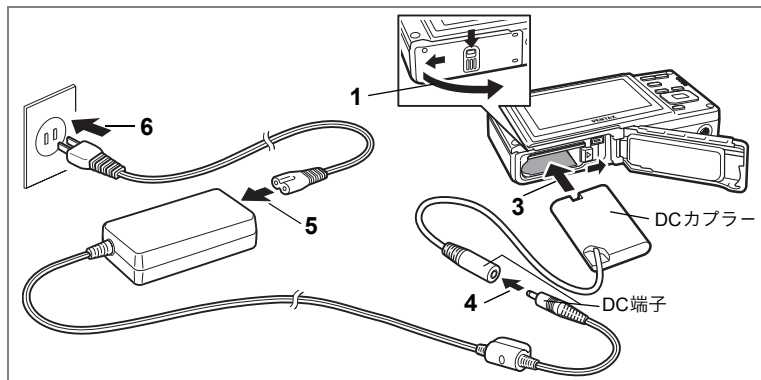
- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のおでかけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

- **バッテリーの残量表示**

画像モニターに表示された▭で、バッテリーの残量を確認できます。

画面表示	バッテリーの状態
▭（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
▭（緑）	少し減っています。
▭（黄）	だいぶ減っています。
▭（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源がオフとなります。

● リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープをはって、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプターを使用する

長時間ご使用になるときや､パソコンと接続するときは､ACアダプターキットK-AC78J（別売）のご使用をおすすめします。

1　カメラの電源が切れていることを確認してから、バッテリー／カード／端子カバーを開ける

2　バッテリーを取り出す

バッテリー／カード／端子カバーの開け方と､バッテリーの取り出し方は、p.26～p.27を参照してください。

3　DCカプラーを挿入する

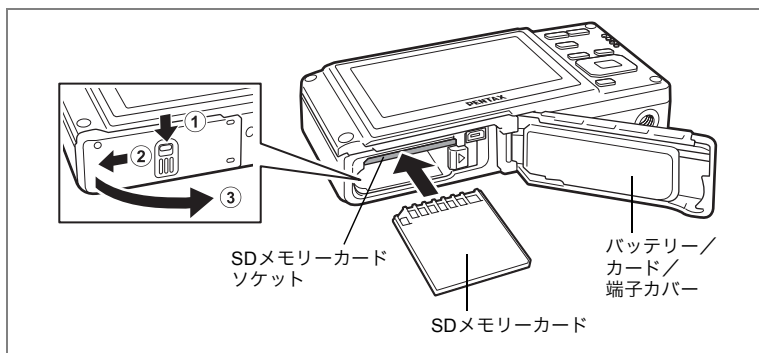
DCカプラーの側面でバッテリーロックレバーを押しながら挿入し、挿入後はDCカプラーがロックされたことを確認してください。
DCカプラーを挿入すると、バッテリー／カード／端子カバーは閉じなくなります。ACアダプター使用中は開けたまま、無理に閉じないでください。

4　DCカプラーのDC端子に、ACアダプターのDC端子を接続する

5　ACコードをACアダプターに接続する

6　電源プラグをコンセントに差し込む

- AC アダプターの接続や取り外しは、必ず電源がオフの状態で行ってください。
- 電源および接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SD メモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「ご注意ください」(p.1) をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC78Jの使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプター接続時は、DCカプラーのコードがカメラ底面から引き出されるため、卓上などにカメラを立てて置くことができません。
- バッテリー／カード／端子カバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。

SDメモリーカードをセットする

このカメラでは、SDメモリーカードをご使用いただけます。撮影した画像や録音した音声はカメラにセットしたSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます。(p.37)

- **未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットについては「SDメモリーカードをフォーマットする」(p.186）をご覧ください。**
- SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源がオフの状態で行ってください。
- SDメモリーカードを交換する際は、カメラが完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから行ってください。
- バッテリー／カード／端子カバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。

- 撮影できる静止画の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズ、画質によって異なります。(p.34)
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのおすすめ
内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをおすすめします。

1 バッテリー／カード／端子カバーを開ける

①の方向にバッテリー／カード／端子カバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

2 SDメモリーカードのラベル面をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードは奥までしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、画像や音声が正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー／カード／端子カバーを閉じる

バッテリー／カード／端子カバーを②と反対方向にスライドさせ、カチッと音をたててロックされたことを確認します。

SDメモリーカードを取り出す

1 バッテリー／カード／端子カバーを開ける

2 SDメモリーカードを中に押し込む

SDメモリーカードが少し飛び出しますので、そのまま引き抜いてください。

バッテリー／カード／端子カバーを閉じるときは、ロックがしっかりされていないと、カメラ内部に水・砂・泥が入る原因となります。

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまで保存したデータはカメラやパソコンでの削除やフォーマットができなくなります。
  画像モニターではと表示されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへの画像・音声の記録中や、再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影、再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

静止画の記録サイズと画質

撮影する静止画の「記録サイズ」（横×縦の大きさ）と「画質」（画像記録時のデータ圧縮率）は、撮影後の画像の用途に応じて設定します。
「記録サイズ」や「画質」を大きい値に設定するほど鮮明な画像になります。ただし、画像の容量が増えるので、撮影できる枚数（カメラの内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録できる枚数）は少なくなります。
なお、撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さには、画質設定や露出補正などの撮影時設定、あるいは使用するプリンターの解像度なども関係してきますので、記録サイズをむやみに大きくする必要はありません。はがきサイズにプリントする場合は、3M（2048×1536）程度が目安となります。下の表を参考に、用途に応じて適切な「記録サイズ」と「画質」を設定してください。

● 選べる記録サイズと適した用途

記録サイズ		用途
10M 3648×2736	↑ 鮮明、きれい	フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
7.5M （16:9） 3648×2056		ハイビジョンTVと同じアスペクト比による、自然な広がり感の表現など
7M 3072×2304		
5M 2592×1944		
3M 2048×1536		はがきサイズプリントなど
1280 1280× 960		
1024 1024× 768		
640 640× 480		ホームページ掲載、電子メール添付など

初期設定では、10M（3648×2736）が選択されています。

- 7.5Mを選ぶと、画像の横縦比が16：9になります。
- 1280（1280×960）は（CALS）モード（p.58）設定時だけの記録サイズです。

● 選べる画質と適した用途

★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

初期設定では、★★（ファイン）が選択されています。

静止画の「記録サイズ」と「画質」の設定は、「📷撮影」メニューで行います。

記録サイズを選択する ☞p.103

画質を選択する ☞p.105

● 記録サイズ／画質と撮影可能枚数の目安

	★★★（S.ファイン）		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB
10M 3648×2736	9枚	117枚	17枚	228枚	24枚	321枚
7.5M （16:9）3648×2056	12枚	156枚	22枚	287枚	29枚	377枚
7M 3072×2304	12枚	157枚	22枚	287枚	29枚	377枚
5M 2592×1944	14枚	188枚	27枚	355枚	38枚	503枚
3M 2048×1536	22枚	293枚	44枚	570枚	63枚	816枚
1280 1280× 960	49枚	643枚	86枚	1119枚	116枚	1511枚
1024 1024× 768	75枚	974枚	122枚	1590枚	155枚	2014枚
640 640× 480	155枚	2014枚	233枚	3022枚	259枚	3358枚

- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。
- 1280（1280×960）は（CALS）モード（p.58）設定時だけの記録サイズです。

動画の記録サイズ／フレームレート

撮影する動画の「記録サイズ」と「フレームレート」（1秒間に撮る画面数）の組み合わせを、動画の用途に応じて設定します。
「記録サイズ」を大きい値に設定するほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。
「フレームレート」を大きい値に設定するほど滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。
動画の「記録サイズ／フレームレート」の組み合わせは、「📷撮影」メニューの「動画」で、設定項目「記録サイズ」から選択します。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する ☞p.129

● 選べる記録サイズ／フレームレートの組み合わせと適した用途

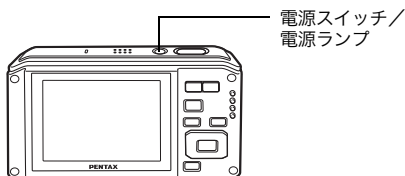
記録サイズ／フレームレート		用途
（1280×720）：15fps	▲	横縦比16：9のハイビジョン動画（※）
（640×480）：30fps	│	テレビやAV機器での動画鑑賞など
（640×480）：15fps	│	
（320×240）：30fps	│	
（320×240）：15fps	▼	ホームページ掲載、電子メール添付など

（※）：再生にはパソコンが必要です。

● 記録サイズ／フレームレートの組み合わせと撮影可能時間の目安

	撮影可能時間		音声録音可能時間	
	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB
（1280×720）：15fps	34秒	7分31秒	28分53秒	6時間14分15秒
（640×480）：30fps	34秒	7分31秒		
（640×480）：15fps	1分8秒	14分48秒		
（320×240）：30fps	55秒	11分59秒		
（320×240）：15fps	1分46秒	22分53秒		

- この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。
- 動画は連続で内蔵メモリー/SDメモリーカードの容量いっぱいまで、または大容量のSDHCカードを使用した場合は、最大で2GBまで撮影可能です。2GB撮影終了後に、再度撮影をし直すことで、引き続き2GBずつ、残りの容量を撮影することができます。
- 「画質」は★★★（S.ファイン）固定です。

電源をオン／オフする

1　電源スイッチを押す

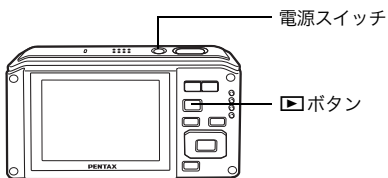
電源がオンになり、電源ランプと画像モニターが点灯します。
カメラの電源を入れたときに、「言語設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.39の手順に従って設定を行ってください。

2　もう一度電源スイッチを押す

電源がオフになり、電源ランプと画像モニターが消灯します。

撮影する ☞p.64

カードチェック

電源をオンにすると、カードチェックが自動的に行われます。SDメモリーカードがセットされていないと、画像モニターに[内蔵メモリーアイコン]が表示されます。その場合、画像や音声は内蔵メモリーに記録されます。
またSDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっていると、[カードアイコン]のかわりに[ロックアイコン]が表示されます。ロック状態では画像や音声の記録はできません。

再生起動モード

再生起動モードは、撮影はせずに、すぐに画像や音声を再生したいときに使用します。

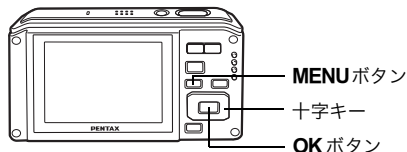
1　▶ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

画像モニターが点灯し、再生モードで起動します。

再生モードで起動後に📷モードへ切り替えるには、▶ボタンを押すかシャッターボタンを半押ししてください。

静止画を再生する ☞p.45

初期設定をする

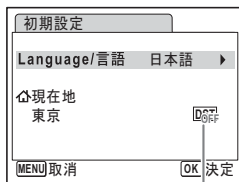
ご購入後、最初にお使いになる前に、まず言語と日時を設定してください。

カメラの電源を入れたときに、「Language/言語」の画面が表示されたら、下記の「言語を設定する」の手順で言語を「日本語」に、「日時を設定する」（p.41）の手順で日時を現在の日時に設定してください。

設定した「言語」と「日時」は後から変更することができます。操作方法は下記のページをご覧ください。
- 言語を変更したいときは：「表示言語を変更する」（☞p.195）
- 日時を変更したいときは：「日時を変更する」（☞p.189）

言語を設定する

1　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

2 OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「現在地」が東京、「夏時間」がDST OFFに設定されていたら、もう一度**OK**ボタンを押して「日時設定」の画面を表示させます。引き続き、「日時を設定する」（p.41）に進んでください。
それ以外の設定になっていたら、「現在地、夏時間の設定をする」（p.41）の手順3に進んでください。

もし誤って日本語以外の言語を選んで次に進んでしまったら、あわてず下記の操作で、まず日本語の表示に設定し直してください。

- **「Language/言語」画面で、日本語以外の言語を選んでOKボタンを押してしまった！**

1 十字キー(▶)を押す
2 十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。

- **手順2で外国語の設定のまま次の画面を表示させてしまった！**

1 OKボタンを押す
2 MENUボタンを押す
3 十字キー（▶）を押す
4 十字キー（▼▲）を押して、「Language/言語」を選ぶ
5 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ
7 OKボタンを押す

日本語の「🔧設定」メニューが表示されます。

ここまでの操作で、「Language/言語」の設定が「日本語」に設定し直されました。「現在地」と「日時」を設定し直す必要がある場合は、下記のページをご覧になって、「現在地」を「東京」に、「日時」を現在の日時に設定し直してください。

- 現在地を変更したいときは：「ワールドタイムを設定する」（p.193）
- 日時を変更したいときは：「日時を変更する」（p.189）

現在地、夏時間の設定をする

3　十字キー（▼）を押す

選択枠が「現在地」に移動します。

4　十字キー（▶）を押す

「現在地」画面が表示されます。

5　十字キー（◀▶）を押して、「東京」を選ぶ

6　十字キー（▼）を押す

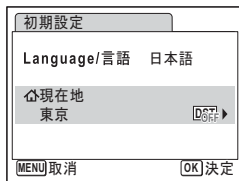
選択枠が「夏時間」に移動します。

7　十字キー（◀▶）を押して、□（オフ）に設定する

8　OKボタンを押す

「初期設定」画面が表示されます。

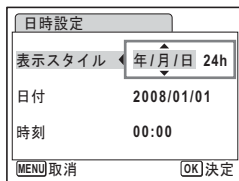
9　OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。引き続き、日付と時刻を設定します。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1　十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2　十字キー（▲▼）を押して、日付の表示スタイルを設定する

3　十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

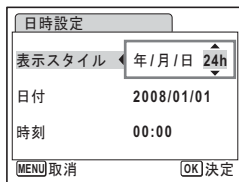
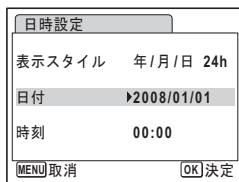
4　十字キー（▲▼）を押して、「24h」（24時間表示）または「12h」（12時間表示）を設定する

5　十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

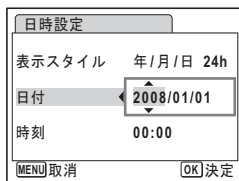
6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　▸2008/01/01
時刻　00:00
MENU 取消　OK 決定

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が「西暦年」に移動します。

8 十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻欄を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9 OKボタンを押す

日時が確定し、撮影できる状態になります。

設定した「言語」「日時」「現在地」「夏時間」は後から変更することができます。操作方法は下記のページをご覧ください。

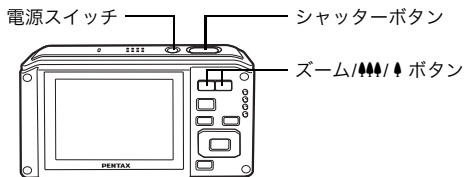
- 言語を変更したいときは：「表示言語を変更する」（☞p.195）
- 日時を変更したいときは：「日時を変更する」（☞p.189）
- 現在地、夏時間のオン／オフを変更したいときは：「ワールドタイムを設定する」（☞p.193）

初期設定の途中でMENUボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

手順9で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定が行えます。

初期設定で「現在地」を変更すると、ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が選んだ都市の方式に自動的に設定されます。設定されるビデオ出力方式と、初期設定後の変更のしかたについては下記のページをご覧ください。

- 初期設定で設定されるビデオ出力方式：「都市名一覧」（☞p.208）
- 初期設定後にビデオ出力方式を変更する：「ビデオ出力方式を選択する」(☞p.198)

静止画を撮影する

最も標準的な撮影方法を説明します。ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。

1 電源スイッチを押す

電源がオンになり、静止画が撮影できる状態になります。本書ではこの状態を「静止画撮影モード」と表記します。

2 画像モニターを確認する

フォーカスフレーム

画像モニター中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。
ズーム/♠♠♠/♠ ボタンを左右に押すと、被写体の写る範囲が変わります。

♠　：被写体を拡大して写す

♠♠♠：被写体を広い範囲で写す

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。
撮影した画像は画像モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されます。（p.44）

メモ　**グリーンボタンを押すと、すべての撮影条件をカメラが自動設定する●（グリーン）モードに切り替わります。**

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し
シャッターボタンを1段目まで軽く押した状態です。ピント位置、露出がロックされます。半押しのとき、ピントが合うと画像モニターに緑色の枠が点灯します。ピントが合っていないときは、赤い枠が点灯します。

全押し
シャッターボタンを2段目まで押し切った状態です。撮影が行われます。

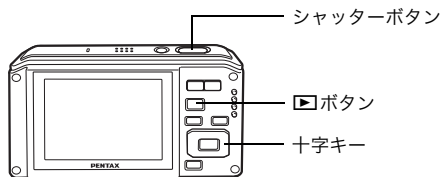
[ピント合わせの苦手な条件]
写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。こんなときはいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後構図を撮りたい位置に戻してシャッターを切ります。

- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

クイックビュー

撮影直後には、撮影した画像が画像モニターに1秒間表示（クイックビュー）されます。クイックビューの表示時間は変更できます。(p.117)
クイックビュー中に 🗑 ボタンを押すと、画像消去を確認する画面が表示されます。十字キー（▲▼）で「消去」を選び、OKボタンを押すと画像を消去できます。

- 撮影時に被写体が目を閉じた、とカメラが認識すると、「目を閉じていました」というメッセージが、クイックビューの間に表示されます（まばたき検出）。
- クイックビューが3秒より短い時間に設定されている場合は、まばたき検出が行われると「目を閉じていました」のメッセージが3秒間表示されます。
- 顔検出（p.59）が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出を行えないことがあります。

静止画を再生する

画像を再生する

1　撮影後に▶ボタンを押す

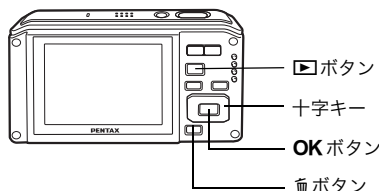
撮影した画像が画像モニターに表示されます。本書ではこの状態を▶モード（再生モード）と表記します。また、▶モード時に画像が1枚だけ表示されている状態（▶モードの初期状態）を「1画面表示」と呼びます。
▶モード時にもう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、📷モードに切り替わります。

前後の画像を再生する

1　撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

2　十字キー（◀▶）を押す

前後の画像が表示されます。

表示された画像を回転表示する

1　撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

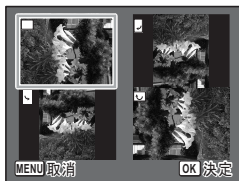
2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。（p.62）

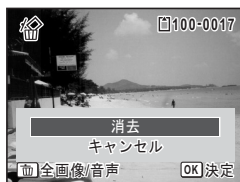
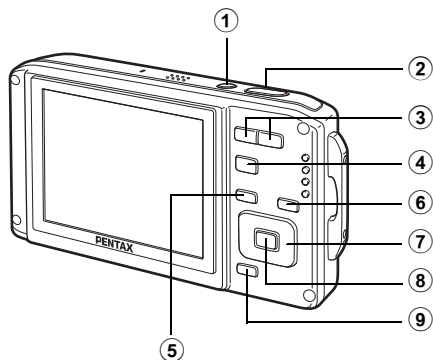
3　十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

回転方向を4種類（0度、右90度、左90度、180度）から選ぶ画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選び、OK ボタンを押す

回転した状態で画像が表示されます。表示された方向で保存されます。

- 動画は回転表示できません。
- プロテクトされた画像は、回転表示はできますが、回転された状態は記録されません。

表示した画像を消去するには

画像表示中に🗑ボタンを押すと、表示中の画像を消去する画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び **OK** ボタンを押すと、表示中の画像を消去できます。（p.152）

ボタンの機能を使用する

モード時

① **電源スイッチ**
電源をオフにします。（p.37）

② **シャッターボタン**
静止画撮影モードでは、半押しするとピント合わせを行います。（フォーカスモードが、**PF**、▲、**MF**のときを除く）（p.43）
全押しすると、静止画を撮影します。（p.43）
（動画）、（マーメードムービー）モードでは、全押しすると動画の撮影を開始、終了します。（p.127、p.69）
（ボイスレコーディング）モードでは、全押しすると音声の録音を開始、終了します。（p.181）

③ **ズーム/ / ボタン**
撮影する範囲を変えます。（p.93）

④ **ボタン**
モードに切り替えます。（p.138）

⑤ **MENUボタン**
「撮影」メニューを表示します。（p.51）

⑥ ボタン

顔検出機能（p.59）を切り替えます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔認識オフ→顔認識オンと切り替わります。

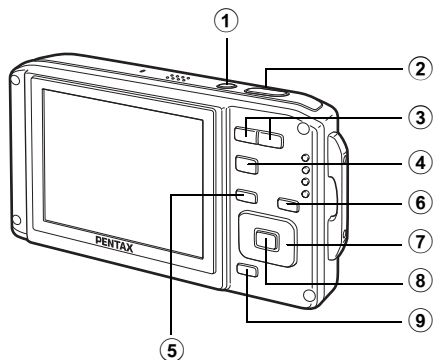
⑦ 十字キー

（▲）　：ドライブモードを切り替えます。（p.87～p.92）
（▼）　：撮影モードパレットを表示します。（p.56）
（◀）　：ストロボモードを切り替えます。（p.101）
（▶）　：フォーカスモードを切り替えます。（p.99）
（▲▼）：**MF**設定時、**MF**調整をします。（p.100）

⑧ OK/DISPLAYボタン

画像モニターに表示される情報を切り替えます。（p.97）

⑨ グリーンボタン

●（グリーン）モードに移行します。（p.66）
動画撮影時は、静止画を撮影します。（p.128）

▶モード時

① **電源スイッチ**
電源をオフにします。（p.37）

② **シャッターボタン**
📷モードに切り替わります。（p.138）

③ **ズーム/▦/🔍ボタン**
1画面表示時に▦側を押すと9画面表示になります。🔍側を押すと、前の表示に戻ります。（p.139）
1画面表示時に🔍側を押すと画像が拡大表示されます。▦側を押すと前の表示に戻ります。（p.141）
9画面表示時に▦側を押すと、フォルダ表示またはカレンダー表示になります。（p.140）
フォルダ表示時に🔍側を押すと、選択フォルダの9画面表示になります。（p.140）
カレンダー表示時に🔍側を押すと、選択日付の9画面表示になります。（p.140）
動画・音声再生中に音量調節ができます。（p.149、p.183）

④ **▶ボタン**
📷モードに切り替えます。（p.138）

⑤ **MENUボタン**

1画面表示時は、「🔧設定」メニューを表示します。（p.51）
再生モードパレット表示時は、1画面表示に戻ります。（p.62）
拡大表示、9画面表示時は、1画面表示に戻ります。（p.139）
フォルダ表示時は、通常の9画面表示に変わります。（p.140）
カレンダー表示時は、通常の9画面表示に変わります。（p.140）

⑥ **ボタン**

撮影時に顔検出が行われた画像を表示しているときに押すと、顔検出が行われた順に、被写体の顔がクローズアップ表示（顔アップ再生）されます。（p.142）

⑦ **十字キー**

（▲）：動画・音声を再生／一時停止します。（p.149、p.183）
（▼）：再生モードパレットに移行します。（p.63）
再生中の動画・音声を停止します。（p.149、p.183）
（◀ ▶）：1画面表示時は、前後の画像・音声を表示します。（p.45）
動画再生時は、コマ送り、コマ戻し、逆方向再生、順方向再生をします。（p.149）
音声再生時は、早送り、巻き戻し、インデックス位置への移動をします。（p.183）
（▲ ▼ ◀ ▶）：拡大表示時は、表示範囲を移動します。（p.141）
9画面表示時は画像、フォルダ表示時はフォルダ、カレンダー表示時は日付を選択します。（p.139、p.140）
フレーム合成時は、画像の位置を調整します。（p.169）

⑧ **OK/DISPLAYボタン**

画像モニターに表示される情報を切り替えます。（p.144）
拡大表示、9画面表示時は、1画面表示に戻ります。（p.139、p.141）
フォルダ表示時は、選択フォルダの9画面表示に変わります。（p.140）
カレンダー表示時は、選択日付の1画面表示に変わります。（p.140）

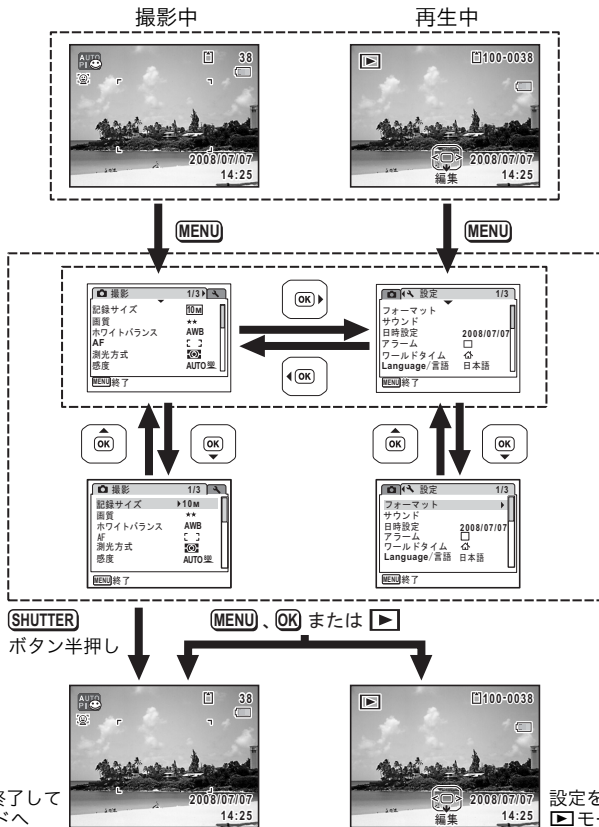
⑨ **グリーン/🗑ボタン**

1画面表示時は、消去画面に移行します。（p.152）
9画面表示時は、選択消去画面に移行します。（p.154）
フォルダ表示時は、カレンダー表示画面に移行します。（p.140）
カレンダー表示時は、フォルダ表示画面に移行します。（p.140）

カメラの機能を設定する

カメラの設定を変更するには、MENUボタンを押して、「撮影」メニューと「設定」メニューを呼び出します。また、画像や音声の再生・編集に関するメニューは、再生モードパレットから呼び出します。

メニューで設定する

モードでMENUボタンを押すと、「撮影」メニューが表示されます。
モードでMENUボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。

設定を終了して
モードへ

設定を終了して
モードへ

メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が画像モニターにガイド表示されます。

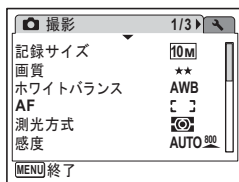
例）「📷撮影」メニューの「画質」の設定をする

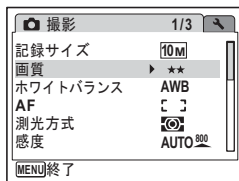
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

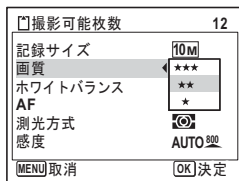
選択枠が「記録サイズ」に移動します。

撮影 1/3
記録サイズ 10M
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
AF
測光方式
感度 AUTO 800
MENU 終了

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が「画質」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選べる設定が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を切り替える

十字キー（▲▼）を押すたびに、画質が切り替わります。

設定の保存方法、変更の取り消し方法については、次のページをご覧ください。

設定を保存して撮影をしたいとき

6　シャッターボタンを半押しする

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、写真が撮影されます。

▶モードから「🔧設定」メニューを表示した場合は、▶ボタンを押して📷モードに移行することもできます。

設定を保存して再生をしたいとき

6　▶ボタンを押す

📷モードから「📷撮影」メニューを表示した場合は、設定が保存され、再生できる状態になります。

設定を保存して続いてメニュー操作をしたいとき

6　OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、手順3に戻ります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

6　MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。

MENUボタンの機能は、画面によって異なります。ガイド表示を参照してください。

MENU 終了　：メニュー操作を終了し、元の画面に戻ります。
MENU ↩　：現在の設定のまま、ひとつ前の画面に戻ります。
MENU 取消　：現在の選択を保存しないでメニュー操作を終了し、ひとつ前の画面に戻ります。

メニュー一覧

メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源をオフにしたとき設定を維持するかどうか、リセットしたときに初期設定に戻すかどうかについては、付録の「初期設定一覧」(p.209)をご覧ください。

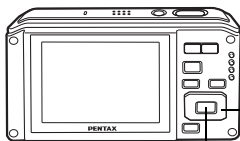
「📷撮影」メニュー

撮影に関するメニューです。

項目		内容	参照
記録サイズ		静止画像の記録サイズを設定します。	p.103
画質		静止画像の画質を設定します。	p.105
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.106
AF		オートフォーカスの対象になる範囲を設定します。	p.113
測光方式		どの部分で明るさを測り､露出を決めるのかを設定します。	p.108
感度		感度を設定します。	p.110
露出補正		撮影する画像全体の明るさを調整します。	p.96
動画	記録サイズ	動画の記録サイズとフレームレート(1秒間に記録する画面数)の組み合わせを選びます。	p.129
	カラーモード	動画のカラーモードを設定します。	p.131
	Movie SR	手ぶれ補正を使うか使わないかを設定します。	p.132
	インターバル撮影	設定した時間間隔で撮影した複数の静止画をひとつの動画ファイルとして記録します。	p.133
	撮影中のAF	動画撮影中のピントの合わせ方を設定します。	p.136
	光学ズーム	動画撮影中に光学ズームを使うか使わないかを設定します。	p.137
インターバル撮影	撮影間隔	撮影を行う時間の間隔を設定します。	p.90
	撮影枚数	撮影の枚数を設定します。	p.90
	撮影開始時間	撮影を開始する時間を設定します。	p.90
まばたき検出		まばたき検出を行うか行わないかを設定します。	p.61
デジタルズーム		デジタルズームを使うか使わないかを設定します。	p.95
クイックビュー		クイックビューの表示時間を設定します。	p.117
モードメモリ		電源オフ時に撮影機能の設定値をメモリーするか、初期設定に戻すかを設定します。	p.125
グリーンボタン		撮影モード時にグリーンボタンで呼び出す機能を設定します。	p.118
シャープネス		画像の境界をハードにするかソフトにするかを設定します。	p.121
彩度		色の鮮やかさを設定します。	p.122
コントラスト		画像の明暗差の度合いを設定します。	p.123
日付写し込み		静止画撮影時に日付の写し込みをするかしないかを設定します。	p.124

「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しみたいときは、（グリーン）モードを利用してください。(p.66)

「設定」メニュー

項目	内容	参照
フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.186
サウンド	操作音量、再生音量、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を設定します。	p.187
日時設定	日付、時刻、それぞれの表示スタイルを設定します。	p.189
アラーム	アラームを設定します。	p.191
ワールドタイム	ワールドタイムを設定します。	p.193
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	p.195
フォルダ名	画像や音声を保存するフォルダの命名方法を設定します。	p.196
USB接続	USB ケーブルの接続先（パソコンまたはプリンター）を設定します。	p.197
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	p.198
LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.199
エコモード	節電モードになるまでの時間を設定します。	p.200
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.201
クイック拡大	画像の再生時に「クイック拡大」(p.141）を使うか使わないかを設定します。	p.202
ガイド表示	撮影モードパレットや再生モードパレット表示時に、選択項目説明を表示するかしないかを設定します。	p.203
リセット	日時、言語、ワールドタイム、ビデオ出力以外の設定内容をご購入時の状態に戻します。	p.204

撮影モードを設定する

Optio W60には、多彩な撮影モードが用意されており、撮影モードパレットで撮影するシーンに合った撮影モードを選ぶだけで手軽にぴったりの雰囲気の写真の撮影、動画の記録、音声の録音ができます。

1　◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で撮影モードを選択する

画像モニターの下部に、選んだ撮影モードの説明が表示されます。

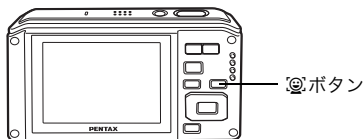
3　OKボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

- P、夜景、動画、Digital SR、デジタルワイド、ベストフレーミング以外の撮影モードでは、彩度、コントラスト、シャープネス、ホワイトバランスなどが自動的に各モードに最適な値に設定されています。
- 撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、設定できても動作に反映されない場合があります。詳しくは、「撮影モードごとの使える機能／使えない機能」（p.214〜p.216）をご確認ください。
- 選択した撮影モードの説明を表示させないようにすることができます。（p.203）

撮影モードには、次の24のモードがあります。

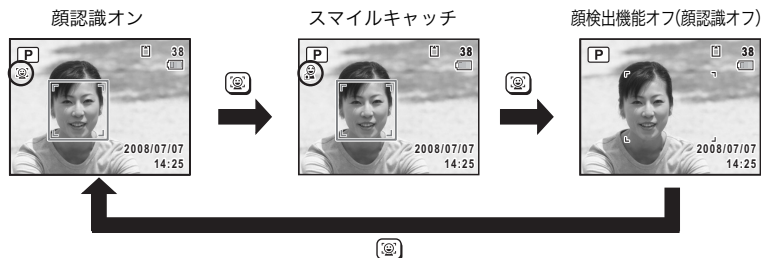
	項目	内容	参照
AUTO PICT	オートピクチャー	適切なシーンを自動的に判断して撮影します。	p.64
P	プログラム	一般的な撮影に適しています。さまざまな機能を設定して撮影することもできます。	p.65
	夜景	夜景撮影に最適です。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.68
	動画	動画を撮影するときに設定します。音声も同時に記録されます。	p.127
	マーメード	水中での撮影に適しています。	p.69
	マーメードムービー	水中での動画撮影に適しています。	p.69
	風景	風景の撮影に適しています。広い範囲にピントが合うようになっています。	—
	花	花をきれいに撮影するのに適しています。花の輪郭を柔らかめに表現します。	—
	ポートレート	人物を撮影するのに適しています。肌色を明るく健康的に仕上げます。	p.73
WIDE	デジタルワイド	2枚の画像を合成して、より広い範囲を撮影します。	p.84
	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。	—
	Digital SR（ぶれ軽減）	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。	p.68
	キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を明るく健康的に仕上げます。	p.79
	ペット	動き回るペットの撮影に最適です。ペットの毛色を選択してください。	p.77
	ベストフレーミング	人物を最適な大きさで撮影するように、ズーム倍率を自動的に変更します。（3M固定）	p.75

項目		内容	参照
	スポーツ	動きの速いものを撮影するのに最適です。撮影するまで動くものにフォーカスを合わせ続けます。	—
	花火	花火をきれいに撮影します。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.68
	ボイス レコーディング	音声を記録するときに設定します。マイクを手でふさがないように注意してください。	p.181
	夜景ポートレート	人物の入った夜景撮影に最適です。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.73
	テキスト	文字をくっきりときれいに撮影します。また、白黒や反転等の効果が選択できます。	p.81
	料理	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。	—
	パノラマ	撮影した画像をカメラ内でつなぎ合わせてパノラマ写真を作成します。	p.82
	フレーム合成	フレーム付きの画像を撮影します。記録サイズは、3M に固定されます。	p.71
	CALS	建設CALSに準拠した電子納品に適したサイズ(1280×960)で記録します。	—

顔検出機能を設定する

Optio W60では、（ボイスレコーディング）を除くすべての撮影モードで、「顔検出」機能をご利用いただけます。
顔検出機能では、カメラが被写体の顔の位置を検出してピント合わせ（顔認識AF）と露出補正（顔認識AE）を行う「顔認識」機能と、カメラが被写体が笑顔になったことを検出してピント合わせ（顔認識AF）と露出補正（顔認識AE）を行いシャッターを自動的に切る「スマイルキャッチ」機能(注)を切り替えることができます。

（注）検出した顔の条件によって、「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押すことでシャッターを切ることができます。

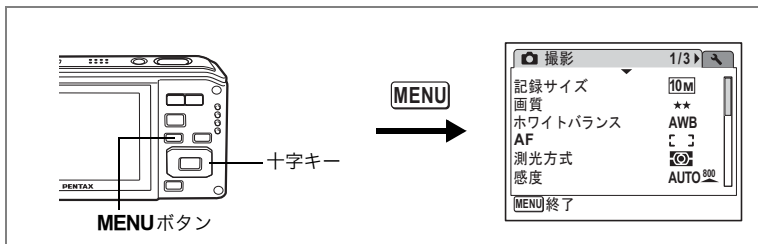
顔検出機能を切り替える

初期状態では、顔認識機能がオンになっています。カメラ本体のボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔検出機能オフ（顔認識オフ）→顔認識オンと切り替えることができます。

顔認識オン、スマイルキャッチに設定中は、撮影画面の左上に以下のアイコンが表示されます。

顔認識オン

スマイルキャッチ

顔検出機能が切り替わるたびに、顔認識機能またはスマイルキャッチ機能を示すアイコンが画像モニターに表示されます（顔検出機能がオフのときには、アイコンは表示されません）。

- AUTO PICT（オートピクチャー）、（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（キッズ）、（ベストフレーミング）モードでは、顔検出機能をオフにはできません。顔認識機能またはスマイルキャッチ機能のいずれかが選択されます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）、（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（キッズ）、（ベストフレーミング）、（動画）モードを選択すると、自動的に顔検出機能がオンになります。これらの撮影モードから他の撮影モードに移行すると、元の顔検出機能設定に戻ります。
- 顔検出機能を利用した撮影については、p.73およびp.79をご覧ください。

まばたき検出を設定する

まばたき検出を使用するか設定します。
まばたき検出をオンにすると、顔認識機能がオンのときに、目を閉じた写真を写した場合、クイックビューで「目を閉じていました」というメッセージを表示します。

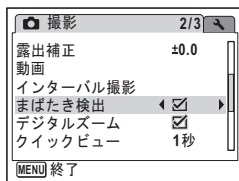
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「まばたき検出」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）と□（オフ）を切り替える

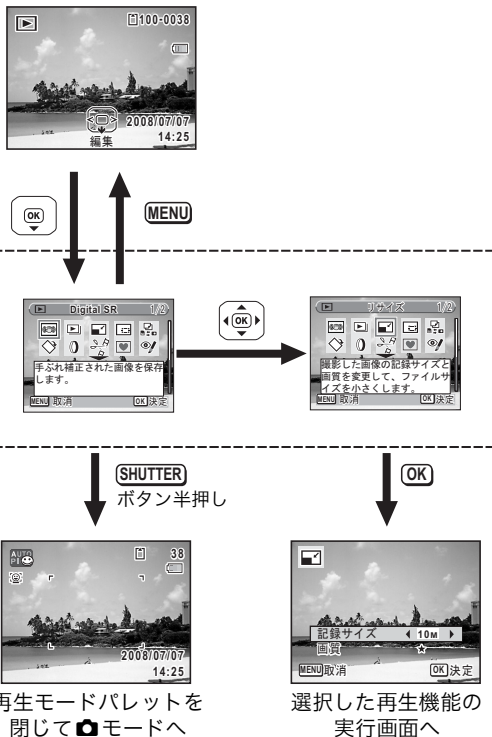
選んだ設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

- 顔認識がオフの時は、まばたき検出の設定に関係なく、まばたき検出は行われません。
- 顔検出（p.59）が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出を行えないことがあります。
- クイックビューが3秒より短い時間に設定されている場合は、まばたき検出が行われると「目を閉じていました」のメッセージが3秒間表示されます。

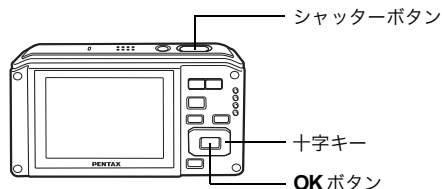
再生機能を使う

▶モードで十字キー（▼）を押すと再生モードパレットが表示されます。
十字キー（▲▼◀▶）を使ってアイコンを選び、**OK**ボタンを押すだけで、使用したい再生機能を呼び出すことができます。

再生モードパレットを閉じて📷モードへ

選択した再生機能の実行画面へ

- 再生モードパレットの各アイコンに選択枠を合わせると各機能の説明がガイド表示されます。
- 選択した機能の説明を表示させないようにすることができます。（p.203）

再生モードパレット一覧

項目		内容	参照
	Digital SR	手ぶれ補正された画像を保存します。	p.145
	スライドショウ	撮影した画像を連続で再生します。切り替りの画面効果や効果音の設定もできます。	p.147
	リサイズ	撮影した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	p.160
	トリミング	画像の不要な部分を削除して好みの大きさに変更します。新規保存されます。	p.162
	画像/音声コピー	内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声のファイルをコピーします。	p.163
	画像回転	撮影した画像を回転させます。縦位置写真をTVなどで見る際に便利です。	p.46
	デジタルフィルタ	撮影した画像にカラーフィルターやソフトフィルターをかけて仕上げます。	p.165
	動画編集	動画から静止画を切り出したり、動画の分割を行います。	p.171
	フレーム合成	撮影した画像にフレームを付けて保存します。上書きまたは新規保存が選べます。	p.169
	赤目補正	赤目になった画像を修正します。元画像によっては正しく補正できない場合があります。	p.168
	ボイスメモ	撮影した画像に音声を付けます。SD メモリーカードの空き容量分の録音ができます。	p.184
	プロテクト	消したくない画像や音声を保護します。ただしフォーマットを行うと、消去されます。	p.158
	DPOF	撮影した画像の印刷設定をします。お店でプリントする際に便利です。	p.173
	削除画像復活	誤って削除してしまった画像および音声を元通りに復元します。	p.157
	起動画面設定	撮影した画像をカメラの起動時に表示するよう設定します。	p.205

撮影する

カメラまかせで撮影する（オートピクチャーモード）

AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、被写体にカメラを向けるだけで、カメラがシーンに応じて（夜景）、（風景）、（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（スポーツ）、（花）、（標準）モードの中から最適な撮影モードを選びます。

1　モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で、AUTO PICT（オートピクチャー）を選ぶ

3　OKボタンを押す

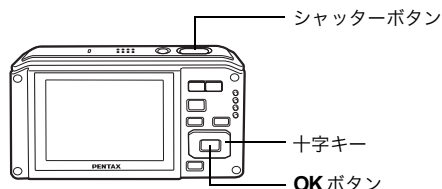
4　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わり、選択された撮影モードが画像モニター左上に表示されます。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

AUTO PICT モードでは、露出補正はできません。

静止画を撮影する ☞p.43

機能を設定して撮影する（プログラムモード）

P（プログラム）モードでは、シャッタースピードと絞り値はカメラが自動的に設定して撮影しますが、ストロボの発光方式や記録サイズなどその他の機能は自由に設定できます。

1　撮影モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で P（プログラム）を選ぶ

3　OKボタンを押す

4　必要に応じて使用する機能を設定する

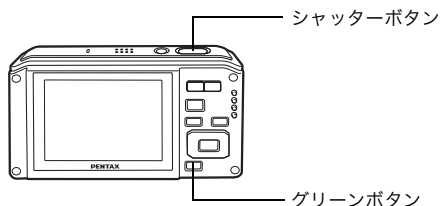
機能の設定のしかたは、「撮影のための機能を設定する」（p.99～p.124）をご覧ください。

5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

静止画を撮影する ☞p.43

簡単撮影モードで撮影する（グリーンモード）

●（グリーン）モードでは、「◘撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定（※）で手軽に撮影を楽しめます。

1　◘モードでグリーンボタンを押す

●モードに切り替わります。
もう1回グリーンボタンを押すと、●モードに入る前の撮影モードに戻ります。

2　シャッターボタンを半押しする

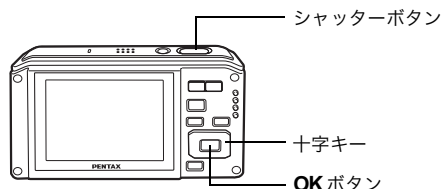
ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- ●モードを利用するには、撮影メニューのグリーンボタンに●モードを登録しておく必要があります。（p.118）
  ※初期設定では●モードに設定されています。
- ●モードでは、**OK**/**DISPLAY** ボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。
- 撮影モードを ● モードにしたまま電源をオフにすると、次回も ● モードで起動します。
- ●モードでは、撮影メニューを表示させることができません。

※ ●モードでの設定値は、以下のとおりです。

ストロボモード	⚡A（オート）
ドライブモード	□（標準）
フォーカスモード	**AF**（標準）
情報表示	標準
記録サイズ	10M
画質	★★（ファイン）
ホワイトバランス	**AWB**（オート）
AFエリア	[ ]（マルチ）
測光方式	（分割測光）
感度	AUTO800
露出補正	±0.0
まばたき検出	☑（オン）
デジタルズーム	☑（オン）
クイックビュー	1秒
モードメモリ	初期値
シャープネス	（標準）
彩度	（標準）
コントラスト	（標準）
日付写し込み	オフ

暗いシーンを撮影する（夜景／Digital SR（ぶれ軽減）／花火モード）

夜景など暗いシーンを撮影するのに適切な設定にセットされます。

アイコン	説明
夜景	夜景を撮影するときに使います。
Digital SR	室内や暗い場所など光量が少ない場所でぶれを軽減しての撮影に適しています。
花火	花火をきれいに撮影します。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、夜景（夜景）、Digital SR（Digital SR（ぶれ軽減））または花火（花火）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

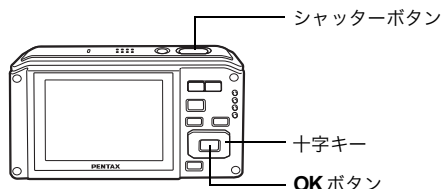
4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 暗いシーンでの撮影ではシャッタースピードが遅くなります。
- 手ぶれを防ぐには、三脚とセルフタイマーを使っての撮影が有効です。(p.87)
- Digital SR モードでは、記録サイズは 5M（2592×1944）に固定されます。
- Digital SR モードでは、感度はAUTO6400（50～6400）に固定されます。
- 花火 モードでは、感度は 50、フォーカスモードは ▲、ストロボモードは 発光禁止 に固定されます。また、シャッター速度は4秒、絞り値は開放絞りに固定されます。
- 花火 モードでは、「測光方式」は「分割測光」に固定されます。

4 撮影

水中で撮影する（マーメード／マーメードムービーモード）

このカメラはJIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級5級（IP58）に準拠した防水・防塵機能を備えており、水深4mで連続2時間撮影できます。

(マーメード)	水中で静止画を撮影するときに使います。水の青さを美しく撮影できます。
(マーメードムービー)	水中で動画を撮影するときに使います。

1　A モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で (マーメード)（マーメード）または (マーメードムービー)（マーメードムービー）を選ぶ

3　OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

4　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5　シャッターボタンを全押しする

(マーメード)を選んだときは、静止画が撮影されます。
(マーメードムービー)を選んだときは、動画の撮影が開始されます。動画の撮影を終了するときは、シャッターボタンを全押しします。C と同様の操作で動画を撮影することができます。

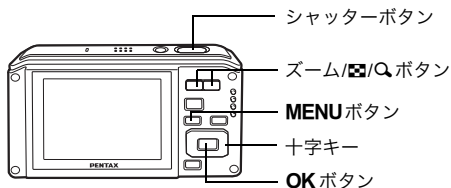
動画を撮影する ☞p.127

- 水中で撮影するときは、バッテリー／カード／端子カバーの防水パッキンにゴミや砂などが付着していないことを十分に確認し、バッテリー／カード／端子カバーをしっかりとロックしてご使用ください。
- ご使用後にバッテリー／カード／端子カバーを開けるときは、バッテリー／カード／端子カバーを含むカメラ全体に水やゴミ、砂などが付着していないことを十分に確認してください。もし付着していたら、よく拭き取ってから、カバーを開けてください。
- モードでは、「測光方式」は「分割測光」に固定されます。

防水・防塵機能について ☞p.5

- モードでは、ストロボは発光しません。
- フォーカスモードを **AF**、または 、 に設定している場合は、撮影開始前にシャッターボタンを半押ししてピント位置をロックしての撮影になります。ただしメニュー設定で、動画撮影中、常に被写体に合わせてピントを調整し続けるようにすることが可能です（p.136）。
- フォーカスモードを **MF** に設定している場合は、撮影開始前にも撮影中にもピントを調整することができます。
- マーメードムービーの光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前のみ使うことができます（撮影中はデジタルズームのみになります）。ただしメニュー設定で撮影中も光学ズームを使えるようにすることが可能です（p.137）。
- 動画撮影中は、**OK**/**DISPLAY** ボタンを使って画像モニターの表示を切り替えることができません。

光学ズームを設定する ☞p.137

このカメラは防水・防塵機能を備えていますが、以下のような使い方は避けてください。瞬間的に、このカメラが保証する以上の強い水圧がかかり、内部に水が入ることがあります。
- カメラを持って水中に飛び込む
- カメラを手に持って水中を泳ぐ
- 河川の急流や滝など、勢いよく水がかかる環境で使用する

フレームをつけて撮影する（フレーム合成モード）

♥（フレーム合成）モードでは、カメラに保存されているフレームに合わせて撮影することができます。

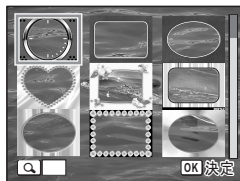
1　◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で♥（フレーム合成）を選ぶ

3　OKボタンを押す

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

5　ズーム/⊞/Qボタンの Q 側を押す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

- 十字キー (◀▶) を押して別のフレームを選択する
- ズーム/⊞/Qボタンの⊞側を押して、フレーム選択の9分割画面に戻り、手順４と同様の操作で別のフレームを選択する

注意　1画面表示中に、何もボタン操作を行わないと、表示されているフレームで決定します。再度選び直す場合は、手順１からやり直してください。

6　OKボタンを押す

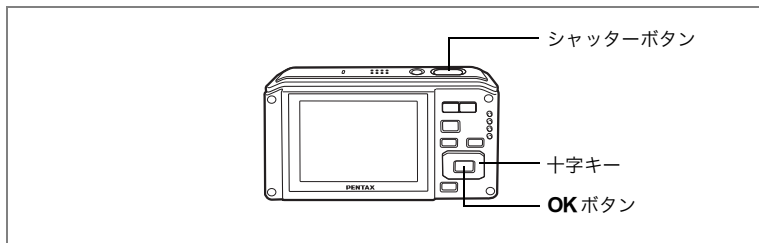
フレーム付きの撮影画面が表示されます。

7 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

8 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- ♥モードの記録サイズは、3M（2048×1536）に固定されます。
- 工場出荷時に、デフォルトフレーム3種類、オプションフレーム77種類が内蔵されています（付属のCD-ROMには、デフォルトフレームを含む80種類のフレームが収録されています。

オプションのフレーム画像について

Optio W60の内蔵メモリーには、画像・動画・音声の記録領域を利用して、オプションのフレームが収録されています。
このオプションフレームはパソコンで内蔵メモリーをファイル操作（削除など）すると消すことができますので、万一、オプションフレームを消してしまった場合には、付属のCD-ROMからコピーできます。
コピー要領：

1.カメラからSDメモリーカードを抜きます。（SDメモリーカードを入れておいた場合は、内蔵メモリーではなく、SDメモリーカードにコピーされます）
2.PC接続ガイドを参考に、パソコンとカメラをUSBケーブル（I-USB7）で接続します。
3.カメラが接続されると自動的にデバイス検出の画面が表示されますが、「キャンセル」してください。
4.付属のCD-ROM（S-SW81）をパソコンにセットしてください。
5.自動的にインストール画面が表示されますが、「EXIT」ボタンを押して終了してください。
6.カメラ（リムーバブルディスク）のルートディレクトリにFRAMEフォルダが無い場合は、パソコンから作成してください。
7.パソコンでファイル操作を行い、CD-ROMのルートディレクトリにあるFRAMEフォルダ内からコピーしたいファイルをカメラ（リムーバブルディスク）のFRAMEフォルダ内にコピーします。（パソコンのファイル操作については、お使いのパソコン説明書などをご覧ください）
8.PC接続ガイドを参考にカメラを取り外してください。

* デフォルトのフレーム（3種類）は、重複して復元されます。
* コピー先をSDメモリーカードにしたい場合は、手順1でSDメモリーカードを入れておいてください。
* 内蔵メモリーとSDメモリーカードの両方にフレームを登録可能ですが、数が多くなると処理に時間がかかる場合があります。
* 必要なフレームファイルのみをコピーすることもできます。

人物を撮影する（ポートレート／夜景ポートレートモード）

（ポートレート）、（夜景ポートレート）モードは、人物を撮影するのに適しています。またいずれの撮影モードも、顔検出機能（p.59）が自動的にオンになりますので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

	人物を撮影するときに使います。
	夜、暗い場所で人物を撮影するときに使います。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（ポートレート）または（夜景ポートレート）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

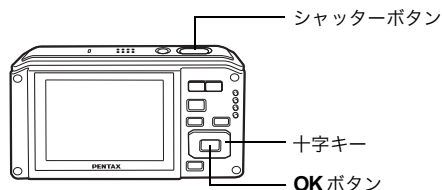
撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
画像モニター内の被写体の顔を認識すると、顔の位置に黄色の（複数の顔を認識したときにはメインのみ黄色）フォーカスフレームが表示されます。被写体が動くと、フォーカスフレームが顔の位置を追尾してフォーカスフレームの大きさ、位置が変化します。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 被写体の顔が認識できない場合、選択されているAFエリアでフォーカスを合わせます。
- スマイルキャッチ機能がオンの場合は、被写体が笑顔になったことを認識すると、自動的にシャッターが切れます。ただし検出した顔の条件によっては、「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。

人物を拡大して撮影する（ベストフレーミングモード）

（ベストフレーミングモード）では、画面内で顔を認識すると、インテリジェントズームが働いて、顔の位置と大きさを元にバストショットとなるまでズームして撮影できます。このモードでは顔認識モードが常にオンとなります。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（ベストフレーミングモード）を選ぶ

3 OKボタンを押す

画像モニター内の被写体の顔を認識すると、顔の位置に黄色いフォーカスフレームと、ズームアップされる範囲を示すオレンジ色の枠が表示されます。

4 シャッターボタンを半押しする

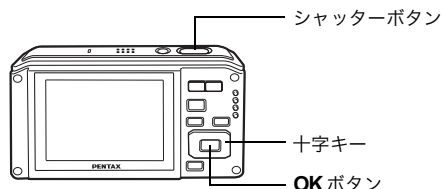
ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
顔を認識していると、自動でズームして撮影する範囲が表示されます。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 被写体の顔を認識できない場合、ズームアップされる範囲を示すオレンジ色の枠が表示されず、選択されているAFエリアでピントを合わせます。
- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔認識AFと顔認識AEが働かないことがあります。
- ベストフレーミングモードでは、記録サイズは3Mに固定されます。

4

撮影

ペットを撮影する（ペットモード）

（ペット）モードでは、動き回るペットにフォーカスを合わせ続け、ペットの毛色を活かしてきれいに写すことができます。撮りたいペットの毛色が白っぽいか、黒っぽいか、中間の色かでアイコンの色を選択してください。

1　モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（ペット）を選ぶ

3　OK ボタンを押す

ペットモードの選択画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で　　　　　を選ぶ

ペットアイコンには犬柄と猫柄の2タイプがあります。
（犬アイコンと猫アイコンは絵柄が違うだけで、撮影結果に与える効果は同じです。お好みで使い分けてください。）

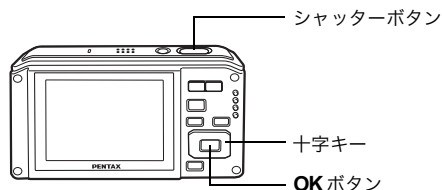
5　OK ボタンを押す

ペットモードが選択され、撮影できる状態になります。

6　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
シャッターボタンを半押しし続けている間、フォーカスフレームがペットを追い続けます。

7　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

子供を撮影する（キッズモード）

（キッズ）モードは、動きの多い子供を撮影するのに適しています。また、肌色を明るく健康的に仕上げることができます。モードでは、顔検出機能（p.59）が自動的にオンになりますので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（キッズ）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

画像モニター内の被写体の顔を認識すると、顔の位置に黄色の（複数の顔を認識したときにはメインのみ黄色）フォーカスフレームが表示されます。被写体の動きを追尾して、フォーカスフレームの位置と大きさが変化します。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔認識AFと顔認識AEが働かないことがあります。
- 被写体の顔が認識できない場合、選択されているAFエリアでフォーカスを合わせます。
- スマイルキャッチ機能がオンの場合は、被写体が笑顔になったことを認識すると、自動的にシャッターが切れます。ただし検出した顔が小さすぎるなどの条件によっては、「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。

テキストを撮影する（テキストモード）

書類や黒板の文字をくっきりと読みやすく撮影することができます。テキストモードは4種類から選んで設定できます。

	カラー	テキストを元の色のまま撮影します。
	カラー反転	テキストのカラーが反転した状態で撮影します。
	白黒	テキストを白黒で撮影します。
	白黒反転	テキストの白黒が反転した状態で撮影します。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（テキスト）を選ぶ

3 OKボタンを押す

テキストモードの選択画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）でを選ぶ

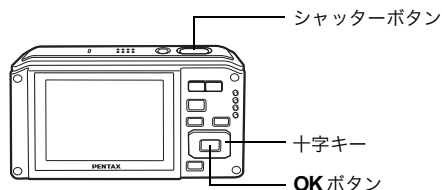
5 OKボタンを押す

テキストモードが保存され、撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

パノラマ撮影をする（パノラマモード）

▮■▮（パノラマ）モードでは、カメラを横に平行移動させながら、画像の端が重なるように2枚または3枚の写真を撮影します。3枚撮影した場合は、3枚目の撮影が終わると、カメラが自動的にパノラマ合成を行い、パノラマ写真を保存します。

1　📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で▮■▮（パノラマ）を選ぶ

3　OKボタンを押す

撮影モードが選択され、「移動する方向を指定してください」のメッセージ画面が表示されます。

4　十字キー（◀▶）で、画像をつなげる方向を選ぶ

1枚目を撮影する画面が表示されます。

5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

1枚目の画像が撮影され、2枚目を撮影する画面が表示されます。

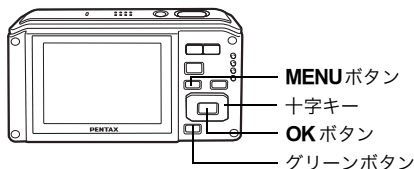
手順4で右（▶）を選んでいる場合：
画面の左端に、1枚目に撮った画像の右端部分が透過表示されます。
手順4で左（◀）を選んでいる場合：
画面の右端に、1枚目に撮った画像の左端部分が透過表示されます。

7 カメラを平行移動し、2枚目の画像を撮影する

実画像が1枚目の画像の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。
3枚目も手順5、6、7を繰り返して撮影します。

8 3枚目を撮影すると、パノラマ合成が開始され、合成結果が表示される

クイックビュー（p.44、p.117）がオフの場合は、合成結果は表示されません。

- 顔検出機能（p.59）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- 1枚目または2枚目の撮影後に**OK**ボタンを押すと、それまで撮影した画像を保存することができます（2枚目を撮影した場合は、合成画像を保存することができます）。
- 1枚目で撮影を中断した場合、画像は 2M （1600×1200）で保存されます。

デジタルワイドを使って撮影する（デジタルワイドモード）

WIDE（デジタルワイド）モードは、2枚の撮影画面を合成することで、最大で約21mm相当（35mmフィルム換算）の広角撮影ができます。

1　 モードで十字キー（▼）を押す

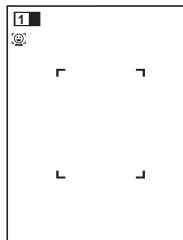
撮影モードパレットが表示されます。

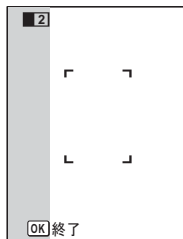
2　十字キー（▲▼◀▶）でWIDE（デジタルワイド）を選ぶ

3　OKボタンを押す

反時計方向にカメラを90°回して縦位置に構え、1枚目の構図を決めます。

4　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

1枚目の撮影画像が保存され、2枚目の撮影画面が表示されますので、画面左の位置あわせガイドに画像を重ねて、構図を決めます。
撮影を途中でやめるには手順7へ進みます。

6 シャッターボタンを全押しする

1枚目と2枚目の撮影画面が合成されます。
合成された画像は画像モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリに保存されます。
クイックビューがオフの場合は、合成結果は表示されません。

- 2枚目を撮影するときは、位置あわせガイドの右端を軸にしてカメラを旋回させるようにすると、ひずみの少ない写真ができます。
- 1枚目と2枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像が来たり、逆に何も無い場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.59）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- WIDE モードで撮影した画像は、5M（2592×1944）で保存されます。
- WIDE モードでは 1cm（1cmマクロ）は選択できません。

1枚目の画像だけで保存する/1枚目の画像を保存せずやり直す

2枚目を撮影せずに、1枚目だけを保存したり、1枚目の画像を破棄して、新たに1枚目の画像から撮影することができます。

7 OKボタンまたは十字キー（▼）を押す

保存するか確認する画面が表示されます。

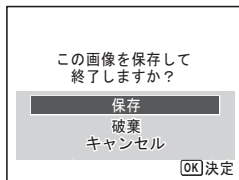
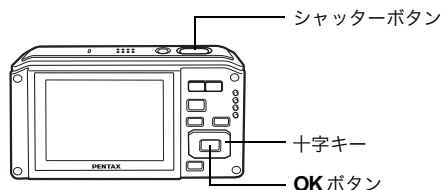
この画像を保存して
終了しますか？
保存
破棄
キャンセル
OK 決定

8 十字キー（▲▼）で処理を選ぶ

「保存」：1枚目の画像を保存して、新たに1枚目から撮影します。
1枚目の画像は 3M で保存されます。
「破棄」：1枚目の画像を保存せずに、新たに1枚目から撮影します。
「キャンセル」：2枚目の撮影画面に戻ります。

9 OKボタンを押す

選んだ処理により、1枚目または2枚目の撮影画面が表示されます。

4
撮影

セルフタイマーを使って撮影する

シャッターボタンを押してから、10秒または2秒後に撮影されます。
セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

(セルフタイマー)	撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用できます。 シャッターボタンを押してから約10 秒後に撮影されます。
(2秒セルフタイマー)	シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されますので、手ぶれを避けるために利用できます。

1　(撮影)モードで十字キー（▲）を押す

2　十字キー（◀▶▼）を押して、(セルフタイマー) または(2秒セルフタイマー)を選択し、OK ボタンを押す

セルフタイマーを使って撮影できる状態になります。

3　シャッターボタンを半押しする

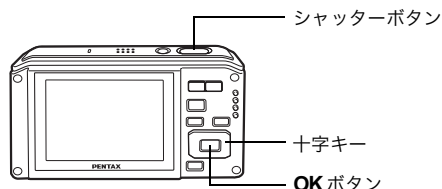
ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4　シャッターボタンを全押しする

10秒後または2秒後に撮影されます。

静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。

- (動画) モードでは、10秒 (または2秒) 後に動画撮影が始まります。
- カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、全押しするとカウントダウンをやり直します。
- (2秒セルフタイマー) は (グリーン) モードの初期設定では選べません。ただし、他の撮影モードで (2秒セルフタイマー) を選んでから、撮影モードを (グリーン) モードに切り替えると、選べるようになります。

4
撮影

連続して撮影する（連続撮影／高速連写）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

▣	連続撮影	1枚撮影するごとに、画像をメモリーに書き込み、続いて次の静止画を撮影します。高画質の画像ほど、撮影間隔が長くなります。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで撮影できます。
▣HS	高速連写	連続して7枚まで、3.5コマ／秒（感度3200、6400時は5.3コマ／秒）の速度で連続して撮影します。

1　◘モードで十字キー（▲）を押す

2　十字キー（◀ ▶ ▼）を押して、▣（連続撮影）または▣HS（高速連写）を選択し、OKボタンを押す

連続撮影できる状態になります。

3　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4　シャッターボタンを全押しする

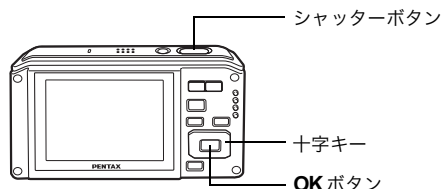
シャッターボタンを押し続けている間、連続して写真が撮影されます。

注意

- 連続撮影／高速連写では、ストロボは発光しません。
- AUTO PICT（オートピクチャー）、▣（夜景）、▣（動画）、▣（マーメードムービー）、▣（花火）、▣（ボイスレコーディング）、▣（パノラマ）、WIDE（デジタルワイド）モードでは、▣（連続撮影）、▣HS（高速連写）は選べません。

4 撮影

- 連続撮影の間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。
- ピント、露出、ホワイトバランスは、1枚目で固定されます。
- 顔検出機能（p.59）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- 高速連写の記録サイズは、5M に固定されます。ただし、撮影モードが に設定されているときは、1280（1280×960）に固定されます。

4
撮影

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）

設定した時刻から、設定した時間間隔で、設定した枚数を自動的に撮影します。

撮影間隔	10秒～99分	10秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定できます。9秒以下に設定することはできません。
撮影枚数	2枚～撮影可能枚数	最大で1000枚まで設定できます。ただし撮影可能枚数以上は設定できません。
撮影開始時間	0分後～24時間後	0～59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

1　📷モードで十字キー（▲）を押す

2　十字キー（◀▶）で（インターバル撮影）を選択し、OK ボタンを押す

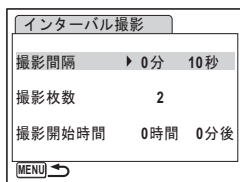
現在のインターバル撮影設定内容が約1分間表示されます。現在の設定のまま撮影をする場合は手順10に進みます。

3　設定内容表示中にOK ボタンを押す

インターバル撮影設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

4　撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「秒」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影間隔」に戻ります。

4 撮影

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影枚数」に移動します。

6 撮影枚数を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影枚数」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 OKボタンを押す

インターバル撮影機能の設定が保存され、撮影できる状態になります。

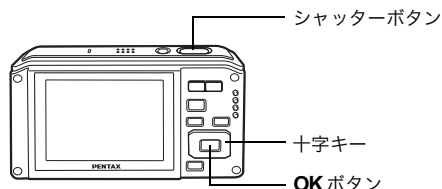
10 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

11 シャッターボタンを全押しする

インターバル撮影を開始します。
撮影と撮影の間（撮影待機中）は、電源がオフになります。撮影待機中に電源スイッチを押すと、画像モニターに残りの撮影枚数と撮影間隔が表示されます。
撮影待機中に電源スイッチを押して、**MENU**ボタンを押すと、「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すと、インターバル撮影が中止されます。

- AUTO PICT、●、🎤、◎、▮▮▮、WIDEモードでは、インターバル撮影はできません。
- 🎥、📷モードのインターバル撮影については、p.133～p.135をご覧ください。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。

インターバル撮影の設定は、「撮影メニュー」からも行うことができます。（p.115）

露出条件を自動で変えて撮影する（オートブラケット）

1回シャッターボタンを押すと、露出を自動的に変えた3枚の写真を連続して撮影します。撮影した後に、写りのいい画像を選ぶことができます。
撮影の順番は、適正露出→ -1.0EV→ +1.0EVとなります。

1 　モードで十字キー（▲）を押す

2 十字キー（◄►）を押して、（オートブラケット）を選択し、OK ボタンを押す

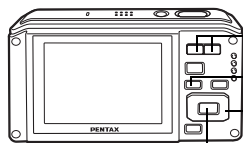
オートブラケット撮影できる状態になります。

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを1回押すと露出を自動的に変えた3枚の写真が撮影されます。

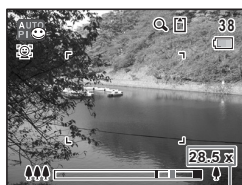
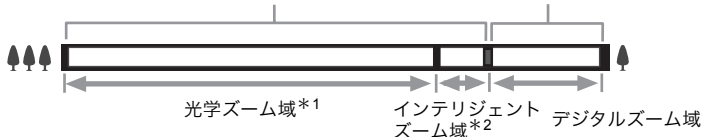
- クイックビューの時間が設定されている場合（p.117）、撮影後に3枚目に撮影された画像がクイックビュー表示されます（p.44）。ただしクイックビュー表示中に ボタンを押しても画像消去はできません。
- （動画）、（マーメードムービー）、（ボイスレコーディング）、（オートピクチャー）、（グリーン）、（花火）、（パノラマ）、（デジタルワイド）、（フレーム合成）モードではオートブラケットは選択できません。

ズームを使って撮影する

ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 ◘モードでズーム/♠♠♠/♠ ボタンを押す

♠♠♠ 広角：被写体を広い範囲で写す

♠ 望遠：被写体を拡大して写す

押し続けると、自動的に光学ズーム、インテリジェントズームに切り替わり、デジタルズームの切り替わり点で止まります。
いったんボタンを離して、もう一度押すとズームします。
メニュー内でデジタルズームをオフにすると、光学ズーム+インテリジェントズームの領域が使用可能です。記録サイズによりインテリジェントズームの倍率は異なります。

ズームバーは、次のように表示されます。

*1 光学5倍までズームできます。

*2 記録サイズにより、インテリジェントズーム域は変化します。次の表をご覧ください。

記録サイズと最大ズーム倍率

<table>
<tr><th>記録サイズ</th><th>インテリジェントズーム</th><th>デジタルズーム</th></tr>
<tr><td>10M</td><td>使えません（光学5倍のみ）</td><td rowspan="7">約28.5倍相当</td></tr>
<tr><td>7.5M</td><td>使えません（光学5倍のみ）</td></tr>
<tr><td>7M</td><td>約5.9倍</td></tr>
<tr><td>5M</td><td>約7.0倍</td></tr>
<tr><td>3M</td><td>約8.9倍</td></tr>
<tr><td>1280</td><td>使えません（光学5倍のみ）</td></tr>
<tr><td>1024</td><td>約17.8倍</td></tr>
<tr><td>640</td><td>約28.5倍（デジタルズームと同じ）</td><td></td></tr>
</table>

- 高倍率の撮影では、手ぶれを防止するため三脚などのご利用をおすすめします。
- デジタルズーム領域で撮影すると、光学ズーム領域で撮影したときよりも画像の細密さが低下します。
- 次の場合、インテリジェントズームは使えません。
  記録サイズが10M、7.5Mのとき（光学5倍ズームは使えます。）
  （動画）モード時
  （マーメードムービー）モード時
  （Digital SR）モード時
  （CALS）モード時
  感度を3200または6400に設定しているとき
- インテリジェントズームで高倍率に拡大すると、画像モニターの画像があらく見えることがあります。撮影した静止画の画質には、影響はありません。
- 、モードで使用可能なズームは、光学ズーム+デジタルズーム/光学ズームのみ/デジタルズームのみです（メニュー設定により異なります）。
- デジタルズームの設定（オン／オフ）に関係なく、インテリジェントズームは使用可能です。
- 、モードで撮影中に光学ズームを使用した場合、レンズ駆動の作動音が音声録音に入ります。

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームは☑（オン）に設定されています。光学ズーム領域だけを使って撮影したい場合は、□（オフ）に設定します。

1　📷モードでMENUボタンを押す

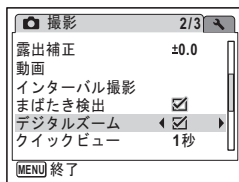
「📷撮影」メニューが表示されます。

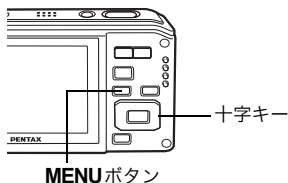
2　十字キー（▲▼）を押して「デジタルズーム」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で☑（オン）と□（オフ）を切り替える

選んだ設定が保存されます。

4　MENUボタンを押す

設定を終了して、撮影できる状態になります。

デジタルズーム機能の設定を保存する ☞p.125

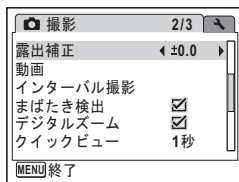
デジタルズームがオフに設定されていても記録サイズの設定によって、インテリジェントズームは使用可能です。

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影する際に利用します。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「露出補正」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）を押して、補正量を選ぶ

選んだ補正量で保存されます。
明るくする場合は+側に、暗くする場合は–側に設定します。
露出補正の値は、–2.0EV～+2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

4 MENUボタンを押す

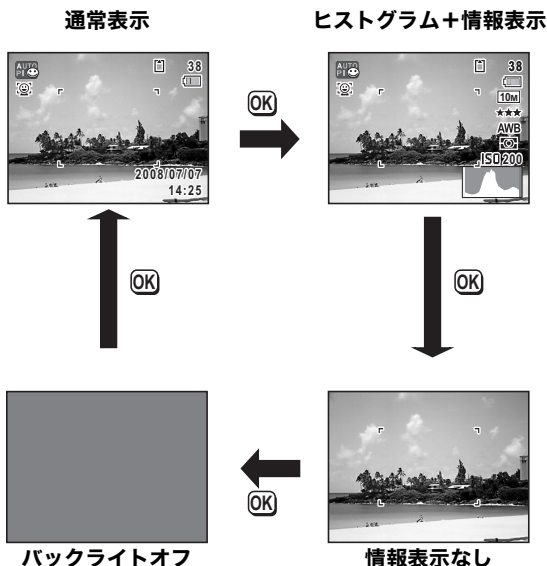
設定を終了して、撮影できる状態になります。

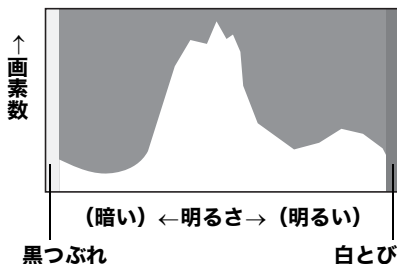
- ヒストグラムを表示すると、画像モニター上に白とび、黒つぶれ個所が表示され、露出が適切かどうかを確認できます。(p.98)
- AUTO PICT（オートピクチャー）、●（グリーン）モードでは、露出補正機能は使用できません。

露出補正値を保存する ☞p.125

撮影情報を確認する

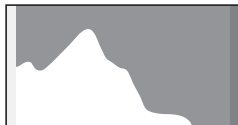
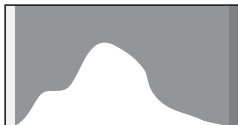
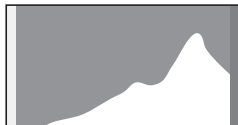
OK/DISPLAY ボタンを押すたびに、画像モニターの表示が「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」「情報表示なし」「バックライトオフ」に切り替わります。
表示内容の詳細は、「画面の表示」（p.21）をご覧ください。

- バックライトがオフの時にも、すべてのボタンは通常通り使用できます。シャッターボタンを押せば、通常通り撮影できます。
- 手ぶれしやすい条件のとき、シャッターボタン半押しすると ⚠ が表示されます。手ぶれを防ぐには、三脚とセルフタイマーを使っての撮影が有効です。（p.87）
- ●（グリーン）モードでは、**OK/DISPLAY** ボタンを押して表示を切り替えることはできません。

ヒストグラムを使う

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影前や撮影後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断にご利用いただけます。

露出を補正する ☞p.96

画像の明るさを見る

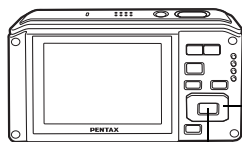
画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

適正な明るさの画像

明るい画像

また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左に来てしまう部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右に来てしまう部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
Optio W60には、黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。

撮影情報を確認する ☞p.97
撮影時の情報を表示する ☞p.144

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部になだらかな山のピークが来ます。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークが来て、中央部分がくぼんだグラフになります。

撮影のための機能を設定する

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

フォーカスモード

AF	標準	通常はこのモードで撮影します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷	マクロ	近接撮影をするときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。ピントが合わない場合、撮影できません。
🌷1cm	1cmマクロ	被写体に1cmまで近寄って撮影できます。 ピントが合わない場合、撮影できません。
PF	パンフォーカス	他の人に撮ってもらうときや、車や電車の窓越しに外の風景を撮るときなどに使用します。手前から奥までピントが合うようになります。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⚡（発光禁止）となります。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

押すたびにフォーカスモードが切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

2 シャッターボタンを半押しする

フォーカスモードが保存され、撮影できる状態になります。

メモ

- ●（グリーン）モードでは、AF、🌷、PFのみ選択できます。
- WIDEでは🌷1cm（1cmマクロ）は選択できません。
- 🎥、🎥モードでフォーカスモードのPF、▲以外を選択した場合、撮影中のピント合わせ時の作動音が音声録音に入ります。
- AFを選択し、フォーカスリミットが□（オフ）に設定（p.114）されている場合のみ、被写体までの距離が50cmより近いと、自動的に10cmからのピント合わせが行われます（オートマクロ）。
- 🌷を選択して撮影する場合、被写体までの距離が60cmより遠いと、自動的に∞（無限遠）までのピント合わせが行われます。

フォーカスモードを保存する ☞p.125

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

MFでの設定方法を説明します。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

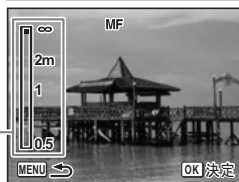
2 十字キー（▶）を押してMFを選び、OKボタンを押す

ピント合わせ中は、画面中央部が画像モニターいっぱいに拡大して表示されます。

3 十字キー（▲▼）を押す

画像モニターにMFバーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安に十字キー（▲▼）でピントを合わせます。

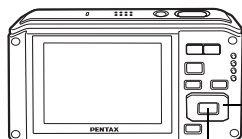
▲ ：遠くにピントが合う
▼ ：近くにピントが合う

MFバー

4 OKボタンを押す

フォーカス位置が決まり、撮影できる状態になります。
十字キー（▶）から手を離して1分以上経過した場合も、フォーカス位置が決まります。
フォーカス位置を決定させた後、もう一度十字キー（▶）を押すと、MFバーが表示され、ピントを合わせ直すことができます。

メモ

MFから他のフォーカスモードに切り替えるときは、MFバーが表示されている間に十字キー（▶）を押してください。

MFバーが表示されている間は、撮影モードやドライブモードを変更できません。

ストロボの発光方法を選択する

ストロボの発光方法

	オート	暗いときや逆光のときに自動的にストロボを発光します。
	発光禁止	暗いときや逆光のときでも発光しません。ストロボの使えない場所での撮影にご利用ください。
	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
	オート+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。
	強制+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。
SOFT	ソフト	ストロボの光量を絞り、近い距離でストロボを発光しても、明るすぎないようにします。常にストロボを発光します。

- 撮影モードが（動画）または（マーメードムービー）、ドライブモードが（連続撮影）または（高速連写）、フォーカスモードが（無限遠）に設定されているときは、常に（発光禁止）になります。
- 赤目軽減機能を使用した場合は、本発光の前にプリ発光（予備発光）を行います。
- （グリーン）モードでは、とのみ選択できます。
- （夜景）モードでは、とは選択できません。

近距離撮影時にストロボを発光させると、ストロボの配光にムラができる場合があります。

4 撮影

1 モードで十字キー（◀）を押す

押すたびに発光方法が切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

2 OKボタンを押す

選択したストロボ発光方法で撮影ができる状態になります。

[ストロボ撮影の赤目現象について]

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。赤目現象は、人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くして広角側で撮影すると、発生しにくくなります。また、ストロボの発光方法を（オート＋赤目）や（強制＋赤目）にするのも有効です。
それでも赤目になってしまった画像は、赤目補正機能（p.168）を使って修正できます。

ストロボ発光方法を保存する ☞p.125

4 撮影

記録サイズを選択する

静止画像の記録サイズ（記録画素数）を8種類から選べます。
記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真のきれいさには画質や露出制御、使用するプリンターの解像度なども関係してきますので、むやみに大きくする必要はありません。はがきサイズにプリントする場合は、3M（2048×1536）程度が目安となります。記録サイズが大きくなるほど、画像が大きくなりファイルサイズも増えます。ただし、画像のファイルサイズは画質の設定（p.105）によっても異なります。

記録サイズ

記録サイズ		用途
10M 3648×2736	鮮明、きれい ↑	フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
7.5M （16:9）3648×2056		ハイビジョンTVと同じアスペクト比による、自然な広がり感の表現など
7M 3072×2304		
5M 2592×1944		
3M 2048×1536		はがきサイズプリントなど
1280 1280× 960		
1024 1024× 768		
640 640× 480		ホームページ掲載、電子メール添付など

- 7.5Mを選ぶと、画像の横縦比が16：9になります。
- 1280（1280×960）は（CALS）モード設定時だけの記録サイズです。

1　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「記録サイズ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で記録サイズを切り替える

撮影可能枚数 12

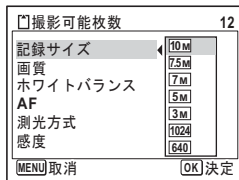
記録サイズ ◀ 10M
画質 7.5M
ホワイトバランス 7M
AF 5M
測光方式 3M
感度 1024
640

MENU 取消　OK 決定

5 OKボタンを押す

記録サイズの設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

- （フレーム合成）モードで撮影した画像は、3M に固定されます。
- WIDE（デジタルワイド）モードまたは（Digital SR）モードで撮影した画像は、5M に固定されます。
（ただし、2枚目の撮影をせずにデジタルワイドを終了した場合は3M になります）
- （パノラマ）モードで1枚目のみを撮影して保存した場合は、2M に固定されます。
- ドライブモードが　に設定されているときは記録サイズが　5M（2592×1944）に、撮影モードがに設定されているときは、記録サイズが1280（1280×960）に固定されます。

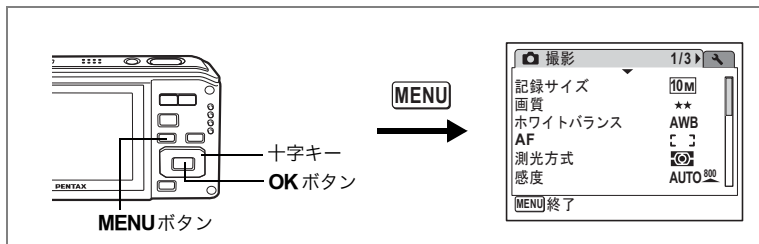
静止画の記録サイズと画質 ☞p.34

7.5M 選択時の撮影画面／再生画面について

7.5M を選ぶと、画像の横縦比が16：9になります。撮影画面は右図のように表示されます。

撮影画面

表示中にOK/DISPLAYボタンを押すと、他の記録サイズを選択している場合と同様に、撮影情報表示を切り替えることができます。（p.97、p.144）

再生画面

画質を選択する

静止画像の画質（圧縮率）が選べます。
★の数が多いほど、圧縮率は低くなり、画像はきれいになりますが、ファイルサイズも増えます。ただし、画像のファイルサイズは、記録サイズの設定（p.103）によっても異なります。

画質

★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「画質」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で画質を切り替える

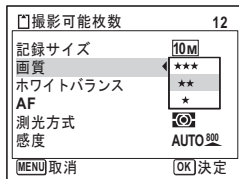
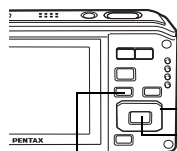
5　OKボタンを押す

画質の設定が保存されます。

6　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

静止画の記録サイズと画質 ☞p.34

4 撮影

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて画像を自然な色合いに調整する度合いを設定します。

ホワイトバランス

AWB	オート	調整をカメラが自動的に行います。
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

- ホワイトバランスを AWB（オート）に設定して撮影した画像がお好みの色合いでない場合には、ホワイトバランスをAWB（オート）以外に設定してください。
- 撮影モードによっては、ホワイトバランスの変更ができない場合があります。詳しくは「撮影モードごとの使える機能／使えない機能」（p.214〜p.216）をご覧ください。

1 　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「ホワイトバランス」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

5　OKボタンを押す

ホワイトバランスの設定が保存されます。

6　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。
マニュアルで設定する場合は、下記をご覧ください。

ホワイトバランスを保存する ☞p.125

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1　「ホワイトバランス」画面で十字キー（▲▼）を押して（マニュアル）を選ぶ

2　ホワイトバランスの調整に用いる素材（白い紙など）にレンズを向け、画像モニター画面中央に表示されている枠の中いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

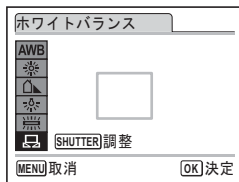
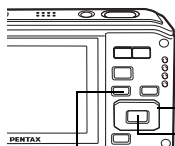
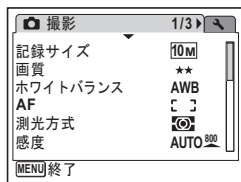
3　シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

4　OKボタンを押す

今行った設定が保存され、「撮影」メニューに戻ります。

5　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

測光方式

	分割測光	画面内を256分割して明るさを測り、露出を決めます。
	中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
	スポット測光	画面の中央だけの明るさを測り、露出を決めます。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「測光方式」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

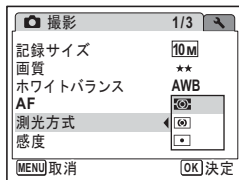
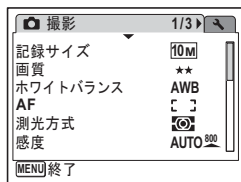
ポップアップが表示されます。

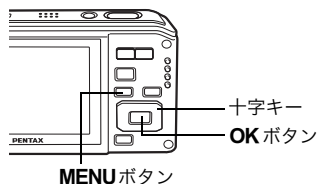
4 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

5 OKボタンを押す

測光方式の設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

- 測光は、シャッターボタンを半押ししたときに行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を「スポット測光」を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードによっては、測光方式の変更ができない場合があります。詳しくは「撮影モードごとの使える機能／使えない機能」（p.214～p.216）をご覧ください。

測光方式を保存する ☞p.125

感度を設定する

カメラの撮像素子の光に対する敏感さを、感度といいます。数値が小さいほど感度は低く、大きいほど高くなります。撮影する場所の明るさに応じて、感度を調整します。

感度

<table>
<tr><td>AUTO</td><td>初期設定は、AUTO800（50-800）です。
AUTO調整範囲は、50-100、50-200、50-400、50-800、50-1600から指定できます。
（Digital SRモードでは50-6400で自動決定されます。）</td></tr>
<tr><td>50</td><td rowspan="8">• 感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。
• 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッタースピードを早くできます。画像にはノイズが増えます。</td></tr>
<tr><td>100</td></tr>
<tr><td>200</td></tr>
<tr><td>400</td></tr>
<tr><td>800</td></tr>
<tr><td>1600</td></tr>
<tr><td>3200</td></tr>
<tr><td>6400</td></tr>
</table>

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

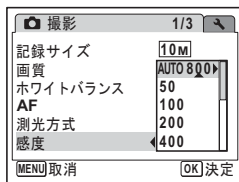
2 十字キー（▲▼）を押して「感度」を選ぶ

4
撮影

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で感度の設定値を選ぶ

選択枠が[400]にあるとき十字キー（▼）を押すと、[800]、[1600]、[3200]と[6400]が表示されます。

AUTO調整範囲を指定しない場合

5　OKボタンを押す

感度の設定が保存されます。

6　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

- 撮影モードがに設定されているときは、50〜6400の間で自動調整されます。変更することもできます。
- 撮影モードが《♀》に設定されているときは、AUTO6400 (50-6400)のみになります。
- 撮影モードが◎に設定されているときは、50に固定されます。それ以外の感度には変更できません。
- 記録サイズで7.5Mを選択していると、[3200]と[6400]は選択できません。
- 感度を3200または6400に設定すると、記録サイズは5Mに固定されます。
- 撮影モードが（動画）または（マーメードムービー）に設定されているときは、「AUTO」（感度50〜800）のみになります。

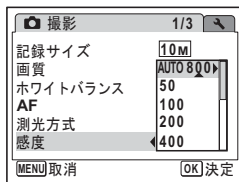
AUTO調整範囲を指定する場合

5　「AUTO」を選び、十字キー（▶）を押す

AUTO調整範囲の選択画面が表示されます。

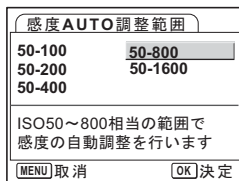
6 十字キー（▲▼◀▶）で、調整範囲を選ぶ

感度AUTO調整範囲	
50-100	50-800
50-200	50-1600
50-400	

ISO50〜800相当の範囲で
感度の自動調整を行います
MENU 取消　OK 決定

7 OKボタンを2回押す

AUTO調整範囲の設定が保存されます。

8 MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

- AUTO調整範囲は、モードメモリの設定にかかわらず常に保持されます。感度の設定は、モードメモリの感度がオンの場合にのみ保持されます。
- 撮影モードがに設定されているときは、感度のAUTO調整範囲は「50-6400」になりますが、変更できます。
- 撮影モードが(Digital SR)に設定されているときは、「AUTO6400」（感度50〜6400）のみになります。

感度を保存する ☞p.125

4
撮影

オートフォーカス条件を設定する

オートフォーカスに関するいろいろな条件を設定します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

オートフォーカスの設定画面が表示されます。

オートフォーカス範囲を設定する（AFエリア）

オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）を設定します。

AFエリア

[ ]	マルチ	通常範囲に設定します。
[:]	スポット	フォーカスが合う範囲を狭くします。
	自動追尾	動き回る被写体にフォーカスを合わせ続けます。

4 十字キー（▶）を押す

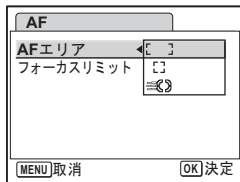
ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）でAFエリアを切り替える

6 OKボタンを押す

AFエリアの設定が保存されます。

7 MENUボタンを2回押す

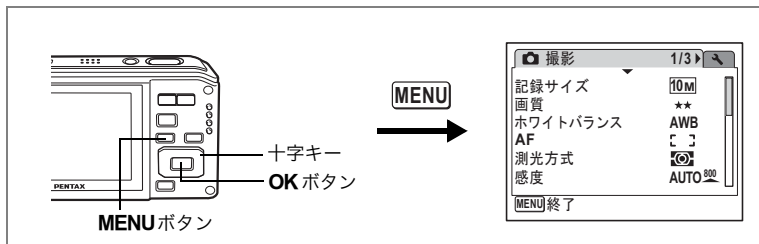
設定した内容で、撮影できる状態になります。

フォーカスリミットを設定する

レンズの移動範囲を状況に応じて制限します。
「フォーカスリミット」を「☑（オン）」にすると、レンズの移動が通常の撮影では遠距離側に、マクロ撮影では近距離側に制限されます。素早いピント合わせが可能になります。

4　十字キー（▲▼）で「フォーカスリミット」を選ぶ

5　十字キー（◀▶）で「☑（オン）／□（オフ）」を切り替える

6　MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

インターバル撮影について設定する

設定した時刻から、設定した時間間隔で、設定した枚数を自動的に撮影します。

撮影間隔	10秒～99分	10秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定できます。9秒以下に設定することはできません。
撮影枚数	2枚～撮影可能枚数	最大で1000枚まで設定できます。ただし撮影可能枚数以上は設定できません。
撮影開始時間	0分後～24時間後	0～59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

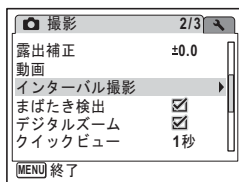
「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「インターバル撮影」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

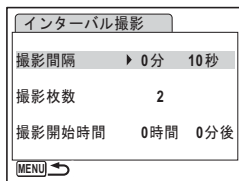
インターバル撮影設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

4 撮影間隔を設定する

インターバル撮影
撮影間隔 ▶ 0分 10秒
撮影枚数 2
撮影開始時間 0時間 0分後
MENU

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「秒」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影間隔」に戻ります。

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影枚数」に移動します。

6 撮影枚数を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影枚数」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

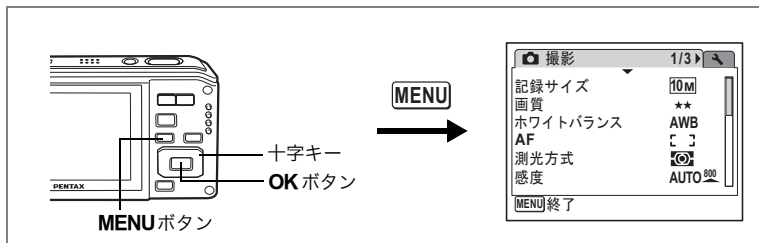
選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 MENUボタンを2回押す

インターバル撮影機能の設定が保存され、撮影画面に戻ります。ここまでの操作はインターバル撮影の設定を行っただけですので、実際にインターバル撮影を行うには、ドライブモードで「インターバル撮影」を選択する必要があります。

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）☞p.90

- 、、、、モードでは、インターバル撮影はできません。
- 、モードのインターバル撮影については、p.133～p.135をご覧ください。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。

インターバル撮影の設定は、ドライブモードからも行うことができます。（p.90）

クイックビューの時間を設定する

クイックビュー（撮影直後の画像表示）の時間を0.5秒、1秒、2秒、3秒、4秒、5秒、オフ（表示しない）から選びます。

1　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「クイックビュー」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

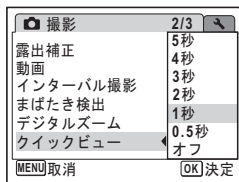
撮影 2/3
露出補正
動画
インターバル撮影
まばたき検出
デジタルズーム
クイックビュー
5秒
4秒
3秒
2秒
1秒
0.5秒
オフ
MENU 取消　OK 決定

4　十字キー（▲▼）で表示時間を選ぶ

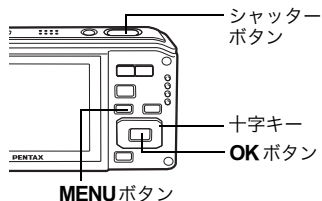
5　OKボタンを押す

クイックビューの設定が保存されます。

6　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

クイックビュー ☞p.44

撮影時に顔検出が行われた場合は、クイックビュー時にまばたき検出が行われます（p.61）。

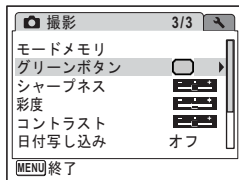
4
撮影

グリーンボタンを設定する

グリーンボタンに「グリーンモード」(p.66)、「Fn設定」(p.119)のいずれかの機能を登録できます。グリーンボタンを押すだけで、登録されている機能に切り替わります。

機能を登録する(グリーンモード)

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー(▲▼)で「グリーンボタン」を選ぶ

3　十字キー(▶)を押す

グリーンボタンの設定画面が表示されます。

4　十字キー(▲▼)で登録する機能を選ぶ

5　OKボタンを押す

グリーンボタンの設定が保存されます。

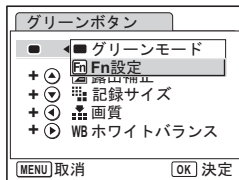
6　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

初期設定では、グリーンモードが登録されています。

よく使う機能を設定する（Fn設定）

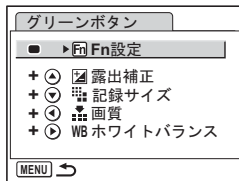
よく使う機能を十字キーに登録します。撮影時にメニューを表示しなくても、十字キーを押すことで直接機能を設定することができます。「Fn設定」は静止画撮影モードと動画撮影モードで異なる設定になっています。動画撮影時の「Fn設定」を行うには、p.118の手順1で、動画モードでMENUボタンを押してください。

4　十字キー（▲▼）で「Fn設定」を選ぶ

5　OKボタンを押す

Fn設定画面が表示されます。

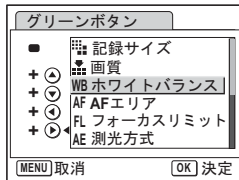
6　十字キー（▲▼）で登録するキーを選ぶ

7　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8　十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

9　OKボタンを押す

10　MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

この機能は、グリーンボタンにFn設定を割り当てたときにのみ有効です。

各キーに登録できる機能は、ひとつだけです。

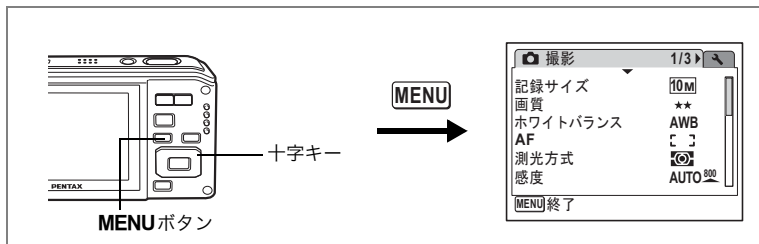
Fn設定の初期値

	静止画撮影	動画撮影
初期設定	(▲)露出補正	(▲)Movie SR
	(▼)記録サイズ	(▼)露出補正
	(◀)画質	(◀)記録サイズ
	(▶)ホワイトバランス	(▶)ホワイトバランス

Fn設定の設定可能項目

	静止画撮影	動画撮影
設定項目	記録サイズ	記録サイズ
	画質	カラーモード
	ホワイトバランス	Movie SR
	AFエリア	ホワイトバランス
	フォーカスリミット	AFエリア
	測光方式	露出補正
	感度	シャープネス
	露出補正	彩度
	シャープネス	コントラスト
	彩度	
	コントラスト	

登録した機能の変更方法

撮影モードでグリーンボタンを押すと、Fn設定画面が表示されます。十字キー（▲▼◀▶）で設定したい項目を選び、十字キー（▲▼）または十字キー（◀▶）で設定を変更します。

シャープネスを設定する

画像の輪郭をシャープにするかソフトにするかを選びます。

1 　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「シャープネス」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でシャープネスの強さを切り替える

下記の設定で保存されます。

（ソフト）
（標準）
（シャープ）

4 MENUボタンを押す

保存されたシャープネスで、撮影できる状態になります。

MENUボタン

十字キー

MENU

撮影 1/3

記録サイズ 10M

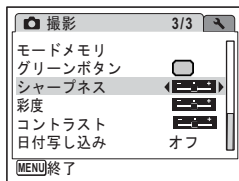
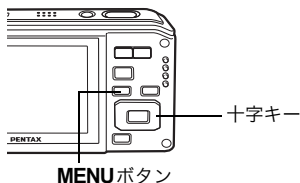
画質 ★★

ホワイトバランス AWB

AF

測光方式

感度 AUTO 800

MENU 終了

彩度を設定する

色の鮮やかさを設定します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

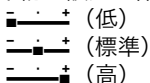
2 十字キー（▲▼）を押して「彩度」を選ぶ

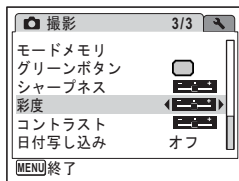
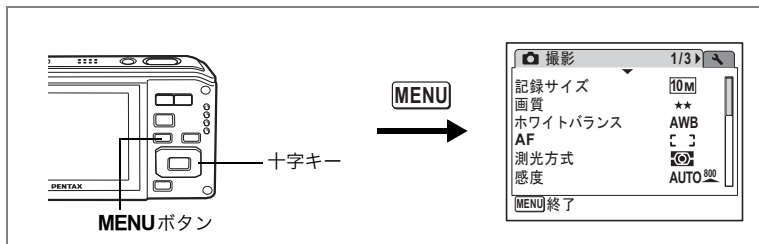
3 十字キー（◀▶）で彩度の高さを切り替える

下記の設定で保存されます。

（低）

（標準）

（高）

4 MENUボタンを押す

保存された彩度で、撮影できる状態になります。

コントラストを設定する

画像の明暗差の度合いを設定します。

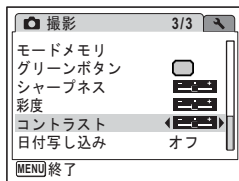
1 　モードでMENUボタンを押す

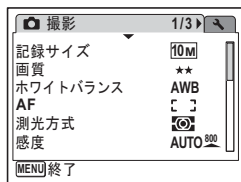
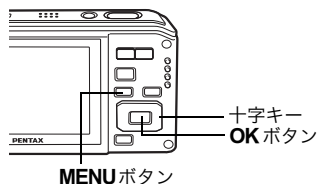
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「コントラスト」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でコントラストの高さを切り替える

下記の設定で保存されます。

（低）
（標準）
（高）

4 MENUボタンを押す

保存されたコントラストで、撮影できる状態になります。

日付写し込みを設定する

静止画撮影時に日付や時刻の写し込みを行うかなどを設定します。

1 　モードでMENUボタンを押す

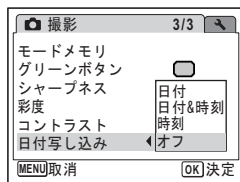
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「日付写し込み」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

撮影 3/3
モードメモリ
グリーンボタン
シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み
日付
日付&時刻
時刻
オフ
MENU 取消
OK 決定

4 十字キー（▲▼）で「日付」「日付&時刻」「時刻」「オフ」のいずれかを選ぶ

5 OKボタンを押す

日付写し込みの設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

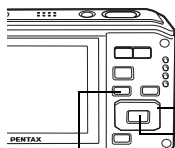
設定した内容で、撮影できる状態になります。

注意

- 手順4で「オフ」以外を選択すると、DATE が画面に表示されます。
- 「日付写し込み」で画像に写し込んだ日付は、あとから消去できません。
- 日付と時刻は、「日時設定」で設定した表示スタイルで写し込まれます。
- 日付を写し込んだ画像を印刷するとき、プリンターや画像編集ソフトで日付を印刷するように設定していると、日付が二重に印刷されます。ご注意ください。
- グリーンモードでは「日付写し込み」の設定に関係なく、写し込みは行われません。

設定を保存する（モードメモリ）

カメラの電源をオフにしても、カメラの諸設定を維持する機能を「モードメモリ」と呼びます。
撮影のための設定には、モードメモリが常に☑（オン）のもの（電源をオフにしても常に設定を維持するもの）と、モードメモリのオン／オフが選べるもの（電源をオフにしたときに設定を維持するかどうかを選べるもの）があります。モードメモリのオン／オフが選べる項目を表に示します。（ここに示した以外の項目は、電源をオフにしても常に設定が保存されます）☑（オン）を選ぶと、電源オフ直前の設定状態をメモリーします。□（オフ）を選ぶと、電源をオフにしたときにその項目の設定がご購入時の状態に戻ります。表では、モードメモリの初期設定がオンの状態なのか、オフの状態なのかも示しています。

項目	内容	初期設定
顔認識モード	顔ボタンで設定した顔検出モード（p.59）	□
ストロボモード	十字キー（◀）で設定したストロボモード（p.101）	☑
ドライブモード	十字キー（▲）で設定したドライブモード（p.87～p.92）	□
フォーカスモード	十字キー（▶）で設定したフォーカスモード（p.99）	□
ズーム位置	ズーム/♠♠♠/♠ボタンで設定したズーム位置（p.93）	□
MF位置	十字キー（▲▼）で設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離（p.100）	□
ホワイトバランス	「◘撮影」メニューの「ホワイトバランス」での設定（p.106）	□
感度	「◘撮影」メニューの「感度」で設定した値（p.110）	□
露出補正	「◘撮影」メニューの「露出補正」で設定した値（p.96）	□
測光方式	「◘撮影」メニューの「測光方式」での設定（p.108）	□
デジタルズーム	「◘撮影」メニューの「デジタルズーム」での設定（p.95）	☑
DISPLAY	**OK/DISPLAY** ボタンで設定した画像モニターの情報表示状態（p.97、p.144）	□
ファイルNo.	オンにすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用	☑

1　📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「モードメモリ」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「モードメモリ」画面が表示されます。

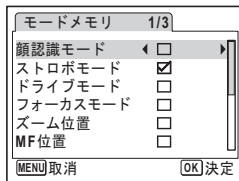
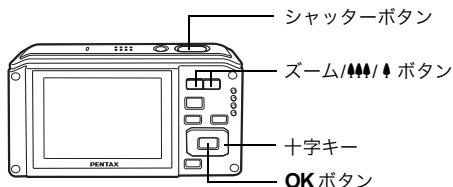
4　十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

5　十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6　OKボタンを押す

モードメモリの設定が保存されます。

7　MENUボタンを押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

動画を撮影する

動画を撮影する

動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

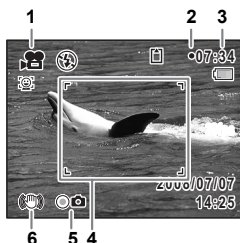
1　モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（動画）を選ぶ

3　OK ボタンを押す

（動画）モードが選択され、撮影できる状態になります。
画像モニターに次の情報が表示されます。

1 動画モードアイコン
2 録画中アイコン（録画中に点滅）
3 撮影可能時間
4 フォーカスフレーム（録画中は表示されません）
5 静止画キャプチャーアイコン（録画中に表示されます）
6 手ぶれ補正アイコン

ズーム/♠♠♠/♠ ボタンを押すと、被写体の写る範囲が変わります。

♠　：被写体を拡大して写す
♠♠♠：被写体を広い範囲で写す

4 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。録画は連続で内蔵メモリー/SDメモリーカードの容量いっぱい、または最大で2GBまで可能です。

- 🎥モードでは、ストロボは発光しません。
- フォーカスモードは、撮影開始前に変更することができます。
- フォーカスモードを **AF**、または 🌷、🌷1cm に設定している場合は、撮影開始前にシャッターボタンを半押ししてピント位置をロックしての撮影になります。ただしメニュー設定で、動画撮影中、常に被写体に合わせてピントを調整し続けるようにすることが可能です（p.136）。
- フォーカスモードを**MF**（マニュアルフォーカス）に設定している場合は、撮影開始前にピントを調整することができます。
- 光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前に使うことができます。撮影中も撮影メニューの設定により、使うことができます。
- 動画撮影中は、**OK**/**DISPLAY** ボタンを使って画像モニターの表示を切り替えることができません。
- 撮影モードを 🎥 にすると、顔認識機能がオンになります。動画の撮影を開始する前に 😊 ボタンを押して、スマイルキャッチ機能を選択するか、または顔検出機能をオフにできます。(p.59)。スマイルキャッチ機能が選択されている場合は、笑顔を検出すると自動的に動画の撮影が開始されます。ただし検出した顔の条件によって、「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的に撮影が開始されないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押すことで撮影を開始させることができます。

5 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。

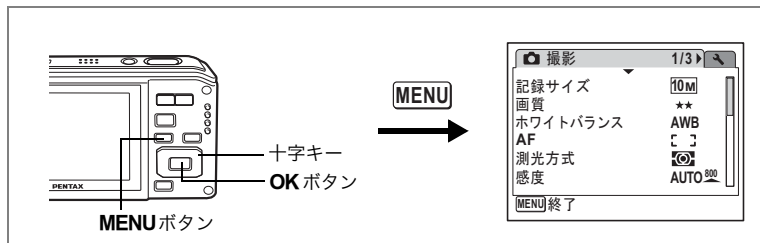
動画を再生する ☞p.149

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている時間だけ撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画の撮影中に静止画を撮影する（静止画キャプチャー）

動画の撮影中にグリーンボタンを押すと、動画の撮影を続けながら静止画を撮影することができます。グリーンボタンを押した瞬間の1コマが静止画として保存されます。

バッテリー残量表示が ▭ （残量がほとんどない）の状態では、動画撮影中に静止画を撮影するときにストロボが発光しません。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する

動画の記録サイズとフレームレートを設定します。
「記録サイズ」が大きいほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。
「フレームレート」（1秒間に撮る画面数）が大きいほど滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。
「1280(1280×720) 15fps（※）」「640(640×480) 30fps」「640(640×480) 15fps」「320(320×240) 30fps」「320(320×240) 15fps」の5通りの組み合わせから選びます。

動画の記録サイズ

記録サイズ		用途
1280 15（1280×720）：15fps	↑	横縦比16：9のハイビジョン動画（※）
640 30（640×480）：30fps		テレビやAV機器での動画鑑賞など
640 15（640×480）：15fps		
320 30（320×240）：30fps		
320 15（320×240）：15fps	↓	ホームページ掲載、電子メール添付など

（※）：再生にはパソコンが必要です。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

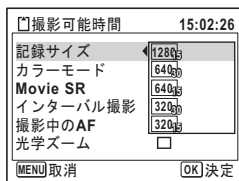
ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で記録サイズを切り替える

7 OKボタンを押す

記録サイズの設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

動画の記録サイズ／フレームレート ☞p.35

4 撮影

白黒やセピア色で動画を撮影する（カラーモード）

動画撮影時にカラーモードとして、「フルカラー」のほかに「白黒」と「セピア」が選べます。

1　📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「カラーモード」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

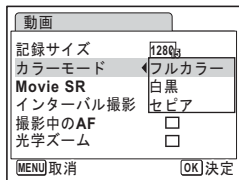
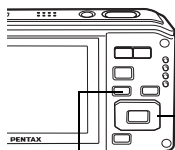
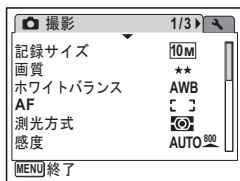
動画
記録サイズ 1280 15
カラーモード ◀フルカラー
Movie SR 白黒
インターバル撮影 セピア
撮影中のAF □
光学ズーム □
MENU 取消　OK 決定

6　十字キー（▲▼）で色を選ぶ

7　OKボタンを押す

カラーモードの設定が保存されます。

8　MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

撮影後の動画の「カラーモード」は、変更できません。

動画の手ぶれ補正を設定する（Movie SR）

動画撮影時に、Movie SR（動画手ぶれ補正機能）を使って動画撮影中の手ぶれを補正することができます。

1　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

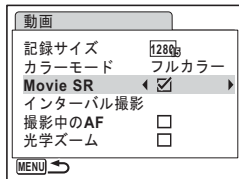
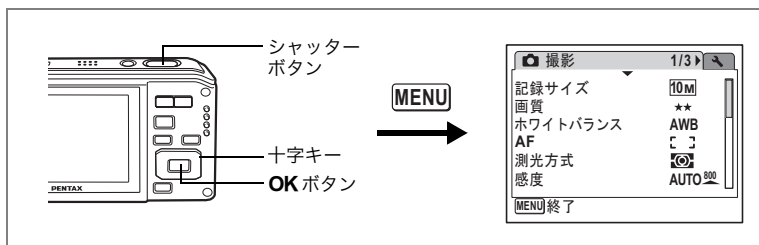
「動画」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選ぶ

5　十字キー（◀▶）で、☑（オン）／□（オフ）を切り替える

Movie SR（動画手ぶれ補正）の設定が保存されます。

6　MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

Movie SRを☑（オン）に設定すると、□（オフ）の場合より写る範囲が狭くなります。

設定した時間間隔で動画を撮影する（インターバル動画）

設定した時刻から、設定した時間間隔で自動的に撮影した複数の静止画をひとつの動画ファイルとして記録します。

撮影間隔	1分、5分、10分、30分、1時間のいずれかに設定できます。
撮影所要時間	10分～359時間の間で設定できます。撮影間隔での設定によって、設定できる撮影所要時間と設定単位が変わります。撮影間隔の設定値により、1分単位、5分単位、10分単位、30分単位、1時間単位で設定できます。
撮影開始時間	0分後～24時間後の間で設定できます。59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

1　動画、動画モードで十字キー（▲）を押す

2　十字キー（◀▶）でインターバル撮影（インターバル撮影）を選択し、OKボタンを押す

現在のインターバル動画設定内容が約1分間表示されます。現在の設定のまま撮影をする場合は手順10にすすみます。

ドライブモード
インターバル撮影
MENU 取消　OK 決定

3　設定内容表示中にOKボタンを押す

インターバル動画設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

4 撮影

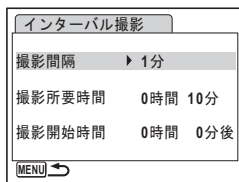
4 撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）を押して「撮影間隔」を設定し、OKボタンを押す

選択枠が「撮影間隔」に戻ります

インターバル撮影

撮影間隔	▶ 1分
撮影所要時間	0時間 10分
撮影開始時間	0時間 0分後

MENU ↩

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影所要時間」に移動します。

6 撮影所要時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影所要時間」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 MENUボタンを押す

インターバル動画機能の設定が保存され、撮影できる状態になります。

10 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

11 シャッターボタンを全押しする

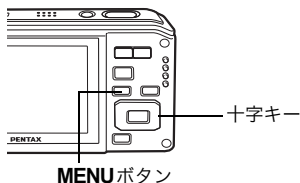
インターバル動画を開始します。

撮影と撮影の間（撮影待機中）は、電源がオフになります。撮影待機中に電源スイッチを押すと、画像モニターに残りの撮影枚数と撮影間隔が表示されます。

撮影待機中に電源スイッチを押して、**MENU**ボタンを押すと、「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すと、インターバル動画が中止されます。

- インターバル動画撮影の前に、バッテリーが十分に充電されていることを確認してください。バッテリーが十分に充電されていないと、インターバル動画撮影中にバッテリーが消耗し、インターバル動画撮影が終了することがあります。
- インターバル動画撮影時は、記録サイズ：640、画質：★★★、Movie SR：□（オフ）、ストロボモード：⊛で固定されます。

- 撮影開始時間を設定している間は、現在の時刻と設定した撮影開始時間に対応した撮影開始時間がリアルタイムで表示されます。
- 撮影間隔によって設定可能な撮影所要時間は異なります。撮影間隔ごとの設定可能な撮影所要時間は下表の通りです。

撮影間隔	設定可能な撮影所要時間	
	30fps	15fps
1分	10分～5時間59分 （1分単位で設定）	10分～5時間59分 （1分単位で設定）
5分	30分～29時間55分 （5分単位で設定）	15分～29時間55分 （5分単位で設定）
10分	1時間～59時間50分 （10分単位で設定）	30分～59時間50分 （10分単位で設定）
30分	3時間～179時間30分 （30分単位で設定）	1時間30分～179時間30分 （30分単位で設定）
1時間	6時間～359時間 （1時間単位で設定）	3時間～359時間 （1時間単位で設定）

動画撮影時のピントの合わせ方を選ぶ

動画撮影時のピントの合わせ方を設定します。動画撮影中は常に被写体に合わせてピントを調整し続けるか、動画撮影前にシャッターボタンを半押しして被写体にピントが合うとその位置にピントをロックするかを選べます。

1 📷モードでMENUボタンを押す

2 十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

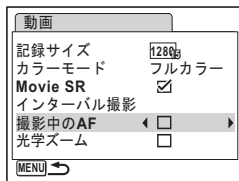
「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）を押して「撮影中のAF」を選ぶ

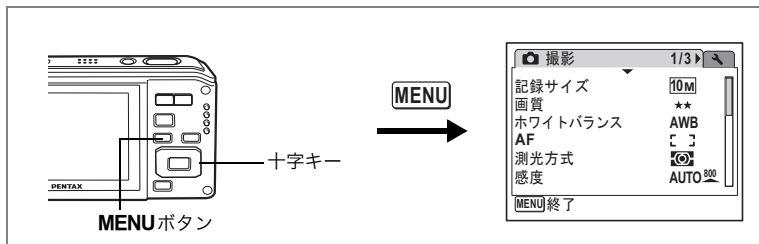
5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）：動画撮影中は常に被写体にピントを合わせる

□（オフ）：動画撮影前にシャッターボタンを半押しして被写体にピントが合うとその位置にピントをロックする

動画
記録サイズ 1280 15
カラーモード フルカラー
Movie SR ☑
インターバル撮影
撮影中のAF ◀ □ ▶
光学ズーム □
MENU ↩

6 MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

「撮影中のAF」を☑（オン）に設定し、フォーカスモードを**PF**、▲以外を選択した場合、撮影環境によってはピント合わせ時の作動音が音声録音に入ります。

光学ズームを設定する

動画撮影中に光学ズームを使うかどうかを設定することができます。

1　📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

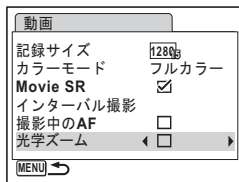
「動画」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「光学ズーム」を選ぶ

5　十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

光学ズームの設定が保存されます。

6　MENUボタンを2回押す

設定した内容で、撮影できる状態になります。

「光学ズーム」を☑（オン）に設定した場合、レンズ駆動の作動音が音声録音に入ります。

4 撮影

再生する

📷モードと▶モードの切り替え

📷モードから▶モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す

▶モードに切り替わります。

▶モードから📷モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

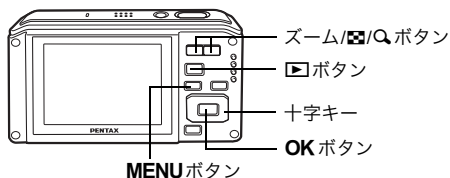
📷モードに切り替わります。

内蔵メモリー内のデータの表示について

SD メモリーカードがセットされているときは、SD メモリーカード内の画像、動画、音声が表示されます。内蔵メモリー内の画像、動画、音声を表示する場合は、SDメモリーカードを取り出してください。

- **[SDメモリーカードを入れたままで、内蔵メモリー内の画像を見る(内蔵メモリー参照)]**
  - 📷モードから▶モードに切り替えるとき、▶ボタンを1秒以上押し続けると、SDメモリーカードが挿入されていても、内蔵メモリー内の画像、動画、音声を表示することができます。
  - 内蔵メモリー参照では、静止画再生（拡大表示も含む）（p.45、p.141）、動画再生（p.149）、音声再生（p.183）、9分割表示／フォルダ表示／カレンダー表示（p.140）を行うことができます。
  - 内蔵メモリー参照では、データの消去、選択消去、再生モードパレットの表示、メニューの表示は行えません。内蔵メモリー内の画像、動画、音声にこれらの操作を行いたい場合は、SDメモリーカードを取り出してから行ってください。

静止画を再生する

操作方法は「画像を再生する」（p.45）をご覧ください。

9画面表示、フォルダ表示、カレンダー表示をする

9画面表示

複数の撮影画像を同時に9枚ずつ画像モニターに表示させることができます。

1 ▶モードで、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押す

選択枠
①
②
🗑選択消去 100-0010

画像が9コマで1ページとなるように表示され、ページ単位で表示される画像が変わります。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。10以上の画像が記録されている場合、①の画像を選択しているときに十字キー（▲◀）を押すと前のページが表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▼▶）を押すと次のページが表示されます。

画像の上に表示される記号の意味を示します。

無印　：音声なしの静止画
✋　：手ぶれ補正処理可能な静止画
🎙（画像あり）：音声付きの静止画
🎥　：動画（1コマ目の画像が表示されます。）
🎙（画像なし）：音声のみのファイル

ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すかOKボタン、MENUボタンを押すと、選択した画像の1画面表示に切り替わります。
▶ボタンを押すと、📷モードに切り替わります。

カレンダー表示/フォルダ表示に切り替える

9画面表示でズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押すと、カレンダー表示またはフォルダ表示に切り替わります（初期設定はカレンダー表示）。カレンダー表示とフォルダ表示は、グリーンボタンで切り替えることができます。

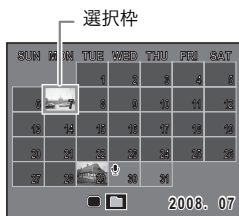
1　▶モードで、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押す

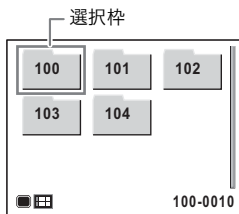
画面が9画面表示に切り替わります。

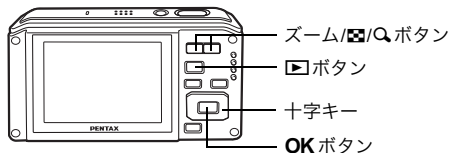
2　ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押す

画面がカレンダー表示またはフォルダ表示に切り替わります。

カレンダー表示

撮影した画像や録音した音声が、日付ごとにカレンダー形式で表示されます。
カレンダーの日付には、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。
その日付で最初に記録されているのが音声だけのデータならば、🎤が表示されます。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。
日付を選択してズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すと、その日付に撮影した画像が9画面表示されます。
日付を選択して**OK**ボタンを押すと、その日付で最初に撮影した画像の1画面表示に切り替わります。

フォルダ表示

画像や音声が記録されているフォルダが一覧表示されます。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。
フォルダを選択してズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すか**OK**ボタンを押すと、フォルダ内の画像が9画面表示されます。

- フォルダ表示/カレンダー表示で**MENU**ボタンを押すと、通常の9画面表示に切り替わります。
- フォルダ表示/カレンダー表示で▶ボタンまたはシャッターボタンを半押しすると、📷モードに切り替わります。

5
画像の再生と消去

再生画像を拡大する

画像を再生する際、最大10倍まで拡大表示できます。拡大中は、画像モニターに画像の拡大個所の中心を表示するためのガイドが表示されます。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で拡大表示したい画像を選ぶ

2　ズーム/⊞/Qボタンの Q 側を押す

ガイド表示

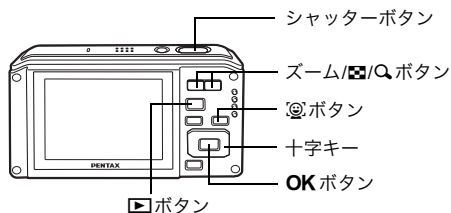
画面が大きく（1.1倍～10倍）表示されます。ズーム/⊞/Qボタンの Q 側を押し続けると連続的に大きさが変わります。
「クイック拡大」（p.202）を☑（オン）に設定していると、Q 側を一度押すだけで10倍まで拡大します。
画像のどの部分を拡大しているかを画面左下のガイド表示で確認できます。

拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
ズーム/⊞/Qボタン（Q）	画像を拡大する（最大10倍まで）
ズーム/⊞/Qボタン（⊞）	画像を縮小する（最小1.1倍まで）

3　OKボタンを押す

1画面表示に戻ります。

動画は拡大表示できません。

被写体の顔を自動的に拡大する（顔アップ再生）

撮影時に顔検出機能が働き、被写体の顔を検出した画像を再生する場合は、☺ボタンを押すだけで、被写体の顔をクローズアップした画像の再生（顔アップ再生）が楽しめます。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で拡大表示したい画像を選ぶ

2　画像に☺アイコンが表示されているのを確認し、☺ボタンを押す

最初は撮影時にメインの顔枠が表示されていた顔を中心に、顔アップ再生されます。

撮影時に複数の顔を検出した場合は、☺ボタンを押すたびに、それぞれの被写体の顔を中心にした顔アップ再生が行われます。顔検出したすべての顔の顔アップ再生後に☺ボタンを押すと通常の再生表示に戻ります。

3　OKボタンを押す。

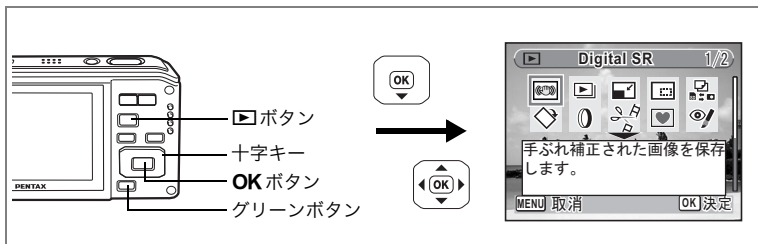
1画面表示に戻ります。

5 画像の再生と消去

- 顔アップ再生時の拡大倍率は、撮影時に検出された顔の大きさなどの条件によって異なります。
- 顔アップ再生中に、ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すと、顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや大きい倍率での拡大表示に切り替わります。また、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押すと、顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや小さい倍率の拡大表示に切り替わります。
- 動画、動画から「静止画保存」した画像、「Digital SR」で手振れを補正した画像は顔アップ再生できません。

撮影時の情報を表示する

▶モード時に**OK**/**DISPLAY**ボタンを押すと、表示中の画像に関する撮影情報などの表示が切り替わります。
表示内容の詳細は、p.23をご覧ください。

撮影時に撮影情報を確認する ☞p.97

Digital SRで手ぶれを補正する

撮影した画像の手ぶれを補正します。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）でDigital SRで補正する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（Digital SR）を選ぶ

4 OKボタンを押す

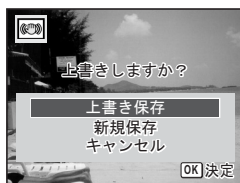
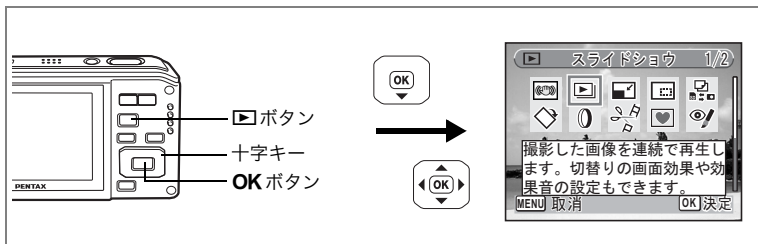
補正する画像が表示されます。

5 OKボタンを押す

画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

6 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

7 OKボタンを押す

補正画像が内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

- 上書き保存をすると、ぶれ情報がなくなりますので、2度目のぶれ補正処理はできなくなります。
- 撮影した画像を手ぶれ補正できる場合のみ、画像再生時に が画像モニター左上に表示されます。ただし、ぶれ量が大きすぎる場合は、手ぶれ補正できません。手順5でエラーメッセージが表示されます。
- 動画、フレーム合成モード、デジタルワイドモードで撮影した画像、再生モードパレットからリサイズ、トリミング、デジタルフィルタ、フレーム合成処理を行った画像はDigital SR処理できません。

スライドショウで連続再生する

保存された画像を連続して再生します。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でスライドショウを開始する画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ

4　OK ボタンを2回押す

スライドショウがスタートします。
スライドショウの途中で**OK** ボタンを押すと、一時停止します。一時停止中に**OK** ボタンを押すと再開します。

5　OK ボタン以外のどれかのボタンを押す

スライドショウが終了します。

スライドショウの条件を設定する

再生時の表示間隔、画像切り替え時の画面効果／効果音を設定します。

1　▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

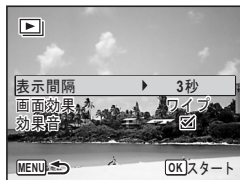
2　十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ

3 OKボタンを押す

スライドショウの条件を設定する画面が表示されます。

4 十字キー(▲▼)で「表示間隔」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー(▲▼)で表示間隔を切り替え、OKボタンを押す

3秒、5秒、10秒、20秒、30秒から選択できます。

7 十字キー(▲▼)で「画面効果」を選ぶ

「画面効果」を選択後、引き続き十字キー（▶）を押すと、下記の選択できる内容がポップアップで表示されます。十字キー(▲▼)で選択し、**OK**ボタンを押すと決定します。

ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
チェッカー	小さな四角のモザイク状のブロックで画面が切り替わる効果
フェード	現在の画像が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
オフ	切り替え効果なし

8 十字キー（▲▼）で「効果音」を選ぶ

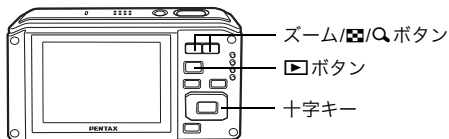
9 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

画面効果が「オフ」以外のとき、画面が切り替わるときに流れる音のオン（☑）／オフ（□）を切り替えることができます。

10 OKボタンを押す

設定した表示間隔と画面効果でスライドショウが始まります。

- スライドショウは、**OK**ボタン以外のどれかのボタンを押して終了するまで何度でも繰り返します。
- 動画や音声付き画像は表示間隔の設定にかかわらず、通常はすべて再生されてから次の画像に移ります。ただし、動画の再生中や音声付き画像の音声再生中に十字キー（▶）を押すと、すぐに次の画像へ移ります。
- 🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声は、スライドショウでは再生されません。
- スライドショウの再生にパノラマ画像が含まれる場合は、パノラマ画像は「表示間隔」や「画面効果」の設定にかかわらず、4秒間かけて左から右へスライド表示されます。

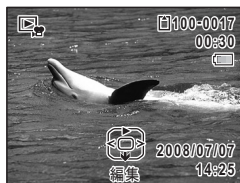
AV機器と接続する ☞p.150

動画を再生する

動画を再生する

動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1　▶ モードに入り、十字キー（◀▶）で再生したい動画を選ぶ

2　十字キー（▲）を押す

再生が開始します。

再生中にできる操作

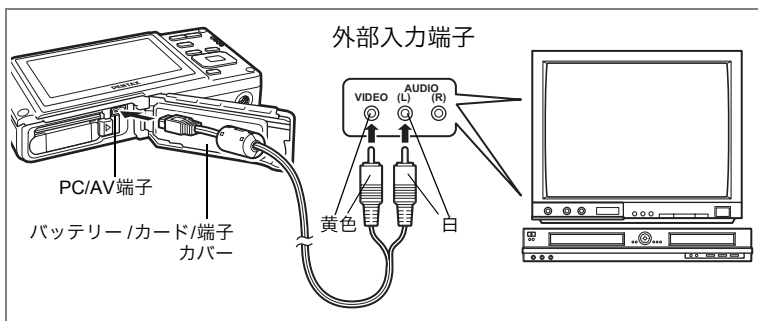
十字キー（◀）	逆方向に再生
十字キー（▲）	一時停止
ズーム/▦/🔍ボタン（🔍）	音量を大きくする
ズーム/▦/🔍ボタン（▦）	音量を小さくする

一時停止中にできる操作

十字キー（◀）	コマ戻しする
十字キー（▶）	コマ送りする
十字キー（▲）	一時停止を解除（再生）

3　十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

AV機器と接続する

AVケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして撮影や再生ができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。

1 バッテリー / カード / 端子カバーを開き、PC/AV 端子に AV ケーブルを接続する

AVケーブルの端子の⇦を、カメラのPC/AV端子の ◀ 側に向けて接続してください。

2 AVケーブルのもう一方の端子（映像：黄色、音声：白）を、AV機器の映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

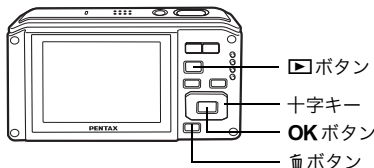
3 AV機器の電源をオンにする

カメラを接続した機器と、画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源をオンにします。
複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

1280 のハイビジョン動画は、AV機器（テレビなど）では直接再生できません。パソコンに転送して再生してください。

4　カメラの電源をオンにする

- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC78J（別売）の使用をおすすめします。
- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。（p.198）
- AV機器に接続している間は、カメラの画像モニターはオフになります。
- AV機器に接続している間は、カメラのズームボタンを使っての音量調整はできません。

消去する

失敗したり、不要になった画像や音声を消去します。

うっかり！必要な画像や音声を消してしまったら・・・
Optio W60には、このカメラで撮影した画像、または録音した音声であれば、復活させる機能があります。（p.157）
画像や音声を消去した後、SDメモリーカードを取り出さない限り電源をオフにしても復活させることは可能ですが、撮影、画像プロテクト、DPOF設定、リサイズ、トリミングなどのデータ書き込み操作やフォーマットをしてしまうと、消去した画像や音声は復活できません。

1画像／音声ずつ消去する

1画像、1音声ずつ消去します。

プロテクトされている画像や音声は消去できません。（p.158）

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で消去したい画像／音声を選ぶ

2　🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ

4　OKボタンを押す

消去されます。

クイックビューが表示されている間に🗑ボタンを押すと手順2の画面が表示され、撮影したばかりの画像を消去できます。（p.46）

消去した画像を復活する ☞p.157

音声を消去する

音声付きの画像（p.184）の場合は、画像は消去せずに音声のみを消去することができます。

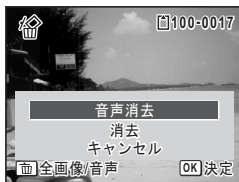
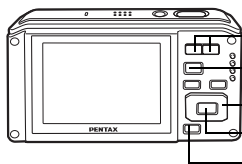
1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で音声付きの画像を選ぶ

2　🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「音声消去」を選ぶ

4　OK ボタンを押す

音声が消去されます。

画像と音声の両方を消去するには、手順3で「消去」を選びます。

選択して消去する（9画面表示で消去）

9画面表示で複数の画像や音声を選択し、一括して削除します。

プロテクトされている画像や音声は消去できません。

1　▶モードで、ズーム/▣/Qボタンの▣側を押す

画像が9コマずつ表示されます。

2　🗑ボタンを押す

画像や音声に□が表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像または音声に移動し、OK ボタンを押す

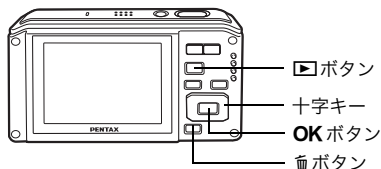
画像が選択され、☑が表示されます。
ズーム/▣/Qボタンの Q側を押すと、押している間だけ選択した画像が1画面表示されますので、削除したい画像かどうかを確認できます（離すと9画面表示に戻ります）。ただし、プロテクトされた画像は1画面表示できません。

4 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「選択消去」を選ぶ

6 OKボタンを押す

選択した画像や音声が消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像や音声を消去します。

プロテクトされている画像や音声は消去できません。（p.158）

1 ▶モードで🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

2 🗑ボタンを押す

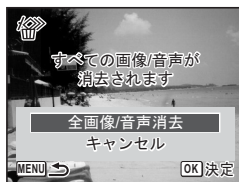
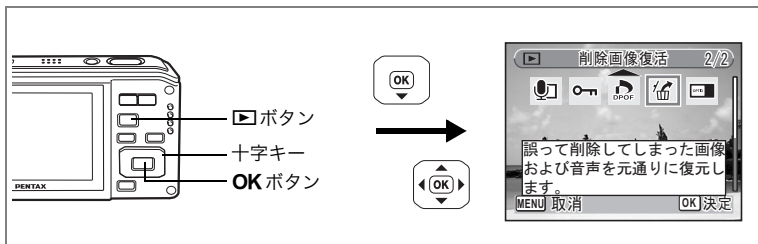
すべての画像や音声の消去を確認する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「全画像／音声消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

すべての画像や音声が消去されます。

消去した画像を復活する ☞p.157

5 画像の再生と消去

消去した画像を復活する

このカメラで撮影した画像、または録音した音声であれば、いったん消去してしまっても元に戻すことができます。

画像を消去後、撮影、画像プロテクト、DPOF設定、リサイズ、トリミングなどのデータ書き込み操作やフォーマットをしたり、SDメモリーカードを取り出してしまうと、手順3で「処理できる画像がありません」のメッセージが表示され、消去した画像や音声の復活ができなくなってしまいます。

1 消去を実行した後に、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

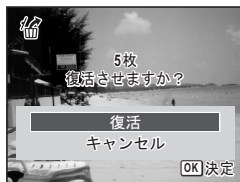
2 十字キー（▲▼◀▶）で（削除画像復活）を選ぶ

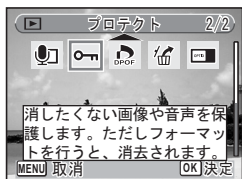
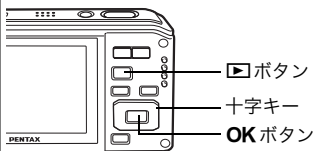
3 OKボタンを押す

復活可能な画像の枚数が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「復活」を選ぶ

5 OKボタンを押す

画像の消去が取り消され、元に戻ります。

- 復活させた画像や音声は、消去する前と同じファイル名になります。
- 削除画像の復活ができるのは、最大で999枚までです。

5 画像の再生と消去

消去できないようにする（プロテクト）

記録した画像や音声を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でО━（プロテクト）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

「1画像/音声」または「全画像/音声」を選択する画面が表示されます。

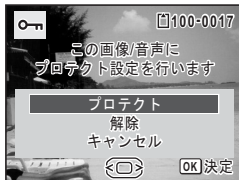
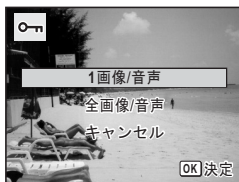
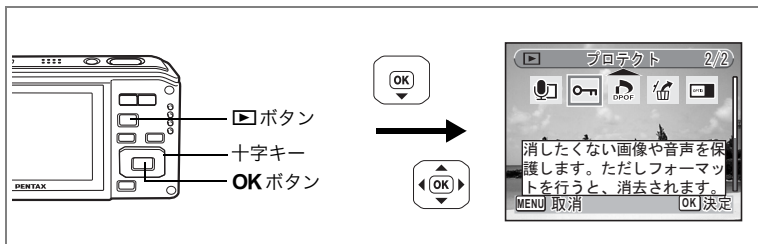
4 十字キー（▲▼）で「1画像/音声」を選ぶ

5 OK ボタンを押す

「この画像/音声にプロテクト設定を行います」というメッセージの画面が表示されます。別の画像または音声をプロテクトする場合は、十字キー（◀▶）で画像または音声を選びます。

6 十字キー(▲▼)で「プロテクト」を選ぶ

7 OK ボタンを押す

選択した画像または音声がプロテクトされます。

- プロテクトを解除するには、手順6で「解除」を選びます。
- プロテクトされている画像や音声には、再生時にファイル番号の下にО━が表示されます。
- 「1画像/音声」のプロテクトを行う場合、続けてプロテクトできる画像や音声の数は99個までです。

すべての画像と音声をプロテクトするには

1　▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）でО╖（プロテクト）を選ぶ

3　OKボタンを押す

「1画像/音声」または「全画像/音声」を選択する画面が表示されます。

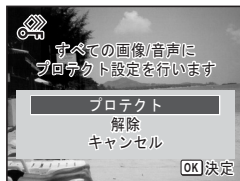
4　十字キー（▲▼）で「全画像/音声」を選ぶ

5　OKボタンを押す

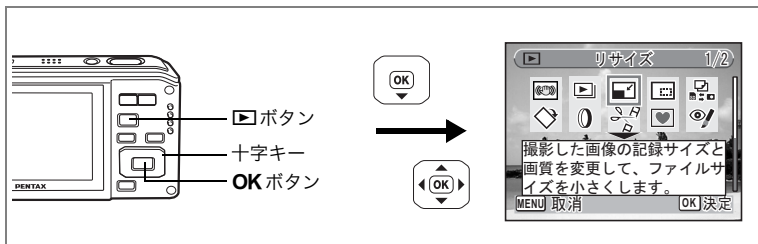
「プロテクト」または「解除」を選択する画面が表示されます。

6　十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ

7　OKボタンを押す

すべての画像と音声がプロテクトされます。

注意　SDメモリーカードをフォーマットすると、プロテクトされている画像や音声も消去されます。

メモ　手順6で「解除」を選ぶと、すべての画像と音声のプロテクト設定が解除されます。

編集する

画像のサイズと画質を変更する（リサイズ）

選択した画像の記録サイズと画質を変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくすることができます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、続けて撮影できます。

メモ
- 動画はリサイズできません。
- 元の画像よりも大きいサイズ、きれいな画質は選択できません。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でリサイズする画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選ぶ

4　OKボタンを押す

記録サイズと画質を選択する画面が表示されます。

5　「記録サイズ」と「画質」を選択する

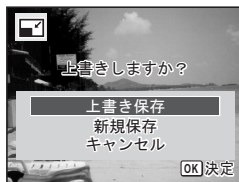
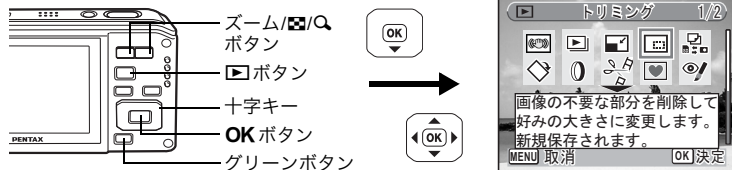
それぞれ、十字キー（◀▶）で選択します。
「記録サイズ」と「画質」の切り替えは、十字キー（▲▼）で行います。

6 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8 OKボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。

画像をトリミングする

画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

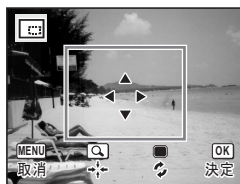
1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）でトリミングする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で⬚（トリミング）を選ぶ

4 OKボタンを押す

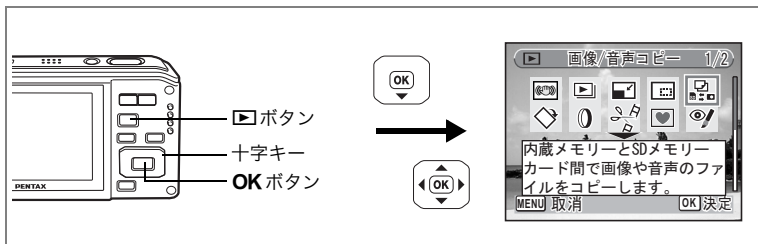
トリミングを行う画面が表示されます。
画面にはトリミングできる最大の範囲が緑の枠で表示されます。この範囲を越えてのトリミングはできません。

5 トリミング条件を選ぶ

以下の操作で、緑の枠を動かし、画面のどの部分をトリミングするかを決めます。

ズーム/▦/🔍ボタン	トリミングサイズを変える
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置を移動する
グリーンボタン	トリミング範囲を回転する

6 OKボタンを押す

トリミングされた画像が新しいファイル名で保存されます。
トリミング後の画像は、元の画像と同じ画質で保存されます。記録サイズは、トリミングサイズに応じて自動的に設定されます。

動画はトリミングできません。

画像や音声をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声をコピーします。カメラにSDメモリーカードが入っていないと、この機能は選択できません。

SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。

1　モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（画像/音声コピー）を選ぶ

3　OKボタンを押す

コピー方法を選択する画面が表示されます。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする場合

内蔵メモリー内のすべての画像と音声をSDメモリーカードにまとめてコピーします。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに充分な容量があることを確認しておいてください。

4　十字キー(▲▼)を押して「➡SD」を選ぶ

5　OKボタンを押す

すべての画像と音声がコピーされます。

6 画像の編集と印刷

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合

SDメモリーカード内の画像や音声を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

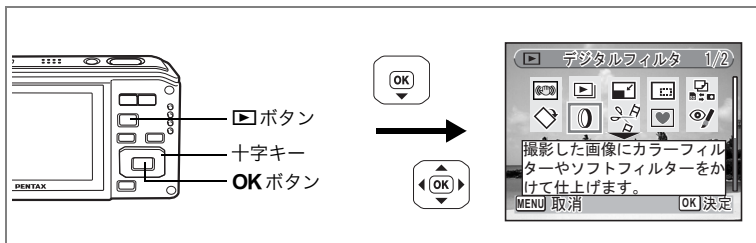
4　十字キー（▲▼）を押して「SD➡内蔵メモリー」を選ぶ

5　OKボタンを押す

6　十字キー（◀▶）でコピーするファイルを選ぶ

7　OKボタンを押す

選択した画像／音声がコピーされます。

- 音声付きの画像は、音声付きのままコピーされます。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合、新しいファイル名で画像がコピーされます。

デジタルフィルタを使う

選択した画像に対して、色調を変えたり特殊な加工を施します。

デジタルフィルタ

白黒フィルタ	白黒フィルタをかけた画像にします。
セピアフィルタ	セピアフィルタをかけた画像にします。
カラーフィルタ	選択したカラーフィルタをかけた画像にします。赤、桃、紫、青、緑、黄の6種類のフィルタがあります。
色抽出フィルタ	選択した色抽出フィルタをかけた画像にします。赤、緑、青の3種類のフィルタがあります。
ソフトフィルタ	ソフトな画像に加工します。
明るさフィルタ	選択した画像の明るさを調整します。
フィッシュアイフィルタ	フィッシュアイ（魚眼レンズ）で撮ったような効果を画像に施します。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で編集する画像を選ぶ

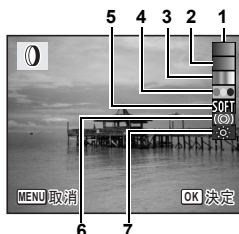
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で （デジタルフィルタ）を選ぶ

4 OKボタンを押す

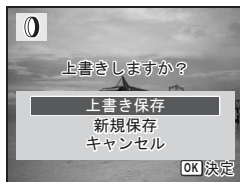
デジタルフィルタを選択する画面が表示されます。

1 白黒フィルタ
2 セピアフィルタ
3 カラーフィルタ
4 色抽出フィルタ
5 ソフトフィルタ
6 フィッシュアイフィルタ
7 明るさフィルタ

白黒／セピアフィルタ、ソフトフィルタを選んだ場合

5　十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルタを選ぶ

フィルタに応じた加工結果をプレビューできます。

6　OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

7　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8　OKボタンを押す

白黒/セピアフィルタ、ソフトフィルタで加工された画像が元の画像と同じ記録サイズ、画質で保存されます。

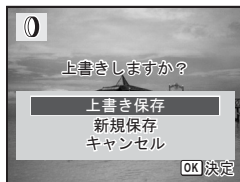
カラーフィルタ、色抽出フィルタを選んだ場合

5　十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルタを選ぶ

6　十字キー（◀▶）で効果を調整する

カラーフィルタの場合は、十字キー（▶）を押すごとに、「赤」→「桃」→「紫」→「青」→「緑」→「黄色」の順に切り替わります。
色抽出フィルタの場合は、十字キー（▶）を押すごとに、「緑」→「青」→「赤」の順に切り替わります。

7　OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

8　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

9　OKボタンを押す

カラーフィルタ、色抽出フィルタで加工された画像が元の画像と同じ記録サイズ、画質で保存されます。

明るさフィルタ、フィッシュアイフィルタを選んだ場合

5　十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルタを選ぶ

6　十字キー（◀▶）で効果を調整する

明るさフィルタの場合は、十字キー（▶）で明るく、十字キー（◀）で暗くなります。フィッシュアイフィルタの場合は、十字キー（▶）で効果が強まり、十字キー（◀）で効果が弱まります。

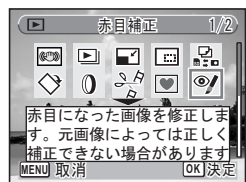
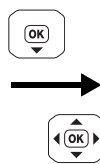
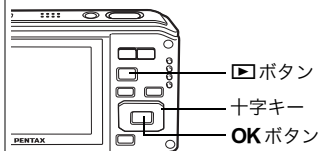
7　OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

8　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

9　OKボタンを押す

明るさフィルタ、フィッシュアイフィルタで加工された画像が元の画像と同じ記録サイズ、画質で保存されます。

動画や他のカメラで撮影した画像は「デジタルフィルタ」を使って加工できません。再生モードパレットで機能を選択して**OK**ボタンを押すと、エラーメッセージが表示されます。

赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で赤目補正する画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

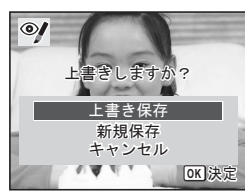
再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で（赤目補正）を選ぶ

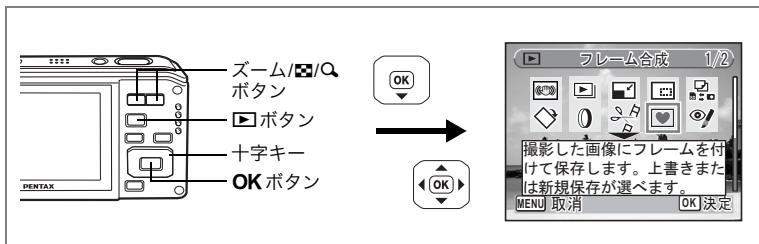
4　OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

5　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

6　OKボタンを押す

赤目補正された画像が元の画像と同じ記録サイズ、画質で保存されます。

- 動画やカメラ側で赤目画像と特定できなかった画像は「赤目補正」できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した静止画像のみです。

6 画像の編集と印刷

フレーム合成をする

撮影した静止画に、フレーム（飾り枠）を合成します。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でフレーム合成する画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で♥（フレーム合成）を選ぶ

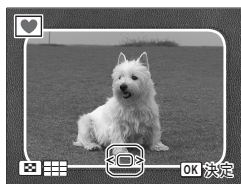
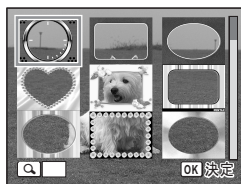
4　OK ボタンを押す

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

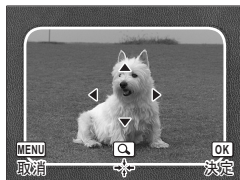
5　十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

6　ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押す

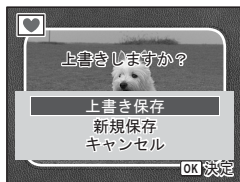
選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選びなおすことができます。

- 十字キー(◀▶)を押して別のフレームを選択する
- ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押して、フレーム選択の9分割画面に戻り、手順5と同様の操作で別のフレームを選択する

7 OKボタンを押す

画像の位置調整、拡大／縮小を行う画面が表示されます。

十字キー（▲▼◀▶）で画像の位置を調整、ズーム/⊞/Qボタンで画像の拡大／縮小をすることができます。

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。

画像がプロテクトされている場合は、自動的に「新規保存」され、確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

10 OKボタンを押す

フレームが合成された画像が、3Mの記録サイズで保存されます。

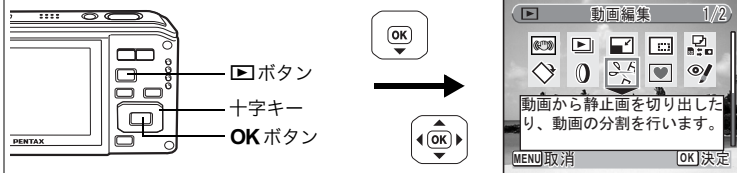
注意
- 動画や7.5M（16:9）で撮影された画像、3M未満のサイズの画像は「フレーム合成」できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。
- 工場出荷時に、デフォルトフレーム3種類、オプションフレーム77種類が内蔵されています。（付属のCD-ROMには、デフォルトフレームを含む80種類のフレームが収録されています。）

新しく入手したフレームを使う

弊社のホームページから入手したフレームを使用してフレーム合成することができます。手順3で♡（フレーム合成）を選んで**OK**ボタンを押すと、内蔵メモリーとSDメモリーカード内の使用できるフレームが表示されます。

注意
- ダウンロードしたフレームは解凍して、内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダにコピーしてください。
- FRAMEフォルダは、SDメモリーカードを本機でフォーマットすると作成されます。

オプションのフレーム画像について

Optio W60の内蔵メモリーには、画像・動画・音声の記録領域を利用して、オプションのフレームが収録されています。このオプションフレームは内蔵メモリーをパソコンでファイル操作（削除など）すると消すことができますので、万一、オプションフレームを消してしまった場合には、p.72の要領で付属のCD-ROMからコピーできます。

動画を編集する

撮影した動画中のひとコマを切り出して静止画として保存したり、動画を分割したりすることができます。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で編集する動画を選ぶ

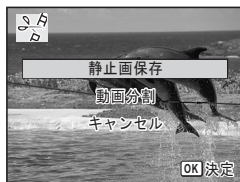
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選ぶ

4 OK ボタンを押す

動画編集を選択する画面が表示されます。
続けて以下のページに進んでください。

- 「動画の1コマを静止画として保存する」
- 「動画を分割する」（p.172）

プロテクトされている動画は「動画分割」をすることができません。

動画の1コマを静止画として保存する

5 動画編集を選択する画面で、「静止画保存」を選ぶ

6 OK ボタンを押す

静止画として保存するコマを選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）を押して保存するコマを選ぶ

▲ ：再生する、一時停止する
▼ ：停止して最初のコマに戻る
◀ ：コマ戻しする
▶ ：コマ送りする

8 OKボタンを押す

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

5 動画編集を選択する画面で、「動画分割」を選ぶ

6 OKボタンを押す

分割位置を選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）を押して分割位置を決める

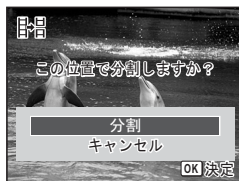
▲ ：再生する、一時停止する
▼ ：停止して最初のコマに戻る
◀ ：コマ戻しする
▶ ：コマ送りする

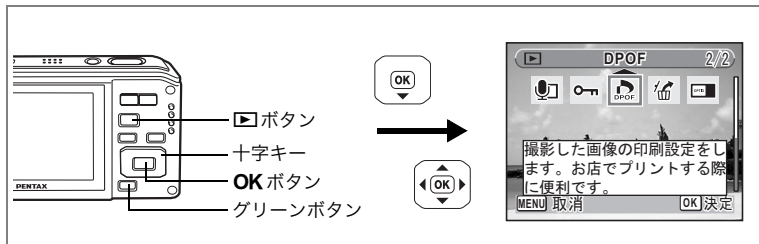
8 OKボタンを押す

分割位置を確認する画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「分割」を選ぶ

10 OKボタンを押す

指定位置で分割した動画がそれぞれ新しいファイルに保存され、元の動画は削除されます。

DPOFの設定をする

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した静止画像に、プリントのための情報を記録するためのフォーマットです。撮影した静止画にDPOF設定をすると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でDPOF設定にしたがったプリントが行えます。
動画や音声のみのファイルには、DPOF 設定をすることはできません。

1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚までの設定ができます。
日付	プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1　▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）でDPOF（DPOF）を選ぶ

3　OKボタンを押す

「1画像」または「全画像」を選択する画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ

6

画像の編集と印刷

5 OKボタンを押す

「この画像にDPOF設定を行います」というメッセージの画面が表示されます。
別の画像にDPOF設定する場合は、十字キー（◀▶）で画像を選択します。
すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付の☑（オン）／□（オフ）が表示されます。

6 十字キー（▲▼）でプリント枚数を設定する

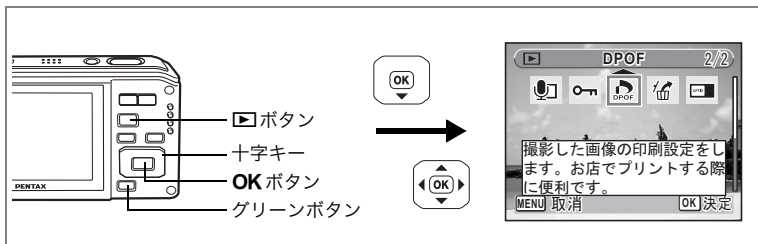
7 グリーンボタンを押し、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑ ：プリントに日付を入れる
□ ：プリントに日付を入れない
その他の画像にもDPOF設定をしたい場合は、十字キー（◀▶）で画像を選び、手順6、7を繰り返します。

8 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、DPOF設定メニュー画面に戻ります。

プリンターやプリント取扱い店のプリント機器によっては、DPOFの設定で「日付」をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

DPOF設定を解除するには、手順6で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

カメラに保存されているすべての画像に同じ「枚数」「日付」の設定が適用されます。

1　▶モードでDPOFの設定をする画面を表示する

p.173の手順1～3をご覧ください。

2　十字キー（▲▼）で「全画像」を選ぶ

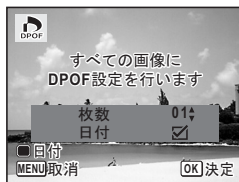
3　OKボタンを押す

「すべての画像にDPOF設定を行います」というメッセージの画面が表示されます。

4　プリント枚数、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順6、7（p.174）をご覧ください。

5　OKボタンを押す

設定した値で全画像のDPOF設定が保存され、DPOFの設定をする画面に戻ります。

全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。

全画像設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

付属のUSBケーブル（I-USB7）でカメラをPictBridge対応プリンターに接続すると、パソコンを介さなくてもカメラからダイレクトに画像をプリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数などは、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。

- カメラをプリンターに接続するときは、ACアダプターキットK-AC78Jのご使用をおすすめします。プリンターと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンターが誤動作したり、画像データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの機種によっては、カメラ側の設定（印刷設定、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 設定されたプリント枚数が500枚以上になる場合、正しくプリントされないことがあります。
- 1 枚の用紙に複数画像をプリントする設定はカメラではできません。プリンター側で設定するか、パソコンを使って印刷してください。

カメラをプリンターに接続する

1 「🔧設定」メニューの「USB接続」を「PictBridge」に設定する

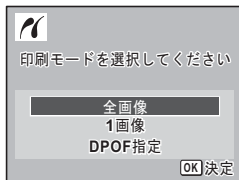
「USB接続モードを変更する」（p.197）をご覧ください。

2 カメラの電源をオフにする

3 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続する

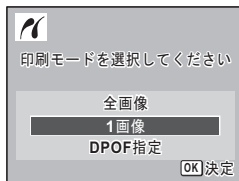
4 プリンターの電源をオンにする

5 プリンターの起動が完了したら、カメラの電源をオンにする

印刷モードを選択する画面が表示されます。

1画像ずつプリントする

1　印刷モードを選択する画面で十字キー（▲▼）を押して、「1画像」を選ぶ

2　OKボタンを押す

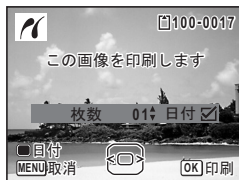
印刷条件を設定する画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）でプリントする画像を選ぶ

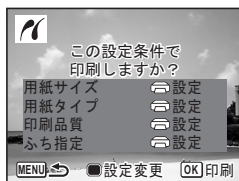
4　十字キー（▲▼）でプリントする枚数を選ぶ

99枚まで設定できます。

5　グリーンボタンで、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑　：プリントに日付を入れる

□　：プリントに日付を入れない

6　OKボタンを押す

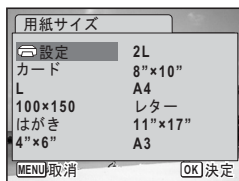
印刷設定を確認する画面が表示されます。
プリンター側の印刷設定でプリントするときは、**OK**ボタンを押します。
印刷設定を変更するときは、手順7へ進みます。

7　グリーンボタンを押す

印刷設定の変更画面が表示されます。

8　「用紙サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

用紙サイズの選択画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼◀▶）で用紙サイズを選ぶ

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。

10 OKボタンを押す

用紙サイズの設定が保存され、印刷設定の変更画面に戻ります。

11 十字キー(▲▼）で「用紙タイプ」を選び、十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

12 十字キー（▲▼）で用紙タイプを選び、OKボタンを押す

用紙タイプの設定が保存され、印刷設定の変更画面に戻ります。引き続き、手順11～12と同様の操作で「印刷品質」「ふち指定」を設定します。
それぞれの設定を選択するとプリンター側の設定にしたがいます。
用紙タイプは、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
印刷品質は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。
各項目の設定が終了するごとに、印刷設定を確認する画面が表示されます。

13 MENUボタンを押す

印刷設定を確認する画面に戻ります。

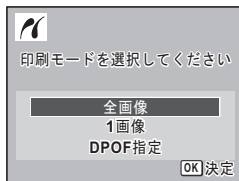
14 OKボタンを押す

設定した値で印刷が開始されます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

- プリンターと通信中は電源ランプが点灯、カードアクセス中、プリント中は電源ランプが点滅してお知らせします。電源ランプ点滅中は、USBケーブルを取り外さないでください。
- 「用紙サイズ」「用紙タイプ」「印刷品質」「ふち指定」の設定は、カメラの電源を切ると、ご購入時の状態に戻ります。
- 日付写し込みの設定がされているときは、DPOF設定の日付をオンにしないでください。日付が画像に二重に印刷されてしまいます。

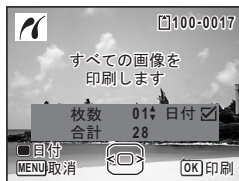
プリンターからケーブルを取り外す ☞p.180

全画像をプリントする

1　印刷モードを選択する画面で十字キー（▲▼）を押して、「全画像」を選ぶ

2　OKボタンを押す

印刷する条件を設定する画面が表示されます。

3　プリント枚数、日付プリントの有無を設定する

全画像を何枚ずつプリントするか、日付をプリントするかどうかを選びます。
設定のしかたは「1画像ずつプリントする」の手順4、5（p.177）をご覧ください。

4　OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。
印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7～13（p.177～p.178）をご覧ください。

5　印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した条件で全画像のプリントが開始されます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

日付写し込みの設定がされているときは、DPOF設定の日付をオンにしないでください。日付が画像に二重に印刷されてしまいます。

DPOFの設定でプリントする

1　印刷モードを選択する画面で十字キー（▲▼）を押して、「DPOF指定」を選ぶ

2　OKボタンを押す

DPOF設定の内容が表示されます。
十字キー（◀▶）で、画像ごとの印刷枚数、日付の有無、プリント合計枚数を確認できます。DPOF設定については、p.173をご覧ください。

3　OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。
印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7〜13（p.177〜p.178）をご覧ください。

4　印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した内容でプリントされます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

「日付写し込み」（p.124）で日付を写し込んだ画像には、「DPOF指定」で「日付」を☑（オン）にしないでください。☑（オン）にすると、日付が二重に印刷されます。

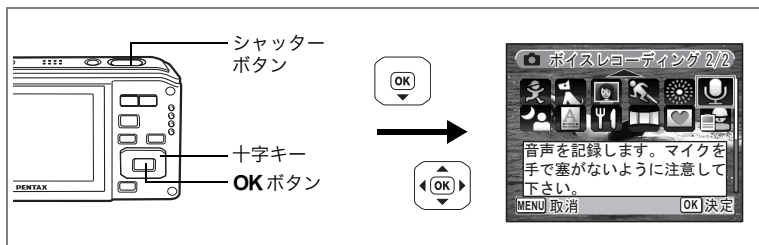
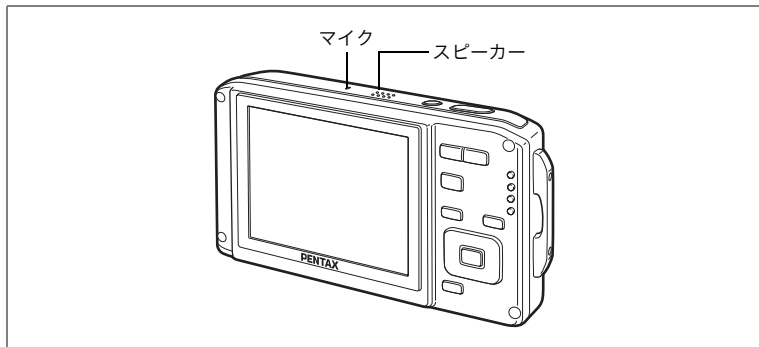
プリンターからケーブルを取り外す

プリントが終了したら、USBケーブルをカメラとプリンターから取り外します。

1　カメラの電源をオフにする

2　カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す

音声を録音する（ボイスレコーディングモード）

音声を記録します。マイクはカメラ上部にありますので、音声を記録する際は最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で🎙（ボイスレコーディング）を選ぶ

3 OKボタンを押す

画像モニターに録音可能な時間と、これから録音するファイルの録音時間が表示されます。

1 録音時間
2 残り録音可能時間

4 シャッターボタンを全押しする

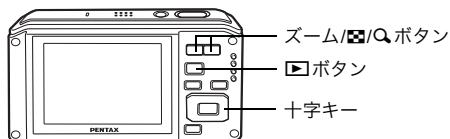
録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプが点滅します。
録音は連続で24時間まで可能です。
録音中にグリーンボタンを押すと、録音中の音声にインデックスを付けることができます。

5 シャッターボタンを全押しする

録音を停止します。

- 手順4で1秒以上シャッターボタンを押し続けると、シャッターボタンから指を離したときに録音を停止します。「サウンド」設定のUSER音を作成する場合など、短い音を録音したいときに便利です。
- 音声はモノラルのWAVEファイルで記録されます。

音声を再生する

🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声を再生します。

1 ▶ボタンを押す

2 十字キー（◀▶）で再生したい音声ファイルを選ぶ

3 十字キー（▲）を押す

録音を再生します。

1 ファイルの総録音時間
2 再生済時間

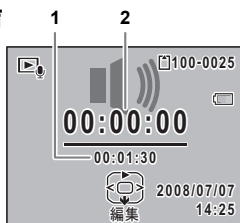
再生中にできる操作

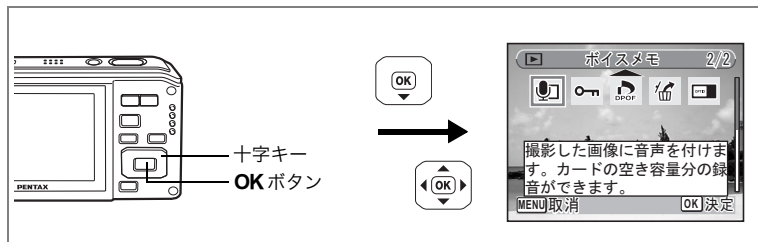
十字キー（▲）	再生を一時停止
ズーム/▣/🔍ボタン（🔍）	音量を大きくする
ズーム/▣/🔍ボタン（▣）	音量を小さくする
インデックスがない場合	
十字キー（◀）	巻き戻し
十字キー（▶）	早送り
インデックスがある場合	
十字キー（◀）	前のインデックス位置から再生
十字キー（▶）	次のインデックス位置から再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（◀）	約5秒前に戻る
十字キー（▶）	約5秒先に送る

4 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

画像に音声を付ける（ボイスメモ）

撮影した静止画像に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

ボイスメモを録音する

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でボイスメモを付けたい画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

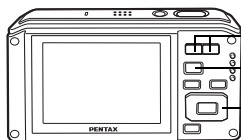
3　十字キー（▲▼◀▶）で🎤（ボイスメモ）を選ぶ

4　OKボタンを押す

ボイスメモの録音を開始します。ボイスメモは連続で24時間まで録音できます。

5　OKボタンを押す

ボイスメモの録音が終了します。

- すでにボイスメモが録音されている画像にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去してから、もう一度録音してください。（p.153）
- プロテクト（O-π）されている画像（p.158）にボイスメモを付けることはできません。

ボイスメモを再生する

1　▶ モードに入り、十字キー（◀ ▶）でボイスメモを再生する画像を選ぶ

ボイスメモが録音されている画像は、1画面表示時に♪が表示されます。

2　十字キー（▲）を押す

録音されたボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

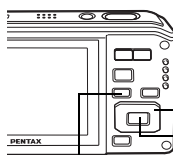
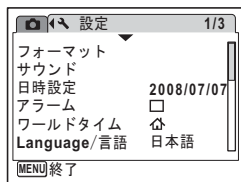
ズーム/♣♣♣/♣ ボタン（♣）　音量を大きくする
ズーム/♣♣♣/♣ ボタン（♣♣♣）音量を小さくする

3　十字キー（▼）を押す

ボイスメモの再生を停止します。

音声を消去する ☞p.153

7
音声の録音と再生

カメラの設定をする

SDメモリーカードをフォーマットする

SDメモリーカードに保存されているすべてのデータを消去します。

- SDメモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像や、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされた SD メモリーカードは使用できません。必ずカメラでフォーマットを行ってください。
- 異常時以外に、内蔵メモリーをフォーマットすることはできません。

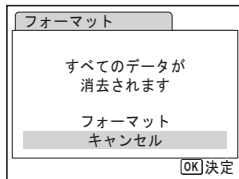
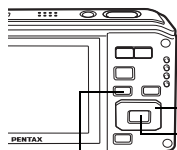
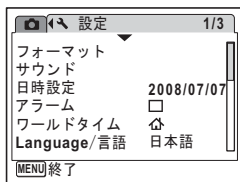
1 「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「フォーマット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

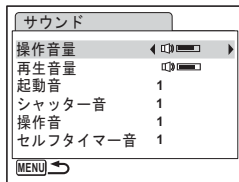
4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影モードまたは再生モードに戻ります。

サウンドの設定を変更する

各種操作音の音量、それぞれの音の種類を変更できます。

1 「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「サウンド」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「サウンド」画面が表示されます。

操作音量／再生音量を変更する

3 十字キー（▲▼）を押して「操作音量」を選ぶ

4 十字キー（◀▶）を押して音量を調節する

選んだ音量が保存されます。
音量を0にすると起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音は鳴りません。

5 手順3、4と同様の操作で「再生音量」を設定する

音の種類を変更する

6 十字キー（▲▼）を押して「起動音」を選ぶ

7 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8　十字キー（▲▼）で「1」「2」「3」「オフ」「USER」のいずれかを選び、OKボタンを押す

選んだ音の種類が保存されます。

9　手順6〜8と同様の操作で「シャッター音」「操作音」「セルフタイマー音」を設定する

10　MENUボタンを押す

変更した設定のまま、「🔧設定」メニューに戻ります。

音の種類を変更する（オリジナルの音声を使う）

カメラで録音した音声を、オリジナルの操作音として使うことができます。
使えるのは、録音した音声のはじめの2秒間です。

1　「音の種類を変更する」の手順8で、「USER」を選ぶ

2　OKボタンを押す

録音済みの音声ファイルの再生画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）でファイルを選ぶ

ファイルを再生して、確認します。
十字キー（▲）：冒頭の2秒間を再生。
十字キー（▼）：再生終了。

4　OKボタンを押す

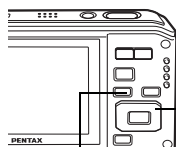
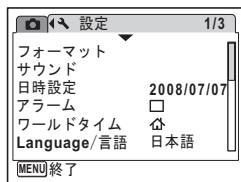
選んだ音声が、「USER」音として設定されます。

5　「シャッター音」「操作音」「セルフタイマー音」も、同じ手順で設定する

6　MENUボタンを押す

変更した設定のまま、「🔧設定」メニューに戻ります。

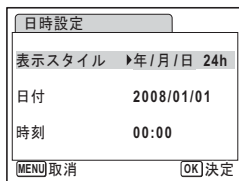
サウンドの設定は、電源をオフにしても保持されます。

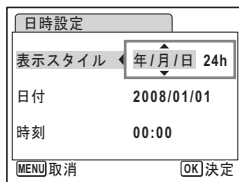
「🔧設定」メニューの呼び出しかた

日時を変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「日時設定」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

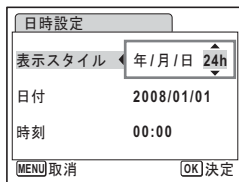
「日時設定」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。
初期設定や、前回の設定によっては、「月/日/年」または「日/月/年」で表示されていることもあります。

4 十字キー（▲▼）を押して、日付の表示スタイルを設定する

「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選びます。

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

6 十字キー（▲▼）を押して、「24h」（24時間表示）または「12h」（12時間表示）を設定する

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

8 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　▶2008/01/01
時刻　00:00
MENU 取消　OK 決定

9 十字キー（▶）を押す

手順４で設定した表示スタイルにしたがって、選択枠が下記の項目に移動します。
「年/月/日」の場合　西暦年(例:「2008」年)
「月/日/年」の場合　月（例：「01」月）
「日/月/年」の場合　日（例：「01」日）
以下の操作手順や画面は、「年/月/日」に設定した場合です。他の表示スタイルに設定した場合でも、操作方法は同様です。

10 十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

11 十字キー（▶）を押す

選択枠が「月」に移動します。十字キー（▲▼）で月を設定します。月を設定後は、同様の操作で、日を設定します。

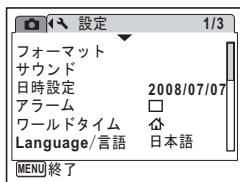
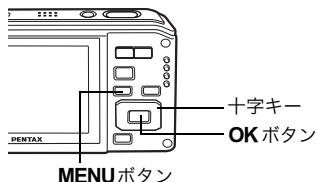
12 手順7～10と同様の操作で、時刻を設定する

手順6で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

13 OKボタンを押す

日時の設定が保存されます。

メモ

日時の設定終了後、**OK** ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK** ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定が行えます。

決まった時刻にアラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らします。
毎日同じ時刻にアラームを鳴らすか、設定した時刻に1回アラームを鳴らすかを選ぶことができます。

アラームを設定する

1 「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「アラーム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「アラーム」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「オフ」「1回」「毎日」のいずれかを選び、OK ボタンを押す

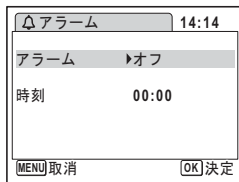
5 十字キー（▼）を押す

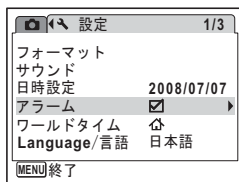
続いて「時刻」を設定します。

6 十字キー（▶）を押す

選択枠が「時間」に移動します。

7 十字キー（▲▼）で時間を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「分」に移動します。
同様に「分」を設定します。

8 OKボタンを2回押す

設定が保存され、「🔧設定」メニューに戻ります。
「アラーム」が☑（オン）になっていることを確認します。

9 OKボタンを押す

「アラームを設定しました」と表示された後電源がオフになります。

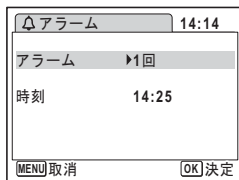
設定 1/3
フォーマット
サウンド
日時設定 2008/07/07
アラーム ☑
ワールドタイム
Language/言語 日本語
MENU 終了

アラームを確認する

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「アラーム」を選ぶ

「アラーム」が☑（オン）になっていることを確認します。

2 十字キー（▶）を押す

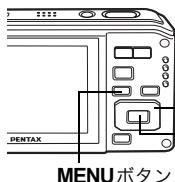
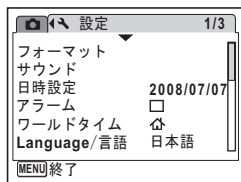
「アラーム」画面が表示されます。
アラームの頻度と設定時刻を確認します。

3 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

アラームを止める

電源オフの状態で指定した時刻になると、スタイルウォッチ画面が表示され、アラームが1分間鳴ります。
1分間経過するか、鳴っている間にどれかのボタンを押すと、アラームは停止します。

- カメラの電源がオンになっている場合は、指定した時刻になってもアラームは鳴りません。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。

8 設定

ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」（p.41）や「日時を変更する」（p.189）で設定した日時は、⌂（現在地）の日時として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用するとき、画像モニターに✈（目的地）として設定した国や地域の日時を表示できます。

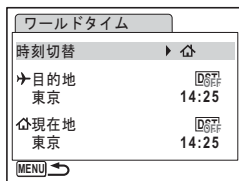
目的地を設定する

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

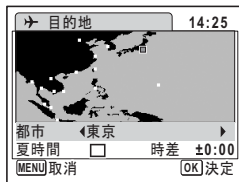
「ワールドタイム」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で✈（目的地）を選ぶ

ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST OFF
東京 14:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

4 十字キー（▶）を押す

「目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で点滅表示されます。

5 十字キー（◀▶）で、目的地都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻、位置、時差が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

8　OKボタンを押す

目的地の設定が保存されます。

9　MENUボタンを2回押す

設定した内容で撮影できる状態になります。

p.193の手順3で⌂（現在地）を選ぶと現在地の都市や夏時間を設定できます。

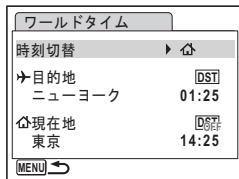
目的地の日時をカメラに表示させる（時刻切替）

1　「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「ワールドタイム」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

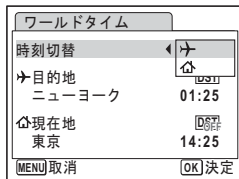
3　十字キー（▲▼）で「時刻切替」を選ぶ

ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST
ニューヨーク 01:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

4　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5　十字キー（▲▼）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

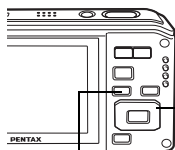
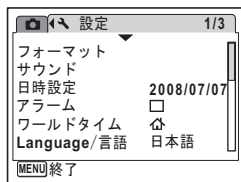
✈：目的地で選択した都市の時刻を表示
⌂：現在地で選択した都市の時刻を表示

ワールドタイム
時刻切替 ◀ ✈ ⌂
✈目的地
ニューヨーク 01:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU 取消　OK 決定

6　OKボタンを押す

時刻切替の設定が保存されます。

7　MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
📷モードに戻ったとき、ワールドタイムに切り替えた場合は、✈（目的地）アイコンが表示されます。

設定

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／タイ語／韓国語／中国語（繁体字/簡体字）／日本語の20言語に対応しています。

1　「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「Language/言語」を選ぶ

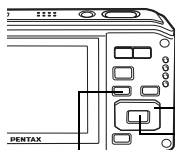
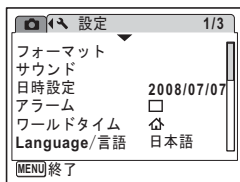
2　十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で表示させたい言語を選ぶ

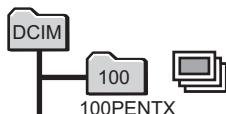
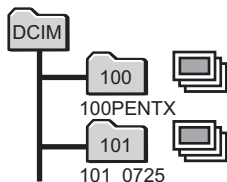
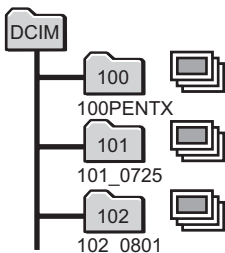
4　OKボタンを押す

選んだ言語で表示するように設定されます。

8
設定

画像のフォルダ名を変更する

画像のフォルダ名を、標準と日付で変更できます。日付に設定すると写真は撮影日ごとに違うフォルダに保存されます。

フォルダ名

標準	xxxPENTX（xxxは3桁のフォルダ番号）
日付	xxx_mmdd（3桁のフォルダ番号_月日） ※日付の表示スタイルが「日／月／年」に設定されている場合は、xxx_ddmm（3桁のフォルダ番号_日月）になります。

- フォルダは最大で900個まで作成されます。
- １個のフォルダには最大で 999 個まで画像や音声が保存されます。

1　「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「フォルダ名」を選ぶ

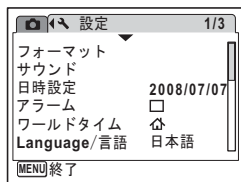
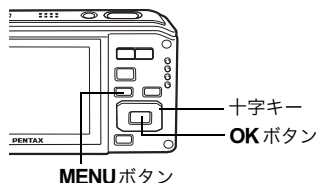
2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「標準」「日付」を切り替える

4　OK ボタンを押す

フォルダ名の設定が保存されます。

8
設定

USB接続モードを変更する

USBケーブルの接続先（パソコンまたはPictBridge対応プリンター）に応じてUSB接続モードを切り替えます。

パソコンとの接続については、別紙の『PC接続ガイド』をご覧ください。

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「USB接続」を選ぶ

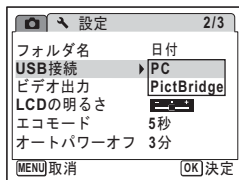
2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

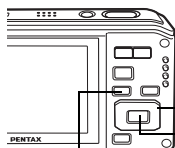
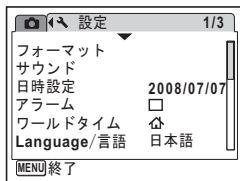
3 十字キー（▲▼）で「PC」「PictBridge」を切り替える

「PC」　　　　：パソコンに画像を転送する場合に選択
「PictBridge」：PictBridge対応のプリンターに接続する場合に選択

4 OKボタンを押す

USBモードの設定が保存されます。

「USB接続」で「PictBridge」に設定したままカメラをパソコンに接続しないでください。また、「PC」に設定したままカメラをプリンターに接続しないでください。

「🔧設定」メニューの呼び出しかた

十字キー
OKボタン
MENUボタン
MENU
設定 1/3
フォーマット
サウンド
日時設定 2008/07/07
アラーム
ワールドタイム
Language/言語 日本語
MENU 終了

ビデオ出力方式を選択する

AV機器と接続して撮影や再生をするときのビデオ出力形式を、NTSC方式とPAL方式から選択します。

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「ビデオ出力」を選ぶ

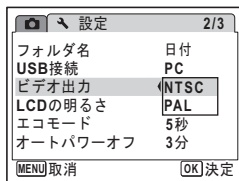
2 十字キー（▶）を押す

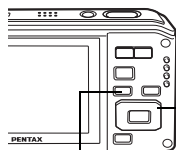
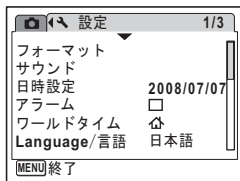
ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「NTSC」「PAL」を切り替える

接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。

4 OKボタンを押す

ビデオ出力方式の設定が保存されます。

国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。

AV機器と接続する ☞p.150

画像モニターの明るさを設定する

画像モニターの明るさを設定できます。

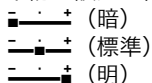
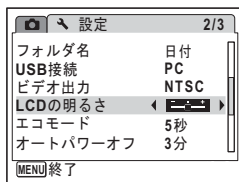
1 「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「LCDの明るさ」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で明るさを調整する

下記の設定で保存されます。

（暗）

（標準）

（明）

3 MENUボタンを押す

撮影モードまたは再生モードに戻ります。
画像モニターは、設定した明るさで表示されます。明るさを設定し直す場合は、再度同様の操作を行ってください。

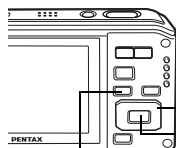
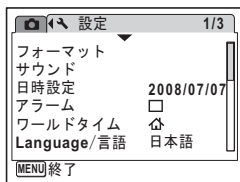
8 設定

「🔧設定」メニューの呼び出しかた

十字キー
OKボタン
MENUボタン

MENU

設定	1/3
フォーマット	
サウンド	
日時設定	2008/07/07
アラーム	□
ワールドタイム	⌂
Language/言語	日本語

MENU終了

節電機能を使う（エコモード）

一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。節電機能が働き、画像モニターが暗くなった場合は、何かのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「エコモード」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

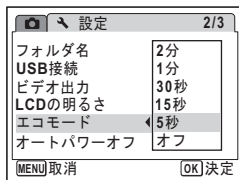
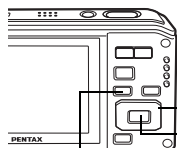
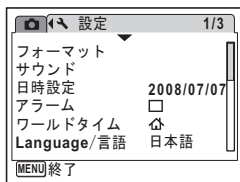
ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「2分」「1分」「30秒」「15秒」「5秒」「オフ」のいずれかを選ぶ

設定	2/3
フォルダ名	2分
USB接続	1分
ビデオ出力	30秒
LCDの明るさ	15秒
エコモード	5秒
オートパワーオフ	オフ

MENU取消　OK決定

4 OKボタンを押す

エコモードの設定が保存されます。

- 以下の場合は、エコモードにはなりません。
  - 連続撮影で撮影中
  - 再生モード中
  - パソコン／プリンター接続中
  - ACアダプター使用時
  - 動画撮影中
  - メニュー表示中
- 「5秒」に設定されている場合、電源をオンにした後、何も操作しないと、15秒間エコモードになりません。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

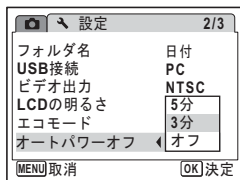
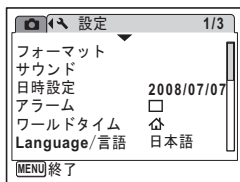
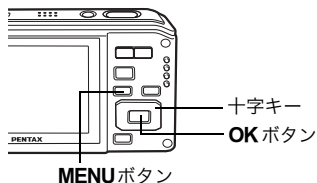
1 「設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「オートパワーオフ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「5分」「3分」「オフ」を切り替える

4 OKボタンを押す

オートパワーオフの設定が保存されます。

以下の場合は、オートパワーオフ機能が作動しません。
- （ボイスレコーディング）モードで録音中
- 連続撮影で撮影中
- 動画撮影中
- 音声再生中
- スライドショウ／動画再生中
- パソコン／プリンター接続中

クイック拡大を設定する

▶モードで画像を再生中に、ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を一度押すだけで再生画像を最大倍率の10倍まで拡大する「クイック拡大」を使用するかどうかを設定します。

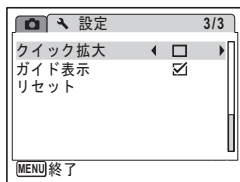
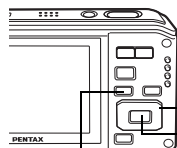
1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「クイック拡大」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）：クイック拡大を使用する
□（オフ）：クイック拡大を使用しない

3 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。設定を変更する場合は、再度同様の操作を行ってください。

8
設定

ガイド表示を設定する

撮影モードパレット(p.56)や再生モードパレット(p.62)でモードを選んだときのモードの説明を表示させるか、させないかを選ぶことができます。

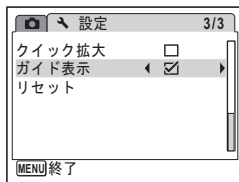
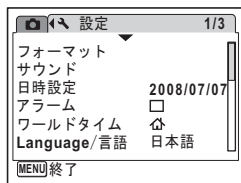
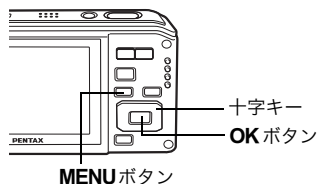
1 「設定」メニューで、十字キー(▲▼)を押して「ガイド表示」を選ぶ

2 十字キー(◀▶)で☑(オン)/□(オフ)を切り替える

☑(オン):説明を表示させる
□(オフ):説明を表示させない

3 MENUボタンを押す

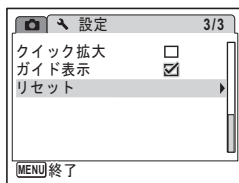
モードまたは▶モードに戻ります。設定を変更する場合は、再度同様の操作を行ってください。

8 設定

「🔧設定」メニューの呼び出しかた

設定をリセットする

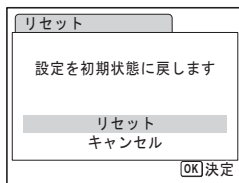
カメラの設定内容をご購入時の状態に戻します。リセット項目については「初期設定一覧」(p.209) をご覧ください。

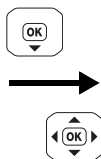
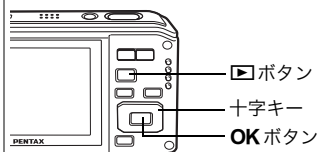
1 「🔧設定」メニューで、十字キー (▲▼) を押して「リセット」を選ぶ

2 十字キー (▶) を押す

「リセット」画面が表示されます。

3 十字キー (▲▼) で「リセット」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

設定がリセットされます。

以下の設定はリセット前のまま保存されます。
日時設定、Language/言語、ワールドタイム、ビデオ出力

リセットを行うと、デフォルトフレーム以外のフレーム合成用フレームが消去されます。必要に応じて、同梱のCD-ROM (S-SW81) からコピーしてください。(p.72)

起動画面を変更する

カメラの電源をオンにしたときに起動画面として表示させる画像を設定します。

1　▶ボタンを押す

▶モードに入ります。

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で OPTIO（起動画面設定）を選ぶ

4　OK ボタンを押す

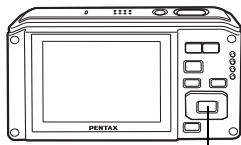
起動画面を選択するための画面が表示されます。

5　十字キー（◀▶）を押して、起動画面として表示する画像を選ぶ

6　OK ボタンを押す

起動画面の設定が保存されます。

- 設定した起動画面は、元の画像を消去したり、SD メモリーカードをフォーマットしても消去されません。
- 「オフ」を選ぶと起動画面が表示されなくなります。
- 7.5M（16：9）で撮影した画像は起動画面として設定できません。

スタイルウォッチを使う

カメラを時計のように使うことができます。電源がオフのときに**OK**ボタンを長押しすると、画像モニターに時計を表示します。

1 OKボタンを長押しする

電源がオンになり、画面に時計が表示されます。

約10秒経過すると、自動的に電源がオフになります。

また、電源スイッチを押すと、すぐに電源がオフになります。

都市名一覧

都市名：「初期設定」（p.39）やワールドタイム（p.193）で設定できる都市です。
ビデオ出力方式：「初期設定」で設定した都市のビデオ出力方式です。

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
各メニュー項目の中で初期設定値があるものについて表示内容の意味を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源をオフにしても現在の設定（ラストメモリ）が保存される。
しない：カメラの電源をオフにすると初期設定に戻る。
※　　：「する」／「しない」は「モードメモリ」（p.125）の設定による。
—　　：該当なし。

リセット設定

する　：リセット（p.204）で初期設定に戻る。
しない：リセットしても設定が保存される。
—　　：該当なし。

●「撮影」メニュー項目

名称			初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
記録サイズ			10M（3648×2736）	する	する	p.103
画質			★★（ファイン）	する	する	p.105
ホワイトバランス			AWB（オート）	※	する	p.106
AFエリア			[ ]（マルチ）	する	する	p.113
測光方式			（分割）	※	する	p.108
感度			AUTO800	※	する	p.110
露出補正			±0.0	※	する	p.96
動画	記録サイズ／フレームレート		1280（1280×720）：15fps	する	する	p.129
	カラーモード		フルカラー	する	する	p.131
	Movie SR		☑（オン）	する	する	p.132
	インターバル撮影	撮影間隔	1分	する	する	p.133
		撮影所要時間	10分	する	する	p.133
		撮影開始時間	0時間0分後	する	する	p.133
	撮影中のAF		□（オフ）	する	する	p.136
	光学ズーム		□（オフ）	する	する	p.137
インターバル撮影	撮影間隔		10秒	する	する	p.90
	撮影枚数		2枚	する	する	p.90
	撮影開始時間		0時間0分後	する	する	p.90
まばたき検出			☑（オン）	する	する	p.61
デジタルズーム			☑（オン）	※	する	p.95

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
クイックビュー		1秒	する	する	p.117
モードメモリ	顔認識モード	□（オフ）	する	する	p.59
	ストロボモード	☑（オン）	する	する	p.101
	ドライブモード	□（オフ）	する	する	p.87～p.92
	フォーカスモード	□（オフ）	する	する	p.99
	ズーム位置	□（オフ）	する	する	p.93
	MF位置	□（オフ）	する	する	p.100
	ホワイトバランス	□（オフ）	する	する	p.106
	感度	□（オフ）	する	する	p.110
	露出補正	□（オフ）	する	する	p.96
	測光方式	□（オフ）	する	する	p.108
	デジタルズーム	☑（オン）	する	する	p.95
	DISPLAY	□（オフ）	する	する	p.97、p.144
	ファイルNo.	☑（オン）	する	する	—
グリーンボタン		グリーンモード	する	する	p.118
シャープネス		（標準）	する	する	p.121
彩度		（標準）	する	する	p.122
コントラスト		（標準）	する	する	p.123
日付写し込み		オフ	する	する	p.124

●「🔧設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
フォーマット		キャンセル	—	—	p.186
サウンド	操作音量	3	する	する	p.187
	再生音量	3	する	する	
	起動音	1	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	1	する	する	
日時設定	表示スタイル（日付）	初期設定による	する	しない	p.41
	表示スタイル（時間）	24h	する	しない	
	日付	2008/1/1	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
アラーム	アラーム	□（オフ）	する	する	p.191
	時刻	0:00	する	する	
ワールドタイム	時刻切替	⌂（現在地）	する	する	p.193
	目的地（都市）	初期設定による	する	しない	
	目的地（夏時間）	初期設定による	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	する	しない	
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.39
フォルダ名		日付	する	する	p.196
USB接続		PC	する	する	p.197
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.198
LCDの明るさ		（4）	する	する	p.199
エコモード		5秒	する	する	p.200
オートパワーオフ		3分	する	する	p.201
クイック拡大		□（オフ）	する	する	p.202
ガイド表示		☑（オン）	する	する	p.203
リセット		キャンセル	—	—	p.204

● 再生モードパレット項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
Digital SR		—	—	—	p.145
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	する	p.147
	画面効果	ワイプ	する	する	
	効果音	オン	する	する	
リサイズ	記録サイズ	元画像による	—	—	p.160
	画質	元画像による	—	—	
トリミング		元画像による	—	—	p.162
画像/音声コピー		内蔵メモリー→SDカード	—	—	p.163
画像回転		正位置	—	—	p.46
デジタルフィルタ		白黒	しない	—	p.165
動画編集	静止画保存	—	—	—	p.171
	動画分割	—	—	—	
フレーム合成		デフォルト1	する	する	p.169
赤目補正		—	—	—	p.168
ボイスメモ		—	—	—	p.184
プロテクト	1画像/音声	画像/音声による	—	—	p.158
	全画像/音声	画像/音声による	—	—	
DPOF設定	1画像	枚数：0枚 日付：オフ	—	—	p.173
	全画像		—	—	p.175
削除画像復活		キャンセル	—	—	p.157
起動画面設定		オフ	する	する	p.205

● キーによる操作

名称		機能	初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
▶ボタン		動作モード	▶モード	—	—	—
ズーム/♠♠♠/♠ボタン		ズーム位置	広角端	※	しない	p.93
十字キー	▲	ドライブモード	□（標準）	※	する	p.87〜p.92
	▼	撮影モード	AUTO PICT（オートピクチャー）	する	する	p.56
	◀	ストロボモード	⚡A（オート）	※	する	p.101
	▶	フォーカスモード	AF（標準）	※	する	p.99
MENUボタン		メニュー表示	撮影モード：「📷メニュー」 再生モード：「🔧メニュー」	—	—	p.51
OK/DISPLAYボタン		情報表示	標準	※	する	p.97、p.144
顔ボタン		動作モード	顔認識オン	※	する	p.59

撮影モードごとの使える機能／使えない機能

○：設定でき、動作にも反映されます。　×：設定できません。
△：設定はできますが、動作には反映されません。

	AUTO PICT		P					
顔認識	○	○	○	○	○	×	○	○
スマイルキャッチ	○	○	○	○	○	×	○	○
顔認識オフ	×	○	○	○	○	×	○	×
（オート）	○	○	○	×	×※4	×	○	○
（発光禁止）	○	○	○	○	○※4	×	○	○
（強制発光）	○	×	○	○	×※4	×	○	○
（オート＋赤目）	○	×	○	×	×※4	×	○	○
（強制＋赤目）	○	×	○	○	×※4	×	○	○
（ソフト）	○	×	○	○	×※4	×	○	○
（標準）	○	○	○	○	○	×	○	○
（セルフタイマー）	○	○※1	○	○	○	×	○	○
（2秒セルフタイマー）	○	○※1	○	○	○	×	○	○
（連続撮影）	×	×	○	×	×	×	○	○
（高速連写）	×	×	○	×	×	×	○	○
インターバル撮影	×	×	○	○	○	×	○	○
オートブラケット	×	×	○	○	×	×	○	○
AF（標準）	○	○	○	○	○	×	○	○
（マクロ）	○	○	○	○	○	×	○	○
（1cmマクロ）	○	×	○	○	○	×	○	○
（無限遠）	○	×	○	○	○	×	○	○
PF（パンフォーカス）	○	○	○	○	○	×	○	○
MF（マニュアルフォーカス）	○	×	○	○	○	×	○	○
記録サイズ	○※18	×	○※18	○※18	△※5	△	○※18	○※18
画質	○	×	○	○	×※25	△	○	○
ホワイトバランス	×※10	×※10	○	○	○	△※8	×※10	×※10
AFエリア	×※11	×※11	○※19	○※19	○※12、19	△	○※19	○※19
フォーカスリミット	○	×※21	○	○	○	△	○	○
測光方式	×※2、3	×※2	○※3	○※3	×※2、3	△	×※2、3	×※2、3
感度	○	×※15	○	○	×※15	△	○	○
露出補正	×	×	○	○	○※6	△	○	○
デジタルズーム	○	×※27	○	○	○	△	○	○
クイックビュー	○	×	○	○	△	△	○	○
モードメモリ	○	×	○	○	○※7	○※7	○	○
シャープネス	×	×	○	○	○	△	×	×
彩度	×	×	○	○	○	△	×	×
コントラスト	×	×	○	○	○	△	×	×
日付写し込み	○	×	○	○	△	△	○	○

			WIDE					
○	○	○	○	○	○	○	○	顔認識
○	○	○	○	○	○	○	○	スマイルキャッチ
○	○	○	○	○	○	×	○	顔認識オフ
○	○	○	○	○	×※4	○	○	（オート）
○	○	○	○	○	○※4	○	○	（発光禁止）
○	○	○	○	○	×※4	○	○	（強制発光）
○	○	○	○	○	×※4	○	○	（オート＋赤目）
○	○	○	○	○	×※4	○	○	（強制＋赤目）
○	○	○	○	○	×※4	○	○	（ソフト）
○	○	○	○	○	○	○	○	（標準）
○	○	○	○	○	○	○	○	（セルフタイマー）
○	○	○	○	○	○	○	○	（2秒セルフタイマー）
○	○	×	×	×	×	○	○	（連続撮影）
○	○	×	×	×	×	○	○	（高速連写）
○	○	×	×	○	×	○	○	インターバル撮影
○	○	×	×	×	×	○	○	オートブラケット
○	○	○	○	○	×※22	○	○	AF（標準）
○	○	○	○	○	×※22	○	○	（マクロ）
○	○	○	×	○	×※22	○	○	(1cmマクロ）
○	○	○	○	○	○※22	○	○	（無限遠）
○	○	○	○	○	×※22	○	○	PF（パンフォーカス）
○	○	○	○	○	×※22	○	○	MF（マニュアルフォーカス）
○※18	×※17	×※16	×※13	×※20	○	×※20	○※18	記録サイズ
○	○	○	○	○	○	○	○	画質
×※10	○	○	○	○	×※10	×※10	×※10	ホワイトバランス
○※19	○※19	○※19	○※19	○※12、19	×※11	○※19	○※12、19	AFエリア
○	○	○	○	○	×※21	○	○	フォーカスリミット
×※2、3	○	○	○※3	○	×※2、3	×※2、3	×※2、3	測光方式
○	×※9	○	○	○	×※23	○	○	感度
○	○	○	○	○	○	○	○	露出補正
○	×	○	△	○	○	○	○	デジタルズーム
○	○	○	○	○	○	○	○	クイックビュー
○	○	○	○	○	○	○	○	モードメモリ
×	○	○	○	○	×	×	×	シャープネス
×	○	○	○	○	×	×	×	彩度
×	○	○	○	○	×	×	×	コントラスト
○	○	○	○	○	○	○	○	日付写し込み

顔認識	○	○	○
スマイルキャッチ	○	○	○
顔認識オフ	○	○	○
（オート）	○	○	×※4
（発光禁止）	○	○	○※4
（強制発光）	○	○	×※4
（オート＋赤目）	○	○	×※4
（強制＋赤目）	○	○	×※4
（ソフト）	○	○	×※4
（標準）	○	○	○
（セルフタイマー）	○	○	○
（2秒セルフタイマー）	○	○	○
（連続撮影）	○	○	×
（高速連写）	○	○	×
インターバル撮影	○	○	○
オートブラケット	○	○	×
AF（標準）	○	○	○
（マクロ）	○	○	○
（1cmマクロ）	○	○	○
（無限遠）	○	○	○
PF（パンフォーカス）	○	○	○
MF（マニュアルフォーカス）	○	○	○
記録サイズ	×※24	○※18	△※5
画質	○	○	×※25
ホワイトバランス	×※10	×※10	×※10
AFエリア	○※19	○※19	○※12、19
フォーカスリミット	○	○	○
測光方式	×※2、3	×※2、3	×※2、3
感度	○※26	○	×※15
露出補正	○	○	○
デジタルズーム	×	○	○
クイックビュー	○	○	△
モードメモリ	○	○	○※7
シャープネス	×	×	×
彩度	×	×	×
コントラスト	×	×	×
日付写し込み	○	○	△

※1 （グリーン）モード以外の撮影モードで設定した方が使用可能
※2 （分割測光）に固定
※3 顔が認識された場合は顔認識AE
※4 （発光禁止）に固定
※5 「動画」設定値に準ず
※6 撮影中は不可
※7 一部の関係ある内容は反映
※8 （マニュアル）は設定不可
※9 AUTO6400（感度50～6400に固定）
※10 **AWB**（オートホワイトバランス）に固定
※11 （マルチ）に固定
※12 （自動追尾）は不可
※13 合成後は 5M に固定（ただし、1枚目のみでは 3M 固定）
※14 （自動追尾）に固定
※15 AUTO800（感度50～800に固定）
※16 1枚の記録サイズは 2M に固定
※17 5M に固定
※18 感度が 3200 または 6400 のときは、記録サイズ 5M 固定
※19 顔が認識された場合は顔認識AF
※20 3M に固定
※21 オフに固定
※22 （無限遠）に固定
※23 感度50に固定
※24 1280（1280x960）に固定
※25 ★★★（S.ファイン）に固定
※26 AUTO調整範囲はAUTO6400のみ
※27 オンに固定

9
付録

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。（※）の製品は同梱品と同じものです。

- **電源関連**

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI78（※）

バッテリー充電器キット K-BC78J（※）
（バッテリー充電器 D-BC78、ACコードD-CO2Jのセット）

ACアダプターキット K-AC78J
（ACアダプター D-AC64、DCカプラー D-DC78、ACコードD-CO2Jのセット）

バッテリー充電器、およびACアダプターは、セットでのみ販売しております。

- **ケーブル類**

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7（※）

- **ストラップ**

O-ST20（※）

O-ST24　本革を使ったリッチなレザーストラップです。

O-ST8　シルバーに輝くチェーンストラップです。

O-ST30/O-ST81　防水加工を施したストラップです。

- **カメラケース**

O-CC48

O-CC79

O-CC81

- **プロテクタージャケット**

O-CC812　本体を傷や軽い衝撃から守るカバーです。

メッセージ一覧

カメラを使用中に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電器で充電してください。（p.25）
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.31、p.152） 撮影済み画像の画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。（p.160）
カードの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。（p.186）
カードがロックされています	SDメモリーカードがライトプロテクトされています。（p.33）
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。画質／サイズを変えて、もう一度撮影または保存してください。
画像/音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像や音声が保存されていません。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
消去中です	画像や音声を消去中に表示されます。
再生できません	このカメラでは再生できない画像や音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダが作成できません	最大のフォルダ番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.186）
プロテクトされています	プロテクトされた画像や音声を消去しようとした場合に表示されます。
記録中です	画像がまだ記録中なのに、▶モードに切り替えたとき、ファイルの保存中、プロテクト、DPOF設定記録中の場合などに表示されます。画像または設定の記録が終了すると表示が消えます。

メッセージ	内容
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカードをフォーマット中に表示されます
内蔵メモリーの空き容量がありません	ファイル保存に必要な、内蔵メモリーの空き容量がない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	画像／音声ファイルが1つもない場合に表示されます。
この画像／音声を処理できません	実行対象外ファイルの場合に表示されます。
カードが入っていません	SDカードが挿入されていない場合に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量が足りません 画像／音声をコピーできません	コピーに必要な空き容量が内蔵メモリーに残っていない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正処理に失敗した場合に表示されます。
内蔵メモリーに記録された画像／音声を表示します	内蔵メモリー参照モードに移行した場合に表示されます。
アラームを設定しました	アラームを設定して自動で電源がオフになるときに表示されます。

PictBridge機能を使用する場合に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
用紙が少なくなりました	接続したプリンターの用紙残量が少ない場合に表示されます。
用紙がありません	接続したプリンターの用紙がない場合に表示されます。
用紙が詰まりました	接続したプリンターで紙詰まりが起こった場合に表示されます。
インクが少なくなりました	接続したプリンターのインク残量が少ない場合に表示されます。
インクがありません	接続したプリンターのインクがない場合に表示されます。
プリンターエラーです	接続したプリンターからエラーメッセージが送られた場合に表示されます。
データエラーです	接続したプリンターからデータに関してのメッセージが送られた場合に表示されます。

メッセージ	内容
接続エラーです プリンターを確認してください	PictBridge接続に失敗した場合に表示されます。
印刷中です	印刷実行中に表示されます。
印刷を終了しました 続けて印刷しますか？	印刷終了時に表示されます。
印刷を中止しました	印刷中止時に表示されます。
処理できる画像がありません	印刷対象となる画像がない場合に表示されます。
DPOF設定が正しくありません	DPOF指定印刷ができない場合に表示されます。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。⊕⊖表示にしたがってバッテリーを入れ直してください。（p.26）
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください。
画像モニターに何も表示されない	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	画像モニターがオフにセットされている	**OK**/**DISPLAY** ボタンを押すと、画像モニターがオンになります。（p.97）
画像モニターの表示が確認しづらい	画像モニターの明るさが暗く設定されている	「設定」メニューの「LCDの明るさ」で明るさを調整してください。（p.199）
	節電機能（エコモード）が働いている	節電機能が働いていると、一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなります。何かのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。「設定」メニューの「エコモード」で「オフ」に設定することで、節電機能が働かないようにすることもできます。（p.200）
	表示はされているが、確認しづらい	日中屋外での撮影は、画像モニターが表示されていても、確認しづらいことがあります。画像モニターを明るく設定してください。（p.199）
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.31、152）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	被写体までの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光がとどく範囲で撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。（p.44）あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.100）
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニター中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が（発光禁止）になっている	オートまたは（強制発光）に設定してください。（p.101）
	ドライブモードが、、フォーカスモードが、撮影モードが、、、になっている	これらのモードではストロボは発光しません。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	PictBridgeモードになっている	カメラのUSB接続モード「PC」に切り替えてください。（p.197）
プリンターとのUSB接続がうまくいかない	転送モードが「PC」になっている	転送モードを「PictBridge」に切り替えてください。（p.176）

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。入れ直してから再度、電源をオンにしてカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	約1000万画素	
撮像素子	1/2.3型CCD	
記録画素数	静止画	10M（3648×2736）、7.5M（16：9）（3648×2056） 7M（3072×2304）、5M（2592×1944） 3M（2048×1536）、1024（1024×768） 640（640×480）（ピクセル）
		※感度3200または6400時は5M（2592×1944）に固定 ※Digital SRは5M（2592×1944）に固定 ※デジタルワイドは5M（2592×1944）に固定 ※フレーム合成時は3M（2048×1536）に固定 ※ベストフレーミング時は3M（2048×1536）に固定 ※パノラマ撮影時は1枚2M（1600×1200）に固定 ※高速連写時は5M（2592×1944）に固定 ※CALSモード時は1280（1280×960）に固定
	動画	1280（1280×720）：約15fps、640（640×480）：約30/15fps、 320（320×240）：約30/15fps （単位：ピクセル/fps）
感度	オート、マニュアル（ISO 50～6400） ※Digital SR（ぶれ軽減）モード時はAUTO（50～6400）に固定 ※CALSモード時、感度AUTOは（50～6400）に固定	
記録方式	静止画	JPEG（Exif2.2準拠）、DCF2.0準拠、DPOF対応、 PictBridge対応、PRINT Image Matching III対応
	動画	AVI（MotionJPEG準拠）、約30fps／約15fps（フレーム／秒）、PCM方式・モノラル音声付、フルカラー・セピア・白黒切替可、Movie SR（動画手ぶれ補正）
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：WAVE（PCM）方式、モノラル
画質	静止画	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
	動画	★★★（S.ファイン）固定　※変更不可
記録媒体	内蔵メモリー（約36.4MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード	

撮影枚数と時間
静止画

	★★★（S.ファイン）		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB
10M 3648×2736	9枚	117枚	17枚	228枚	24枚	321枚
7.5M （16:9） 3648×2056	12枚	156枚	22枚	287枚	29枚	377枚
7M 3072×2304	12枚	157枚	22枚	287枚	29枚	377枚
5M 2592×1944	14枚	188枚	27枚	355枚	38枚	503枚
3M 2048×1536	22枚	293枚	44枚	570枚	63枚	816枚
1280 1280× 960	49枚	643枚	86枚	1119枚	116枚	1511枚
1024 1024× 768	75枚	974枚	122枚	1590枚	155枚	2014枚
640 640× 480	155枚	2014枚	233枚	3022枚	259枚	3358枚

- 撮影枚数は目安です。SD メモリーカードや被写体により実際の撮影枚数は異なることがあります。
- 1280（1280×960）は（CALS）モード設定時だけの記録サイズです。

動画・音声

	撮影可能時間		音声録音可能時間	
	内蔵メモリー	512MB	内蔵メモリー	512MB
1280 15（1280×720）：15fps	34秒	7分31秒	28分53秒	6時間14分15秒
640 30（640×480）：30fps	34秒	7分31秒		
640 15（640×480）：15fps	1分8秒	14分48秒		
320 30（320×240）：30fps	55秒	11分59秒		
320 15（320×240）：15fps	1分46秒	22分53秒		

撮影時間・録音時間は目安です。SDメモリーカードや被写体により実際の撮影時間・録音時間は異なることがあります。

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル	
レンズ	焦点距離	5.0mm〜25.0mm（焦点距離の35mm換算値：約28mm〜140mm相当）
	F値	F3.5（W）〜F5.5（T）
	レンズ構成	9群11枚（非球面レンズ5枚使用）
	ズーム方式	電動式
光学ズーム	5倍	
インテリジェントズーム	7M（3072 × 2304）時 約5.9倍、640（640 × 480）時 約28.5倍（光学ズームと合わせたズーム倍率）	
デジタルズーム	最大約5.7倍（光学5倍ズームと合わせ、最大約28.5倍ズーム相当のズーム倍率）	

手ぶれ軽減	静止画	高感度ぶれ軽減モード（Digital SR）
	動画	電子式（Movie SR）
画像モニター	広視野角2.5型 約23万ドットLCD、ARコート	
再生機能	1コマ、インデックス（9画面）、拡大（最大10倍まで、スクロール可）、顔アップ再生、フォルダ表示、カレンダー表示、音声再生、ヒストグラム表示、白とび・黒つぶれ表示、選択消去、Digital SR、スライドショウ、リサイズ、トリミング、画像/音声コピー、画像回転、デジタルフィルタ、動画再生・編集（静止画保存、分割）、フレーム合成、赤目補正、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、削除画像復活、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、1cmマクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカス	
フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 9点AF（マルチ／スポット／自動追尾切替可）
	撮影距離範囲	標準　：0.5m～∞（ズーム全域） マクロ　：0.1m～約0.6m（ズーム全域） 1cmマクロ　：0.01m～0.3m（ズーム域の中間部、ズーム2～4段） ※ 無限遠、パンフォーカス、マニュアルフォーカス切替可 ※ 顔認識中のみ、顔認識AF可
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出制御	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
顔認識	最大32人まで認識可、スマイルキャッチ、まばたき検出	
撮影モード	オートピクチャー、プログラム、夜景、動画、風景、花、ポートレート、デジタルワイド、サーフ&スノー、Digital SR（ぶれ軽減）、キッズ、ペット、ベストフレーミング、スポーツ、花火、ボイスレコーディング、マーメード、マーメードムービー、夜景ポートレート、テキスト、料理、パノラマ、フレーム合成、CALS、グリーン ※顔認識中のみ、顔認識AE可	
デジタルフィルタ	白黒、セピア、赤、桃、紫、青、緑、黄、ソフト、色抽出（赤、緑、青）、明るさ、フィッシュアイ	
動画	連続録画時間	約1秒～内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱいまで（ただし最大で2GBまでの制限あり）
シャッタースピード	1/1500秒～1/4秒、最長4秒（夜景モード）	
内蔵ストロボ	発光モード	自動発光、発光禁止、強制発光、自動発光+赤目軽減、強制発光+赤目軽減、ソフトフラッシュ
	調光範囲	広角時 約0.3m～約3.9m （感度オートの条件において） 望遠時 約0.4m～約2.5m （感度オートの条件において）
ドライブモード	1コマ撮影、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後）、連続撮影、高速連写、インターバル撮影、オートブラケット	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	

時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
	スタイルウォッチ	電源オフ時に **OK**/**DISPLAY** ボタン長押しで時刻表示（約10秒間）
	アラーム	指定時間にアラームと同時にスタイルウォッチを表示
電源	専用リチウムイオンバッテリーD-LI78、ACアダプターキット（別売）	
電池寿命	撮影可能枚数 約205枚	※ 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃）
	再生時間 約200分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	動画撮影時間 約75分	
	音声録音時間 約240分	
外部インターフェイス	USB 2.0（ハイスピード対応）／PC/AV端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
PictBridge	対応プリンター	PictBridge対応のプリンター
	印刷モード	1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
	用紙サイズ指定	カード、L、2L、はがき、100mm×150mm、4"×6"、8"×10"、レター、11"×17"、A4、A3、プリンター設定
	用紙タイプ指定	★★★、★★、★、プリンター設定
	印刷品質設定	★★★、★★、★、プリンター設定
	ふち指定	あり、なし、プリンター設定
防水・防塵機能	JIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級5級（IP58）準拠　水深4m、連続2時間の水中撮影が可能	
外形•寸法	約98.0（幅）× 55.5（高）× 24.5（厚）mm（操作部材、突起部を除く）	
質量（重さ）	本体約125g（バッテリー、SDメモリーカード含まず） 約145g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、使用説明書、簡単ガイド、PC接続ガイド、保証書	

索引

9
付録

さ行

た行

な行

は行

9
付録

ま行

ら行

わ行

9
付録

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後 1 年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ

PENTAX イメージング・システム事業部　東京サービスセンター

03-3975-4341（代）
〒175-0082 東京都板橋区高島平6-6-2
ペンタックス流通センター内
営業時間：　午前9:00～午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

PENTAX イメージング・システム事業部　大阪サービスセンター

06-6271-7996（代）
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間：　午前9:00～午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.jp/**

[弊社製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター

ナビダイヤル 0570-001313
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS および IP 電話の方は、右記の電話番号をご利用ください。 **☎03-3960-3200**

〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

営業時間 午前 9：00 ～午後 6：00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

HOYA株式会社
PENTAX イメージング・システム事業部
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

53385

H02-200806
Printed in China